国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裏面白紙

国立公文書館
国立公文書館
分類 法務省
平成11年
排架番号 4A
18
2078

[redacted]

DOCP/699
E 1103
22
(11)

政府統帥部連絡会議
（昭和十六年）

（朝日記事抄）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOCP/699
E 1103
22
(1/1)

政府統帥部連絡会議

（昭和十六年）

（第四回記事抜）

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 1

DOC 169

會議	日時	場所	決定	出席者	議題	決定
政府統帥部連絡懇談会	昭和十六年一月十三日午後六時〇一九三〇（於日黒茶寮）			近衛首相 東條陸相 杉山參謀總長 富田内閣書記官長 阿南陸軍次官 武藤陸軍省軍務局長 塚田參謀本部部長 田中參謀本部第一部長 豊田海軍次官 岡海軍省軍務局長 近藤軍令部次長 宇垣軍令部第一部長	懇談	
政府統帥部連絡懇談会	昭和十六年一月十六日午前二〇〇一（於首相官邸）			近衛首相 平沼内相 松岡外相 東條陸相 及川海相 塚田參謀次長 近藤軍令部次長	重要連絡懇談	
政府統帥部連絡懇談会	昭和十六年一月十七日午前九〇一一一〇〇（於首相官邸）			近衛首相 平沼内相 松岡外相 東條陸相 及川海相 杉山參謀總長 近藤軍令部次長	重要懇談	

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 2

DOC 1699

政府連絡部長会議	政府連絡部長会議	政府連絡部長会議	政府連絡部長会議
昭和十七年一月十九日 午前十時 (於官邸)	昭和十七年一月二十日 午前十時 (於官邸)	昭和十七年一月三十日 午後四時三十分 (於官邸)	昭和十七年二月二十日 午後二時 (於官邸)
前回ノ通リ	前回ノ通リ	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 鈴木企画院総裁 武藤軍務局長 岡軍事課長 富田内閣書記官長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 鈴木企画院総裁 武藤軍務局長 岡軍事課長 富田内閣書記官長
重要懇談	当面ノ問題ニ付キ懇談	終ノ懇談	当面ノ問題ニ付キ懇談
			終ノ懇談
			松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 村山大蔵総裁

4

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No.3

DOC 1699

	政府統帥部 連絡懇談会	政府統帥部 連絡懇談会	政府統帥部 連絡懇談会
	昭和十六年十月二十日 午前一〇、〇〇 (於首相官邸)	昭和十六年十月二十日 午前一〇、〇〇 (於首相官邸)	昭和十七年三月二日 午前九、〇〇―一一、三〇 (於総理官邸首相執務室)
近藤軍令部次長 富田内閣書記官長 武藤陸軍省軍務局長 岡敬軍務局長	松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山参謀総長 近藤軍令部次長 武藤陸軍省軍務局長 岡敬軍務局長	松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山参謀総長 近藤軍令部次長 武藤陸軍省軍務局長 富田内閣書記官長	近衛首相 東條陸相 及川海相 松岡外相 平沼内相 武藤陸軍省軍務局長 富田内閣書記官長 杉山参謀総長 近藤軍令部次長
	於近衛首相官邸 中心に種々懇談	當面の問題について 種々懇談	懇談

5

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 4

doc 1699.

枢密院第一委員会	御前会議	枢密院第二委員会
昭和十六年九月六日 午前十時開会 午後二時散会 （於首相官邸）	昭和十六年九月六日 午前十時開会 午後二時散会 （於首相官邸）	昭和十六年九月十日 午前十時開会 午後一時散会 （於首相官邸）
近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 於武彦綠德長 富田内閣書記官長 近藤軍令部次長 武藤軍務局長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 於武彦綠德長 近藤軍令部次長 富田内閣書記官長 武藤軍務局長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 於武彦綠德長 近藤軍令部次長 富田内閣書記官長 武藤軍務局長 [illegible]
總說	總說	總說

6

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 5

DOC 1699

政府統帥部連絡懇談会	政府統帥部連絡懇談会	政府統帥部連絡懇談会
昭和十三年四月十日午後四時三〇分 （於首相官邸）	昭和十三年四月十七日午前 （於首相官邸）	昭和十三年五月三〇日午後一〇時一〇分 （於首相官邸）
近衛首相 東條陸相 及川海相 平沼内相 大橋外務次官 杉山参謀總長 永野軍令部總長 武藤陸軍省軍務局長 岡海軍省軍務局長 富田内閣書記官長 懇談。	近衛首相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山参謀總長 永野軍令部總長 大橋外務次官 武藤陸軍省軍務局長 岡海軍省軍務局長 富田内閣書記官長 當面の問題に付懇談。	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山参謀總長 永野軍令部總長 懇談。

7

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 6

DOC 1699

	政府統帥部連絡懇談会		
	昭和十六年十一月八日 午前八時一〇分 (於官邸)	昭和十六年十一月十日 午前五時一〇分 (於官邸)	
武藤作戦課長 岡海軍軍務局長 富田内閣書記官長	近衛首相 平沼内相 松岡外相 東條陸相 及川海相 杉山参謀総長 永野軍令部総長 富田内閣書記官長 武藤作戦課長 岡海軍軍務局長	近衛首相 平沼内相 松岡外相 東條陸相 及川海相 杉山参謀総長 永野軍令部総長 富田内閣書記官長 武藤作戦課長 岡海軍軍務局長	
	懇談	懇談	

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOC 1694

政府統帥部連絡懇談会	政府統帥部連絡懇談会	政府統帥部連絡懇談会
昭和十六年五月十二日 午前二、〇〇一 （於首相官邸）	昭和十六年五月二十二日 午前二、〇〇一年五月一〇日 （於首相官邸）	昭和十六年五月二十九日 午前一〇〇一年五月一〇〇 （於首相官邸）
近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 富田内閣書記官長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍 杉山参謀総長 永野軍令部総長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 富田内閣書記官長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍 杉山参謀総長 永野軍令部総長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山参謀総長
懇談	懇談	懇談

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 8

DOC 1694

	政府統帥部連絡総談会	政府統帥部連絡総談会
	昭和十六年六月六日 午前九時一〇分 （於首相官邸）	昭和十六年六月十一日 午后三時 （於首相官邸）
永野軍令部総長 富田内閣書記官長 武藤陸軍省軍事課長 岡海軍〃	近衛首相 松岡外相 平沼内相 東条陸相 及川海相 永野軍令部総長 横山参謀次長 武藤陸軍省軍事課長 岡海軍〃 富田内閣書記官長	近衛首相 平沼内相 松岡外相 東条陸相 及川海相 永野軍令部総長 武藤陸軍省軍事課長 岡海軍〃 富田内閣書記官長
南面の指向問題と つき協議	南面の重要問題と つき態様	

10

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

doc 169.9

404

政府統帥部連絡懇談會	政府統帥部連絡懇談會	政府統帥部連絡懇談會
昭和十六年十二月十二日 午前一一〇〇ヨリ （於首相官邸）	昭和十六年十二月十八日 午前十一三〇 （首相官邸）	昭和十六年十二月二十五日 午前一一三〇 （於首相官邸）
近衛首相 平沼内相 松岡外相 東條陸相 及川海相 杉山參謀總長 永野軍令部總長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍 富田内閣書記官長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山參謀總長 永野軍令部總長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍 富田内閣書記官長	近衛首相 松岡外相 東條陸相 及川海相 平沼内相 杉山參謀總長
總說	右面の事項につき總說	右面の内容につき懇談

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 10

DOC 1699

	政府統帥部連絡懇談會 昭和十六年六月二十五日 午前一〇、〇〇― （於首相官邸）	政府統帥部連絡懇談會 昭和十六年六月二十六日 午前一〇、一〇― （於首相官邸）
永野軍令部總長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍〃 富田内閣書記官長	近衛首相 松岡外相 平沼内相 東條陸相 及川海相 杉山參謀總長 永野軍令部總長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍〃 富田内閣書記官長	近衛首相 東條陸相 及川海相 松岡外相 平沼内相 大橋次官 杉山參謀總長 塚田參謀次長 永野軍令部總長 近藤軍令部次長 武藤陸軍軍務局長 岡海軍〃 富田内閣書記官長
	南面の問題について懇談	南面の問題につき重要懇談

12

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 11

DOC 1699

政府統帥部連絡総談会	政府統帥部連絡総談会	大本営陸海軍部政府連絡会議
昭和十六年六月二十七日 午后六、三〇― （於首相官邸）	昭和十六年六月二十七日 午后二、〇〇― （於首相官邸）	
前回ニ同シ	近衛首相 松岡外相 平沼内相 東條陸相 及川海相 豊田次官 岡軍務局長 武藤軍務局長 富田内閣書記官長 近藤軍令部次長 永野軍令部総長 橋田参謀次長 杉山参謀総長 佐本外務省政務局長	
前日に引きつづき当面の重要問題につき論議	帝国の重要国策につき意見交換	
		昭和十六年六月三十日 午后二、〇〇― （於首相官邸）
	前回ニ同シ	
	懇談	政府大本営に於ける左の会議に関し諮詢第の案一部 （内閣総理大臣は外務大臣兼企画院総裁の国務大臣と共に陪席） 昭和十六年七月二日 午后四、〇〇― （於宮中大本営） 大本営陸海軍部 政府連絡会議 大本営に於ける陸海軍の作戦に関する重要事項に関し協議決定する

13

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 1699 (cut)

1

證　　明

「ワシントン」文書局　第　　號

國際檢察部　第一六九九號

　　典拠及ビ公正ニ關スル證明

余、栗山重平ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ内閣
事務官トシテ、日本政府ト公的關係ニ在ルモノナ
ルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ玆ニ添附セラレタ
ル、二十一頁ヨリ成ル、千九百四十一年／昭和十
六年附、下記題名、即チ政府統帥連絡會議（昭和
十六年）（朝日記事抄）ノ文書ノ保管ニ任ジ居ルコ
トヲ玆ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記錄及ビ文書ガ日本政府ノ公文書
ナルコト、並ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ局ノ公式
書類及綴ノ一部ナルコトヲ證明ス。（若シアラバ綴
番號又ハ引用、其ノ他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ成規所在
ノ公式名稱ヲモ特記スベシ）

千九百四十六年／昭和二十一年／九月十六日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名　栗山重平

右ノ者ノ公的資格　内閣事務官

證人　平松一道

14

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 1699 (cont)

2

公式入手ニ關スル證明

余、2qLT. ERIC W. FLEISHERハ、余ガ聯合國最高指揮官總司令部ニ關係アルモノナルコト、竝ニ上記通名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

千九百四十六年／昭和二十一年／九月十六日

東京ニ於テ署名

氏名 ERIC W. FLEISHER・2qLT・USMI

右ノ者ノ公的資格

證人

15

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Ex. 1104
P2216-1

(16) II
245

Situation Statement.

極東国際軍事裁判所

亜米利加合衆国、中華民国、大不列顛北愛蘭聯合王国、「ソビエット」社會主義共和国聯邦、濠洲聯邦、加奈陀、佛蘭西共和國、和蘭王国、新西蘭、印度及比律賓國

對

被告ー荒木貞夫、土肥原賢二、橋本欣五郎、畑俊六、平沼騏一郎、廣田弘毅、星野直樹、板垣征四郎、賀屋興宣、木戸幸一、木村平太郎、小磯國昭、松井石根、松岡洋右、南　次郎、武藤　章、永野修身、岡　敬純、大川周明、大島　浩、佐藤賢了、重光　葵、嶋田繁太郎、白鳥敏夫、鈴木貞一、東郷茂徳、東條英機、梅津美治郎、

。　。　。　。　。

亜米利加合衆国、紐育州サツフオーク[illegible]ー署名英印

予・ヘンリー・エル・スチムソン、正式ニ宣誓シ、宣ッテ證言ス。

予ハ一九二九年（昭和四年）三月五日ヨリ一九三三年（昭和八年）三月四日マデ、亜米利加合衆国ノ國務長官デアッタ。是ヨリ後一九二八年（昭和

16

塩原二

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-2

三年ノ比律賓群島統治ニ任命サレ同総督長官ニ就任スルニ及ヒ其任ニアツタ。

予個人トシテノ観察及報告ヲ基礎トシ並ニ予ノ職務中ニ達入ツタ情報ニ基キ次ノ記事ガ確実ナルコトヲ確信スル。

予ガ同総督長官ニ任官セル時日本ハ亜米利加合衆国及他ノ諸国ト共ニ左記諸條約、協定並ニ其他ノ締約国デアリ、又其ノ中ニ表明セラレタ主義ニ同意シタノデアツタ。

(一)国際紛争平和的處理ニ關スル條約

一八九九年(明治三十二年)七月廿九日海牙ニ於テ署名セラル。

(二)國際紛爭平和的處理ニ關スル條約

一九〇七年(明治四十年)十月十八日海牙ニテ署名セラル。

(三)開戰ニ關スル第三回海牙條約

一九〇七年(明治四十年)十月十八日署名セラル。

(四)亜米利加合衆國及日本間覺書交換ニ依リ成立セル協定

一九〇八年(明治四十一年)十一月三十日ニ署名シ、其ノ極東ニ於ケル政策ヲ愛表ス。

(五)太平洋ニ於ケル島嶼屬地並ニ島嶼領土ニ關スル

17

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-3

領土ニ関シ、日本及亜米利加合衆国ノ間ニ於ケル條約　一九二一年（大正十年）十二月十三日

(六)亜米利加合衆国、全英帝国、日耳曼、中國、仏蘭西、伊太利、日本、和蘭、葡萄牙、間ニ於ケル條約、一九二二年（大正十一年）二月六日華府ニ於テ成立署名セラレ九ケ國條約トシテ知ラル。

(七)一九二八年（昭和三年）八月廿七日巴里ニ於テ、成立署名セラレタル條約

ケロッグーブリヤン協約並ニ巴里協約トシテ知ラル。

(八)右ニ於ケル中立國並ニ中立國人ノ權利義務竝ニ關スル條約

海牙ニ於テ一九〇七年（明治四十年）十月十八日署名セラル。

右ニ列擧セル諸條約、諸協約及諸協定其ノ他ノ諸約國トシテ又ハ其レニ表示セラレタル主要ノ同盟國トシテ、日本ハ戰中以下ニ同意セリ。

國際不和ノ平和的處理保障ノ爲メ最善ノ努力ヲスルコト。重大ナル意見ノ相違又ハ衝突ノ場合、武力ニ訴フル前、事情ノ許ス限リ、（一國又ハソレ）以上ノ友好國ノ局能又ハ居中調停ヲ依賴

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-4

スルコト。事前ノ明示的ナシニ敵対行為ヲ開始セザルコト。

太平洋地區ニ於ケル現狀維持及中國ニ於ケル商工業ニ對スル機會均等主義ヲ守リ、中國ノ獨立並ニ保全ヲ支持スルコト。太平洋問題ニ付キ何等カ紛爭アル場合、他ノ締約國ヲ含ム會議ニ召請スルコト、中國ノ主權、獨立、領土行政ノ保全ヲ尊重スルコト。

中國全土ニ亘ル全國家ノ商工業ニ對スル都會均等主義ヲ實際ニ適設シ、保持スルタメ盡力スルコト。

中國ニ於テ他ノ諸外國又ハ、ソレ等ノ國民ノ權利又ハ利益ニ有害トナルガ如キ特別的又ハ獨占的特權ヲ求ムルコトヲ自制スルコト。國際間ノ紛爭解決ノ爲メ戰爭ニ訴フルコトヲ廢棄スルコト及國策ノ具トシテノ戰爭ヲ否認スルコト。

中立國領土ヲ通過シテ軍隊又ハ軍隊送附ヲ動カサザルコト。

一九三一年（昭和六年）滿洲ハ事實上及ビ法律上ニテモ中國ノ一部分デアッタ。日本ハ滿洲ニ於テ或ル例外的權利ヲ要求シタ。ソシテ之等ノ權利ノ多クノモノハ當ニ武力ニ主張サレタガ異議ノ中立ヲ受ケザル區域ヲ以テ立證サレ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-5

ナカツタ。日本ノ要求ガ表イテキタ條約ノ或ル
モノハ正當ナルモノデモナク又強迫ニ依リ得リ
タサレタト中國ニ於リ主張セラレタノデアル。
然ルニ之等ノ條約ヲ口實トシテ、日本ハ歷史ヲ
許可サレテキル武裝兵力ニ依ヅキ南滿洲鐵道沿
線ノ至ル所ニ且リ行政權及警察權ヲ行使シタノ
デアル。之等ノ場合中ニハ町並ニ市天及長春ノ
如キ一部ノ都市モ包マレテ居タノデアル。

滿洲ニ於ケル經濟和益ノ存在及重要性ニ關ス
ル日本人ノ見持ニ於テハ、何等分裂ハナカツタ
ガ、其ノ利益ヲ維持シ且ツ强化セシムル方法ニ
關シテ日本ニ於ケル政治思想ニ根本的相異
ガアツタ。此ノ異ハ大体一方ニ於テ民政思想ニ
從フ指導者達ト他方係守的並ニ軍事的指導者ト
ノ間ノ系列ニ表顯スルノデアツタ。此ノ後者ノ
關係ノ政長ハ武斷的ニハ軍事力ニ依存シ、日本
ノ態度ハ政治的並ニ主體的ナリト信ジタ。

一九三一年（昭和六年）九月十八日夜滿洲ニ
於テ武力政策行使ガ勃發シ日本軍ハ奉天市ヲ占
領スルノミナラズ南滿洲ニ於ケル他ノ都市ヲモ
占領シタ。日本人ヲシテ長ノ行動ヲ引起コサザ
ルヲ得ナカツタト日本人ニ依リ主張サレタ。
即チ中國人ニ依ル南滿洲鐵道ノ妨害行爲ト主張

20

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-6

サレタ。

事件ハ小部分ニ減少シテゾレノ事実上ノ非存在ヲ強ク暗示シタ程デアツタ。

其ノ間ニ日本軍ハ着メ準備シタ最略計畫ニ基イテ行動シタルモノナルコトヲ明白ナラシムル程ソレ程迅速ニ行動シタコトガ判明シタノデアル。

一九三一年（昭和六年）九月十九日午後マデニ安東、長春及牛莊ノ如キ各々数百哩離レテホル都市ハ日本軍ニ占領サレ、日本軍ハ直チニ之等都市ノ民營局トシテノ其位ニ就イタノデアツタ。四十八時間内ニ全南滿鐵道沿線ノミナラズ中國人ノ経営セル鐵道ノ若干ノ沿線迄モ事實上先ヅシテ占領サレタノデアツタ。諸點ニ於ケル日本最高當局ニ依リ、多分京ノ最高軍司令官ヨリノ指示ニヨリ計畫セラレ承認セラレタル入念ナル行動ヲ最終ハ指揮シタノデアツタ。

一九三一年（昭和六年）九月廿五日奉府ニ於ケル日本大使ハ一九三一年（昭和六年）九月廿四日日本内閣ノ臨時閣議ノ後認セラレタ聲明ヲ米國國務次官ニ委託シタ。此ノ聲明中ニ九月廿一日一枝ノ兵ガ長春ヨリ吉林ニ派遣サレタガ、之レハ軍事的占領ヲ目的トスルモノニアラズシテ

裏面白紙

2216-7

單ニ南滿洲鐵道附面ニ對スル脅威ヲ除去スルヲ以テ目的トスルモノデアリ、然シテ當日ノ目的ガ達成サルヽト同時ニ該軍ハ徹退セラルルデアラウトノ一ツノ保障ガ含マレテヰタ。此ノ聲明ニハ日本政府ハ滿洲ニ領土的野心ヲ絶カズト云フ重要ナル保障ガ含マレテヰタ。日本側ノ此ノ聲明ニ國タル保障ニ次ギ、早クモ十月八日于ハ官京駐在米國代理大使ヨリ日本參謀本部ハ外國武官ニ對シ日本ハ日本軍ヲ其ノ原驻地又ハ鐵道沿域ニサヘモ徹退セシメ得ザルコトヲ發見セリト宣ベタル情報公表ヲ爲セリト報告サレタノデアツタ。

一九三一年（昭和六年）九月十九日日本軍ノ奉天占領ノ後、中國政府及中國軍隊ノ本部ハ錦州ヘ移サレタ。九月三十日ノ後、尚モナク在滿日本軍最高司令官、本庄大將ハ奉天元帥ノ政府ハ日本ノ承認ヲ最早ヤ受ケテイデアラウト公的ニ發表シタ。日本軍ハ張學良元帥及後ノ政府ガ完全ニ滿洲カラ追放セラルヽ迄ハ日本軍ノ活動ヲ中止セザルトノ旨ヲ聲明ガ次イデ參セラレタヽ

之等ノ聲明ガ東京政府カラ此責セラレザルノミナラズ却テ日本軍用機ハ最モ峻烈ナル方法

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-8

ニテ此ノ政策ヲ実行シ始メタノデアル。

一九三一年（昭和六年）十月八日十一機ノ日本飛行機ヨリ成ル編隊ハ錦州ノ飛行場ヨリ約四十哩ノ地点ヲ投下シソノ住民多数ヲ殺傷シタノデアル。之レハ明ラカニ、計画シ得ベカラザル暴行為デアツタ。十月下旬満洲ニ於ケル日本高級司令官ハ北満洲探察哈爾ニ軍隊ヲ派遣シタ。此ノ地ハ前掲協約地域ノ如何ナル部分ヨリシテモ北方数百哩アツタ。ソシテ日本ガ主張セル如何ナル条約上ノ権利ノ如何ナル延長ヨリモ遠カ外域デアツタ。此ノ遠征軍ハ中国ノ馬占山将軍ノ部隊ヲ敗北サセ駆逐シタ。斯クテ北満洲ニ於ケル張元帥ノ総テノ部隊ヲ駆逐シタノデアツタ。

斯様ニ哈爾濱占領ハ全満洲ノマヽ、現存シ居ル満洲ノ唯一ノ残リタル地区トナツタノデアル。然シテ十一月下旬迄ニ日本軍ハ全満方面ヘ行動ヲ開始シタ。予ハ合衆国ノ為メニ外交上ノ権ヲ濫ジテ強硬ナル異議ヲ申立テタ。而シテ一九三一年（昭和六年）十一月廿八日日本軍ハ奉天鉄道ヲ回復シタノデアツタ。一九三一年（昭和六年）十一月廿四日日本外務大臣ハ亜米利加大使ニ「首相、陸軍大臣、参謀総長及彼ハ全満方面ニハ軍隊行動ヲラザルコト及其ノ旨ヲ已ニ命令サレタリ」ト述ベタ。然ルニ一九三一年（昭和六年）

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-9

十二月十一日以後金州方面ヘノ行動ヲ採メラレ、ソシテ金州ハ一九三二年（昭和七年）一月三日日本軍ニ攻略サレタノデアツタ。其ニ至テ張元ノ提出シタル覚書ノ新条ハ完成シ且満洲ノ支配ハ日本人ノ手ニ移シタノデアツタ。

一九三一年（昭和六年）十月廿六日日本政府ハ中国ト日本間ノ善隣関係ガソレニ依ルベキ基礎的諒解ヲ公表シタ。然ルニ於ケル日本ノ行為中ノ前記上ノ機密ニ関スル会談ノ結決ヲ抱含シテキタト雖時ハ見エタノデアツタ。日本ノ代表ハ日本ノ国家目的ヲ成就スル為メ武力ヲ使用スル意図ヲ否認シタガ、日本ガ武力行使ヲナス事ヲ決心シタ事ハ明白ラシカツタ。日本事態ハ収退セズ。更ニ実際上前進シツヽアリ、両国間ニ於ケル国策上ノ全テノ基礎的問題ノ解決セラルヽマデハ日本政府ハ干渉ヲ拒絶シテキタノデアツタ。

一九三一年（昭和六年）十二月廿二日予ハ東京ノ米国大使ヨリ一通ノ電報ヲ受取ツタ。ソノ中デ大使ハ日本ノ幣原大臣ガ米国大使ヲ訪問シ大使ニ対シ、日本ハ隣邦ノ危険ノ恐レアル事態ガ満洲ニ於テ出来スルコトヲ決シテ許サナイシ、又中国ノ主権ハ依シテ擁護サレヌト宣ニ保障シタト述ベタ。首相ハ日本ハ国ニ日本人及日本ノ利益ノ保護

24

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-10

ヲ希望シタノデアルト繰返シテ云ツタ。尚重要中ニ於ケル米国大使ハ満洲ニ於ケル今後ノ行動ニ対スル活動ナル事実ガ表サレ満洲ニ於テハ貿ニ自由ガ失ヘラレタ旨ニ具エルト共ニ告シタ。

仍テハ一九三一年（昭和六年）十二月廿二日在日米国大使ニ会ヒノ前ニテ日本軍ノ中国正規兵ニ対シタル敵対行為ラニ関スル予ノ危惧ヲ日本外務大臣ニ通告スルコトヲ訓ジタし予ハ大使ニ要求シテ外務大臣ニ日本軍ノ中国正規兵ニ対スル新シイ攻撃ハ不法ト見做サレ且ツ日本及中国ニ正米利益合衆国モ満洲ニ於ケル私々ナル条約ヨリ推定サレタル権利ニ関心ナルヲ表示スルト解釈サレルデアラウト告ゲサセタ。

一九三一年（昭和六年）十二月廿七日予ハ米国大使ヨリ一通ノ書翰ヲ受取ツタ。其書翰ハ外務次官ヨリ彼ニ手交シタルモノニシテ帝国政府ハ国際聯盟ノ態度ニ関スル自国ノ態度ニ関スル二ツノ決議ニ関シ、中華タランコトヲ決意シタ事ヲ述ベテキタ。一九三一年（昭和六年）十二月廿九日中国ニ於ケル米国公使ハ予ニ対シテ支那ハ全中国軍ノ撤退カラノ約束ヲ命ジタト報告シ、華北ニ於ケル帝国ノ権益ニ関スル如何ナル口実ヲモ日本カラ奪

裏面白紙

2216-11

フ念ニ依リ声明付ケラレタト思ベタ。一九三二年（昭和七年）一月七日予ハ日本ト中国ノ間ニ発生セヲ恐リ亜米利加合衆国ハ事実上ノ如何ナル承認ノ合法性ヲ許容スルコトハ固来ナイ、ソシテ中国ニ於ケル亜米利加合衆国ニソノ市民ノ権利上ノ和ヲ害スルコトアルベキ、主義得立、中国ノ領土並行政的保全又ハ中国ニ関スル門戸開放、並ニ門戸開放主義トシテ知ラレテキルモノ、又亜米利加合衆国ハ一九二八年（昭和三年）八月廿七日ノパリ協約ノ条項ニ違反スルコトニ依リ生スルコトアルベキ如何ナル事態、協定ヲ承認セズト告ゲタノデアツタ。

一九三二年（昭和七年）一月十六日日本政府ハ一月七日附ノ我ガ覚書ニ関シ同答ヲナシタ。前覚書ノ内容ハ、中国ハ不安定デアリ、混乱状態ニアリ、本事実ハ九ケ国條約ノ違約及ビ国際聯盟規約ノ実行スル義務カラ日本ヲ解放スルモノデアルトノ主旨デアツタ。コレヲ日本ガ満洲最大ノ作戦ヲ以テ開始スル数ニナツタト云ツテモ差支ヘナイデアラウ、併シソレハ「リットン」調査団ノ一部セル報告ニ依リ真実ナラズト不安ナリトシテ拒否サレタノデアツタ。

一九三二年（昭和七年）一月中旬ニ満洲ニ於

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-12

ケル日本ノ優越ハ厳然シタルモノト思ハレタ。

一九三二年（昭和七年）五月一日ニ日本ハ錦子江新義州ノ各地行幸ヲ敢行セセ、ソシテ上海ニ於ケル中国人ガ日本人ノ参観ニ対シ絶交的共同排斥ヲ持続セントスル努力ヲ粉砕シタノデアツタ。

斯所デ日本軍ハ中国兵ニ依リ阻止サレ軍事的退行ヲ受ケタ。

上海周辺ノ戦闘ニ於テ一九三二年（昭和七年）一月廿八日日本軍ハ総攻撃、敵方ノ閘北ノ一部中国人街ヲ焼払シタ。之レハ無傷ヲ許シ得ザル砲撃行為デアツタ。茲ニ中国軍ノ保持スル陣営ニ対シ砲撃ガ行ハレタノミナラズ、銃爽弾ヲ用ヒテ各地区ヲ全ク焼セシメタノデアツタ。其ノ後上海ノ警察ヲ掃蕩シ、軍隊ノ武装解除ヲナシ、正当ノ市政ヲ全然麻痺シタノデアツタ。中国人ニ対スル多数ノ不法ガ行ハレ、多クノ部分ガ含マレテ居リ、茲クノ砲撃時ガ因ヲ成シタノデアツタ。日本軍隊ハ上海ニ於ケル米国ノ商船ヘサヘモ侵入シテソコデ中国人ニ砲ヲ発行ヲ行ツタノデアツタ。一九三二年（昭和七年）二月廿日日予ハ上海ノ外交団代表委員長、上院議員「ボラー」氏ニ書ヲ送リ其ノ使用ニ関スル中国ニ於ケル情勢

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-12

ニ巨シスル米国政府ノ立モ及ビ政策ノ要領ヲ述ベタ。

日本軍ガ満洲ニ於ケル中ニ政府ヲ樹立シタ直後、日本ハ其ノ国ニ政治上経済上ノ支配ヲ確立セント着手シタ。表面ハ独立ナル形式ハ日本ニ支配セラレ、各国ハ門戸トシテ知ラレル傀儡国家ヲ組織スルニ在リコレハ成サレタルコトニ依リコレハ成サレタノデアツタ。

其後中ノ満国ガコノ種ノ政府ノ性質ヲ正当ナルモノトシテ認メザルノ意思表示ヲ為スヤ否ヤ、日本政府ハ世界ノ他ノ部分ノコノ政策ヲ因ホル丈ケ巨細ニシ無力ニスベク着手サレタ一層ノ事ヲ手掛ヲ取ルコトニ着手シタノデアツタ。

一九三二年（昭和七年）四月廿日衆議院日本大使ハ予ヲ訪問シ会談中日本ガナシタ種々ノ約束ガシテ居ルコトヲ認メ、シカシ日本ニ於テハ約束ナル語ハ非常ニ強イノデ政府ハ他ノ如何ナル語ヲモ使用スルコトガ出来ナカツタト云ツタ。一九三二年（昭和七年）六月廿三日予ハ在京英米仏大使「グルー」ヨリ日本大臣荒木大将ガ軍事会議ニ於テ演説シタ満洲国ニ関スル意ノ報告ニ日本ガナシタ種々ノ約束ニ日本ガ東京スルト声明スルヲ新聞ガ英米ニ加ニ打チセリ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2216-14

トノ件ヲ述ケタ。

一九三三ノ（昭和八年）一月五日在華府日本大使ハ予ヲ訪問シテ更ニ自日本ハ富里ノ長城以北ニ有土的野心ヲ有セザル旨申述ベタ。

山海関ニ於ケル停戦ノ情況ハソレハ望ナル一処方的協定ヲニシテ同地ノ日本人ニ影響スル中国人ノ小サナ紛擾ニ依リ起起セラレタルモノデアツタト松ハ述ベタ。一九三三年（昭和八年）二月廿三日日本大使ハ日本政府ノ指令ニ基キ予ヲ訪問シ満洲国ハ熱河省ニ於ケル軍ノ鎮圧ヲ決意シタ。而シテ満洲国ト日本トノ條約ニ従ツテ日本ハ満洲国ヲ支援スル義務ガアリ、之レガ為メニ日本軍ハ熱河省内ニ於ケル此ノ行動ニ協力シツヽアルノデアル。ト予ニ語ツタ。

一九三三年（昭和八年）二月廿七日予ハ日本大使ニ一九三一年（昭和六年）九月新訓事変ガ勃シタ時ニ予ハ其レヲ日本政府ハ予ノ知ツテキタ政治家並ニ軍ハ日本国民ニデテク、少数ノ軍部的野心並ニ名求ヲ有スル人々ノ一小団体ノ努力ニ門セシメタノデアツタ。

大使ハソレヲ充分承知シテ居ルト云ツタ。予ハ平和維持ノ具トシテノ條約ノ重要性ヲ指摘シタル点大使ハ之レヲ承認シタト云ツタ。彼ハ又彼

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3216-15

ガ予ニ於ヘタ保証ガ依ニ新聞ニ於テ実行サレナ
カッタ時ニ於テ夜モ失眠シタガ依トシテハ依ハ未ダ
ダ独ノ臣民ヲ信ジテ居リ、早晩社会分子ガ毛等
ヲ矢張サセヘシナイデアラウト思ッタ。
予時予ハ此ノ事ガ左様ニナル依ノ希望
ニ反ハルト依ニ話ッタ。
予ハ一九三三年（昭和八年）三月四日国務長
官ヲ仰付シ、コーデル・ハル氏ガ引継イダ。
我ハソレカラ日米関係ニ干スル任務ノ重荷ヲ引
受ケラレタノデアッタ。

ヘンリー・エル・スチムソン　（署名）

右一九四六年（昭和二十一年）六月七日

紐育州サツフォーク郡公証人
クリフトン・エフ・ガードナー
ノ面前ニ於テ宣誓署名ス。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2216

書類番号二一六　書式第一一五号

「ニューヨーク」州
「サフォーク」郡 } S.S

予、即チ「サフォーク」郡書記、同ノ記録裁判所タル同郡大審院書記「R.フォード ヒューズ」ハ左記ノ証明ヲ為ス、即チ証言書又ハ添附書面ノ立證又ハ承認ノ證明書ニ其ノ名ガ署名セラレ又其ノ上ニ其ノ名ガ記載セラレ居ルコト。

「クリフトン F.ガードナー」

ハ右ノ證言書作成立證又ハ承認ヲ行フニ際シテ同郡所属ノ公證人デアリ正当ニ依託ヲ受ケ宣誓シ且ツ同州ノ法律ニ依リ同州ノ何レノ裁判所ニ於テモ又一般目的ノ為ニモ有効ナル證言書ヲ作成シ宣誓ヲ施行スル権限及ビ該「ニューヨーク」州ニ於ケル土地ニ関保有物権及ビ相続不動産物権譲渡證書ノ認證又ハ立證ヲナス権限ヲ附與セラレ居ルコト　尚且ツ予ハ右公證人ノ筆蹟ヲ熟知シ居リ上記證言書、立證又ハ承認ノ證明書ノ署名ガ真正ナルコトヲ確信スルモノナルコトヲ證明ス

右ノ證明ニ際シ予ハ千九百四十六年六月十一日署名ヲナシ右裁判所及ビ右郡ノ印ヲ押捺ス

（印）

（署名）書記
「R.フォード ヒューズ」

No. 16

本證ニ依リ公證人「クリフトン F.ガードナー」ノ署名ヲ認證セルメ、同郡同裁判所ノ印ヲ押捺セシム

同州第二裁判区所属当大審院判事　証人「トマス J.カフ」

千九百四十六年六月十一日　合衆國獨立百七十年

（印）

（署名）書記「R.フォード ヒューズ」

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2216

No.17

予部ヶ「ニューヨーク」州サウォーク郡」ハソノ名ヲ以テ記認證書ニ署名セラレアル「R、フォード・ヒューズ」ガ正当ニ選任セラレ且宣誓ヲナシタル「サウォーク」郡所屬ノ郡書記且ツ大審院書記ナルコト並ニソノ公印ハ同郡同裁判所ノ正当ナル印ヲ以テ公認セラルル印ヲ以テ公認セラルルコト及ビソノ証明ハ法ノ正當ナル形式ニ依リ且正當ナル官吏ニ依リテ行ハレタル第ヲ証明ス

千九百四十六年六月十日「ルックリン」市ニ於テ署名ス

米国裁判所所屬「ニューヨーク」州大審院判事

(署名) 「トマス J、カフ」

「ニューヨーク」州
サウォーク郡」 S S
予部ヶ「サウォーク」郡所屬郡書記、「ニューヨーク」州大審院書記「R、フォード・ヒューズ」ハソノ名ヲ以前記証明書ニ署名セル「トマス J、カフ」ガ正當ニ選任セラレ且宣誓ヲナシタル米国裁判所所屬同州大審院長タルコト及ビ右証明書ニ于サルル右判事ノ署名ハ眞正ナルコトヲ証明ス

右ノ証明ニ際シ予ハ千九百四十六年六月十日署名シ右郡及ビ裁判所ノ印ヲ押捺ス、

(印) 署名 書記
「R、フォード ヒューズ」

32

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 1

E 1105
Doc. P 239

亜米利加合衆國、中華民國、大不列顛北愛蘭聯合王國、ソビエット社會主義共和國聯邦、濠洲聯邦、加奈陀、佛蘭西共和國、和蘭王國、新西蘭、印度及比律賓國

對

極東國際軍事裁判所

[redacted]

肥京賢二、[redacted]本欣五郎、畑俊六、[redacted]34毅、星野直樹、板垣征四郎、[redacted]ア幸一、木村兵太郎、小磯國昭、[redacted]右、南次郎、武藤章、佐藤賢了、永野修身、岡敬純、大川周明、大島浩、佐藤賢了、永野重光葵、嶋田繁太郎、白鳥敏夫、鈴木貞一、東郷茂徳、東條英機、梅津美治郎、

米國 コロンビヤ地區 ワシントン市
余、ジョセフ クラーク グルー ハ宣誓シ
而シテ次ノ如ク證言スル

33

No. 1

E 1105
Doc. P 239

亜米利加合衆國、中華民國、大不列顛北愛蘭聯合王國、ソビエット社會主義共和國聯邦、濠洲聯邦、加奈陀、佛蘭西共和國、和蘭王國、新西蘭、印度及比律賓國

對

極東國際軍事裁判所

被告 荒木貞夫、土肥原賢二、橋本欣五郎、畑俊六、平沼騏一郎、廣田弘毅、星野直樹、板垣征四郎、賀屋興宣、木戸幸一、木村兵太郎、小磯國昭、松井石根、南次郎、武藤章、永野修身、岡敬純、大川周明、大島浩、佐藤賢了、重光葵、嶋田繁太郎、白鳥敏夫、鈴木貞一、東郷茂徳、東條英機、梅津美治郎

米國 コロンビヤ地區 ワシントン市
余、ジョセフ クラーク グルー ハ宣誓シ
而シテ次ノ如ク證言スル

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 239

NO. 2

私ハ一九三二年ノ六月カラ、一九四一年十二月七日ノ日本ノ真珠湾攻撃マデ東京ニ於ケル駐日米大使トシテ勤務シタ。

外交ハ一九〇四年以来ノ私ノ畢生ノ事業デアッタ。世界大戦ニ先ダチ、私ハ米外交官トシテ埃及、メキシコ、ロシヤ、オーストリー、ハンガリー、獨乙、ルリンニ於ケル米國大使館書記官デアッタ。一九一八年ニハ私ハ米國一次、世界大戦ノ時ハ私ハ、ベ長代理トナッタ。私ハ巴里ノ平和會議ニ參加シ又一九二二年ローザンヌニ於ケル土耳古トノ會議ニモ米國ヲ代表シタ、又私ハデンマーク及ピスイスニ米國公使ヲ勤メ又國務省西ヨーロッパ部ノ部セラレル直前ニトルコ大使ヲ勤メタ。

以下ニ陳ベルステートメントハ私ガ日本ニ於ケル米國政府ノ外交代表トシテ東京ニ於ケル私ノ義務ヲ遂行シツヽアリシ事ニ関聯シ時々ニ起ッタ事柄ニ関スルモノデアル。ソレデ私ハソレ等ガ真実上述セル如ク、私ガ駐日大使トナッタ時ニハ日本ハ米國及其他ノ國々ト共ニ下記ノ條約、協約、協商其他ノ當事者デアリ且ハソノ中ニ聲明サレタ原則ニ對シ署名ヲシテ居タノデアル。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 3

Doc. 239

一、一八九九年七月二十九日、ヘーグニ於テ署名サレタル「國際紛爭ノ平和的解決ニ關スル會議」

二、一九〇七年十月十八日、ヘーグニ於テ署名サレタル「國際紛爭ノ平和的解決ニ關スル會議」

三、一九〇七年十月十八日、ヘーグニ於テ署名サレタル、ヘーグノ會議ノ第一一一、戰爭ノ開始ニ關スル項。

四、一九〇八年十一月三十日、署名サレ、日米間ニ覺書ヲ交換セルニ依リ效力ヲ發シタル「極東ニ於ケル彼等ノ政策」ヲ宣言セル協商。

五、一九二一年十二月十三日、英聯邦、佛蘭西、日本及米國ノ間ニ「太平洋ニ於ケル嶋嶼ノ所有及其ノ統治權」ニ關シ（取極メラレタル）協商。

六、一九二二年二月六日、ワシントンニ於テ締結サレ署名サレタル所謂「九ヶ國條約」

七、一九二八年八月二十七日、パリーニ於テ締結サレ一九〇七年十月十八日、ヘーグニ於テ署名サレタル所謂「ケログーブリアン協約」

八、上記ノ條約、協商、協約其他ノ當事者トシテ權利義務ニ關スル會議」

35

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 239

NO. 4

テヌ英ノ中ニ聲明サレタル原則ニ對スル署名者ト
シテ日本ハ次ノ他ノ事柄ニ同意シタノデアル。即チ、
國際間ノ永和解決ニ武力ノ使用ヲ避ケルタメ、
一又ハソレ以上ノ友好國ノ仲介或ハ親善ニ依賴スベ
キ紛爭又ハ深刻ナ不一致ノ場合ハ、宣戰ノ布告
ナシニ戰爭ヲ開始シテハナラヌ。國際間ノ紛議
ハ仲介ニ委ヌベシ。支那ノ領土ノ政治的保全、獨立
及主權ノ尊重ト援助。支那全領土ノ通ジ、凡ユ
ル國ノ商、工業ニ對スル機會均等ノ原則ヲ
有効ニ樹立シ維持スル如クソノ影響力ヲ用ヒル
コト。

第三國其ハソノ國民ニ有害ナル、特權或ハ獨占的特
惠ヲ支那ニ於テ、求ムルコトヲ差控ヘル事。國策
ノ手段トシテノ戰爭ノ拋棄、
侵犯セザルコト。
私ガ上述ノ如ク大使ト
事的支配ヲ握リ、ソコニ日本ニヨリ統制サレタル傀
儡滿洲國ヲ建設シヲ
滿洲事情ニ附テノ米國各
テハ私ハ熟知シテヰルノデアルガ、日本ハソノ侵略的行爲
ハ日本ノ條約義務違反ナリトスル米國及ビソ
ノ他ノ國々ノシバシバノ抗議ニモ不拘、滿洲ニ於
ケル行動ノ筋書ヲ遂行シタ事ヲ指示シテヰル。
國務省ノ公式記錄ハ更ニ、日本ガ一貫シ

NO. 4

テヌ英ノ中ニ聲明サレタル原則ニ對スル署名者ト
シテ日本ハ次ノ他ノ事柄ニ同意シタノデアル。即チ、
國際間ノ永和解決ニ武力ノ使用ヲ避ケルタメ、
一又ハソレ以上ノ友好國ノ仲介或ハ親善ニ依賴スベ
キ紛爭又ハ深刻ナ不一致ノ場合ハ、宣戰ノ布告
ナシニ戰爭ヲ開始シテハナラヌ。國際間ノ紛議
ハ仲介ニ委ヌベシ。支那ノ領土ノ政治的保全、獨立
及主權ノ尊重ト援助。支那全領土ノ通ジ、凡ユ
ル國ノ商、工業ニ對スル機會均等ノ原則ヲ
有効ニ樹立シ維持スル如クソノ影響力ヲ用ヒル
コト。

第三國其ハソノ國民ニ有害ナル、特權或ハ獨占的特
惠ヲ支那ニ於テ、求ムルコトヲ差控ヘル事。國策
ノ手段トシテノ戰爭ノ拋棄、
侵犯セザルコト。
私ガ上述ノ如ク大使ト
事的支配ヲ握リ、ソコニ日本ニヨリ統制サレタル傀
儡滿洲國ヲ建設シヲ
滿洲事情ニ附テノ米國各
テハ私ハ熟知シテヰルノデアルガ、日本ハソノ侵略的行爲
ハ日本ノ條約義務違反ナリトスル米國及ビソ
ノ他ノ國々ノシバシバノ抗議ニモ不拘、滿洲ニ於
ケル行動ノ筋書ヲ遂行シタ事ヲ指示シテヰル。
國務省ノ公式記錄ハ更ニ、日本ガ一貫シ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 239

No 5

テソノ侵略的行為ヲ辯護シテ、日本國民ノ保護ノタメノ單ナル自衛手段デアリ、決シテ領土的野心ナキ事或ハ、支那ニ於ケル第三國ノ權益ヲ妨害スル意思ナキ事ヲ繰返シテ米國政府ニ保証シタルコトヲ指示シテ居ル。

米國大使トシテ東京ニ在リシ全期間、私ハ日本外相ニ、時トシテ首相ニ、又當時ノ官吏ニ對シ、米國政府ハ日本ノ支那ニ於ケル軍事行動ヲ前述セル支那ノ領土保全ノ尊重、支那ノ門戸解放原則ノ維持、米國及ビ其他ノ國民ノ生命財産ニ危害ヲ與ヘザルコト、紛爭解決ニ武力ヲ行使セザルコト、紛議ハ調停ニ委ネソレヨリ生ズル結果ヲ守ル等ノ各種ノ條約、協商ニ對スル義務侵犯ナリト思考スルト日ノ事実ヲ繰返シ注意ヲ喚起シタ。

私ハ、日本ハ其ノ侵略政策トソノ軍事力過大トニ困リ、急速ニ米國政府、米國民及ビ世界ノ人々ノ同情ヲ失ヒツヽアルヒ日ヲ指摘シタ。辯解ハ、ソノ軍事行動ハ單ニ支那政府ガ統御ヲ得ナイ匪賊、共産黨員ニ對スル自衛手段デアリ又無責任ナル支那政府ニ依リ惹起セラレタル討伐的及日感情カラ惹起サレテヰル、日本國民及ビソノ悪用サレテヰル、支那ニ於ケル日本國民及ビソノ利益ヲ保護スルタメ、トイフニアツタ。私ハ當路ノ官吏ニ依リ、日本ハ支那ニ於テ領土的野心ナキ

37

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 6

Doc 239

事、日本ハ第三國ノ權益ヲ心配シ在リ、ソレ等ヲ守ルタメ又現狀ヲ維持スル爲、熱心ニ努力シテ牛ル旨ヲ縷返シ保証サレタ。ソシテ日本ハ支那ニ於ケル門戸解放ノ原則ヲ維持スベク考慮シテ牛ル旨一九三八年末迄保証サレテ牛タノデアル。

私ハ文明人及ビ外國人ノ非戰斗員ノ生命財産ニ危害ヲ加ヘル非軍事的目標ニ對スル無差別爆撃ノ對ニ繰返シ抗議シタ。最モ甚ダシキ事例ノ若干ハ、揚子江ニ於ケル米艦パネー號ノ爆撃及撃沈デアリ其ノ中ニアリタル三人ノ米國人ハ殺害サレ、又上陸セントシツヽアリシパネー號繋留艦長及其他ノ者ハ小艇ニ對スル機銃掃射デアツタ。又重慶ニ在リシ米艦トウトウイラ丸ニ對スル計畫的爆撃デアリ全ク不充分ナル警告ノ後ノ無誤ニシテ亂暴ナル、南京住宅街高葉街ノ爆撃デアリ上海共同組界ヲ騎馬ニテ通行中ノ五名ノ米國民ニ對スル一日本機ノ機銃掃射デアリ、ソノ中ニ在リシ米國人「プベニフス」ハ殺サレタノデアル。又日本飛行機ニ依ル中華航空會社所屬輸送機ノ破壊デアリ（右ニハ汎米航空會社ガ大ナル利害ヲ有スル）、ソノ結果數名ノ非戰斗員タル旅客ガ殺害セラレ、而シテ米國操縦士ニ生命ノ危險ヲ加ヘ、更ニ又日本飛行機五機ニ依ル他

38

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ上ニク標識ヲ附シテヤニイ」ニ着陸シタバカリノ中華航空會社商業旅客機ノ破壊ハソノ中ノ操縦士ヲ殺害シ、前八回ノ爆撃後ノ重慶ノ米国教會ノ爆撃並ニ完全ナル破壊等之等ハ各別個ノ抗議ノ主題トナッタ。故會堂ナル爆撃破壊ノ多クノ実例ハ、ソレ等ノ攻撃ガ計畫的ニテアラタト結論セザルヲ得ザラシメタノデアル。更ニ茲ニドノ場合日本人ハ事前ニ、問題ノ資産ノ位置ヲ標示セル地図ヲ有シテヰタノデアル。事実ベテノ実例ニ於テ日本政府ハ、ソノ口実ノ下ニ責任ヲ否認シ、ソノ物ノ中ニ於テソノ資産ハ軍事目標ニ余リニ近ク接近シテヰタトカ又ハ支那人ニ依リ使用サレテヰタ（コノ辯解ハ調査ニヨリ公ケニサレタ事実ニヨッテ否認セラレタガ）トカ或ハ犯行機ノ投弾機構ガ明カニ正シク機能シテヰナカッタトカ又ハ単ニ誤テテアッタト主張シテヰタノデアル。

私ノ抗議ニモ不拘、南京方面ノ戦闘終了後ト雖モ米国経済人並ニ宣教師達ハ早急ニ南京ヘ帰ルコトヲ阻止セラレテヰタ。（黒ビ）

御ヘバ上海大學ハ早速ニ日本ガ撤退シタガ、ソレヲ所有シテヰタ米国宣教師協會ハ、ソレ以上ノ悪化ヲ防止スル目的ノタメニスラ早急ニ再ビ占居

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 23

ヲスルコトハ許サレナクッタ。ソレ等ノ場合、歸ル事、仕事ヲ開始スル事、或ハ彼等ノ財産ノ維持シ又ハ利スル事ノ許可ヲ米国民ニ拒否シナガラ、辨解ハ「平和ト秩序ノ回復ハ不充分デアル」トイフノデアッタ。此ノ辨解ニハ如何ナル根據モナイ事ハ向題ノ地區ニ居クノ日本商人及彼等ノ家族ガ居タトイフ事ニヨリ尚ニ説明ガツイテヰタ。

一九三四年七月七日)ニ於ケル官憲ニヨル右ハ日本外務者ニ対シ、滿洲阿テノ覺書ヲ提出シタ。米国石油會社ノ生産品ヲ歐賣スル事ニ対シ滿洲ニ於テ門戸ヲ閉鎖スルノデアラウ此ノ計畫ニ対スル日本政府ノ協力及是認ノ事実ニ附、注意ガ喚起セラレタノデアル。即チソレハ門戸解放ノ原則、ソレニ対シ日本ハ侵犯シテヰルノデアルガ、更ニ右計畫ハ一九二二年ノ九ヶ国條約ノ第三條ノ規定並ニ一八八四年ノ米支條約ノ明白ナル條項ニ違反スル事ヲ支持スルデアラウト言明シタ。一九三四年八月二日附、右ニ対スル回答ニ於テ日本外務大臣ハ、滿洲国ガ独立国トシテカラハコノ向題ハ米国政府及滿洲政府ニ関スル向題デアルト述ベ、日本ニ依ル如何ナル條約義務違犯モ合マレテヰナイト否定シタ。

No 8

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 9　　　　　　　　　　　　　　　　　　Doc 239

私ハ再ビ日本外務大臣ニ非公式覚書ヲ送リ右計畫ハ疑ヒナク米国民ノ條約權ニ對シ偏頗ナ独占ヲ結果シ而モ門戸開放ノ原則ニ反シ、又右計畫ガ半官的機関、即チ南満洲鉄道株式會社ノ参加、日本国民ノ協力ト賛意ニ依リ或ハ又日本政府ノ同意ト是認トニ依リ立テラレアルカラニハ、右計畫ノ遂行ハ日本ノ條約義務違犯デアリ並ニ米国及其他ノ政府ニ対シ從前與ヘタル無資格ナル保証ニ対スル違背デアル旨指摘シタ。

日本ガ満洲ニ於ケル門戸解放ノ原則ノ維持ヲ、所謂満洲国独立政權ノ樹立後モ保証シタ事、又是等ノ原則ノ維持ガ、一九三二年八月二十五日ノ議會ニ於ケル内田伯及外相演説中ニ於テ約東サレタ事及ビ一九三二年九月十五日満洲国承認ノ際、発セラレタル日本政府ノ公ノステートメント中ニ於テ約東サレタ事ハ勿論否定スベカラザル所デアル。更ニ一九三二年九月十五日ノ日満議定書ハソレ自身満洲国ノ国際的義務ヲ当館上ニ適用スルコトノ遵守ニ基イテ居ル。即チ次節ニ示セル議定書前文ハ次ノ如クデアル。

満洲国ハ支那ニヨリ加入セルスベテノ国際協商ヲ固守スルノ意思ヲ宣言セル故ニ、ソノ限リニ於テソレラハ満洲国ニ適用セラルベシ。

No 10

DOC 239.

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

doc 23

ヲ日本外務大臣ニ忠告シタ。

一九三五年四月十六日私ハ日本外務大臣ヲ訪問シ日本ハ條約義務並ニ前回ニナセル保證(特ニ同一視セル)即チ門戸開放ノ原則ハ維持サレアリトナス米國ノ見解ノ保證ニ對シ違反シアリトノ。彼ハ答ヘテ、是等ノ保證ハ權益ヲ有スル國々ノート滿洲國承認ヲ條件トシテデアリ。ト述ベタ。

一九三七年十二月一日、私ハ日本人以外ノ外國人ノ治外法權ニ關スル滿洲國政府發行ノ宣言書ノ問題ニ附テ又ハセンニ於ケル米國銀行支店ガ發行セル法律ノ公布ニ關シテ、日本外務大臣ニ抗議ヲ提出シタ。而シテ私ハ、滿洲ニ於ケル米國民ノ治外法權ハ米、支兩國間ノ條約ニヨリ支配サレ有ル事実ニ對シ、且又滿洲國政府ガ米國民ニ對シ有ル事權ヲ主張スルモノナル法律ハ直接ニ米國ノ條約權ヲ侵害スルモノナル事ニ對シテ注意ヲ喚起シタ。外務大臣ノ返答ハ滿洲國政府ノ行爲ニ附テハ日本側ニハ何等ノ責任ヲナキ旨、亜

NO11

認セルニ止マッタ。

滿洲ノ石油獨占ノ場合ノ如ク、私ハ日本人ニヨル上海、廣東、汕頭又其他ノ場所ニ於ケル税關行政ノ引継ニ關シ且又日本人ノ輸入ニ好都合ナル如ク

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 12

Doc 239

関税ヲ改訂セラルル事ニ関シテハ日本ハ強硬ニ抗議ヲ提出シタ。又私ハ塩税管理ノ取上ノ際更ニ抗議ヲ提出シタ。莫大ナル米國及其他ノ國ノ國債ガ関税収入ヲ担保トシテ居ル事米國及其他國々ハ支那海関ノ管理、及塩税収入ヲ担保トシテ居ル事ニ鑑ミ支那ノ財政的利害ヲ有ル収入ノ保全ニ付テハ重大ナル関心ヲ有ル旨ヲ表明シ、手續ノ變改ニ関シテモ商議ニ與ルベキ旨招請セラルベキ旨ヲ述ベ、他ノ場合同様、日本等ノ抗議ハ一向役立タズ、殊ニ英國ハ右ノ手段ハ軍事外務大臣及ビ他ノ官吏達ハ右ノ手段ハ軍事上ノ必要ニヨル要求ニ依リ、且ツ又支那官吏モ亦協力セザルヲ得ザル旨主張シタ。

其他、後ニ至リ違反セラレタル保証ニシテ、私ヲ通ジ又日本政府ニヨリ新聞紙上ニ公ニセラレタルステートメントニ依リ、米國政府ニ與ヘラレタルモノト実例ハ次ノ如クデアル。

一九三四年四月二十日、日本外務大臣(廣田)ハ個人的ニ私ニ対シ米ノ那ノ領土行政保全ノ尊重ニ於ケル他ノ國々ノ善意ノ通商ニ対シ困難ヲ生ゼシメル立思ハナカリシコト支那ハ又東ニ日本側ニハ他ノ國ガ資格ヲ有スル権利並ニ責任ヲ減損スル特権

44

裏面白紙

Doc. 239

13

的地位ヲ主張スル、意思ヲ述ベ又日本、政策ハ凡ユル點ニ於ケル九ケ國條約ノ條項、完全ナル遵守ニアルコトヲ述ベタ。私ハ彼ニ對シ米國政府並ニ米國民ハ是以上具体的證據ニヨルヨリモ政策ノステートメントニ依ル方ガ感銘ガ少イデアラウト述ベヲデアル

二

一九三七年九月一日、外務次官(重光)ハ対米放送ニ於テ支那、反日的行為、理由ヲ以テ日本、行動ヲ辯護シ日本、意思ハ平和的ナリシ旨主張シタ。彼ハ現在、北支及上海ニ於ケル戰鬪、終局、目的ハ兩國、間ニ眞、協力ヲ許容スル狀態ヲ實現スルニ在ルト述ベタ。而シテ支那ニ派遣サレタル日本軍ハ侵略的目的、タメニ送ラレタルモノニ非ズ又日本ハ領土的欲望ヲ有セザル旨述ベタ。堀内氏ノラヂオ放送演説ハ其後議會ニ於テナサレタル外務大臣廣田、演説並ニ總理大臣近衛、演説ト同一デアッタ。

三

一九三九年二月十七日、外務大臣(有田)ト會見ニ於テ私ハ日本ガ支那ニ對シ領土的野心ヲ有セザル旨、從前、ステートメントニ付想起ヲ促シタ。私ハ最近、日本軍ニ依ル海南島、占領ニ付夜、注意ヲ喚起シタ。而シテ右、島ハ多ク、米國所有、教育施設、教會、

45

裏面白紙

Doc. 239.

14

施設、米國住民ガ在ル事実ニ鑑ミ同島ヲ領
土ニ編入スル日本政府ノ意思ニ付テ說明ヲ要ボン
ダ。大臣ハ右領土ノ目的ハ南支那海岸ノ封鎖
ヲ強化シ、若シ右政權ノ打倒ヲ企ガタニ在ル
ト答ヘタ。

彼ハ日本ノ支那ニ對スル領土的野心ヲ有セズト
ノ從來ノステートメントヲ繰返シテ「ヲ領ニ軍
事的必要以上ニハ考ヘナイ」ト附テ加ヘタ。

一九四〇年四月十五日、外務大臣（有田）ハ
歐洲戰ノ永ビキ（和蘭）、包含テ
ル可能性並ニ蘭印ニ於ケル、及響ニ關テ
日本ノ地位ニ付テ新聞記者、質問ニ答ヘテ
「日本政府ハ蘭印現狀維持ニ影響ヲ與
ルデアラウ戰爭、擴大ヲ伴フ如キ何ナルヨー
ロッパノ展開ニモ迅速ニ且ツ斷乎タル措置ヲ
以テ對處スル」ト述ベタ。

一九四一年七月二日日本ハ日本ノ務大臣、日本ハ
ルヤニ對スル戰爭ニ參加スルコトハ考ヘテ居ナイ
旨聲明シタ。其ノ間、私ハ日本首相
ニ對シ覺書ヲ送リ日本ノ計畫戰爭ニ入ルト
ノ事ニ付テ何等ノ眞實、報道ナキ事、又日本
ノ責任アル官吏、日本ハ太平洋方面ノ平和維
持ヲ希望スル旨ノ、同時、ステートメントニ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

15

Doc. 239.

付テ米國政府ノ希望ヲ開陳シタル右ニ対シ
同盟ハ日本ガ務大臣クラスヲサレタガソレハ次ノ
如ク述ベラレテアツタ。
太平洋ノ平和維持並ニ得ル為ノ帝国ノ熱心ナル且
眞実ナル日本政府ノ願望ニシテ日本政府
ノ帝国ノ目的ヲ達成セラレメ熱心ナル努力ヲ
寄与セラルル而シテ対ソ聯戦争ニ参加スル
ノ能性ニ付テ会談ノ考慮セラレテ
一九三八年ノ中ニ東亜新秩序ノ建設ノ記録ヲ
ニ於ケルヲヲ首相並ニ外務大臣ハ
支那ニ於ケル満洲ヲ北支更ニ中支ヘ及
ビ南支ヘノ「軍事」行動ノ発展ニ言及シ日
本ト協力スル支那政権出現ニ対スル希望ヲ
披瀝シタ然シテ第三國ノ権益ヲ侵害スル
事、門戸解放政策ノ継続ニ意思ノ例ノ如キ
ノ如キ於ケル戦闘ノ終局ニ行ハルベキ
仮令其将来ノ平和ヲ許ス如キ相手ニ
支デアラウト述ベ而シテ意味有リゲニ、
「軍事」行動ノ主目標ヲ或ル種ノ経済的並ニ
社會的ノ日支間ノ協力ニアルカラニハ領土
ガ日本ノモノデアルヲ支那ノモノハ
問題ニスギナイト指示シ、支那ハソノ國

47

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 16

Doc. 239.

内、不平等條約並ニ治外法權ノ撤廢ヲ自ラ
ナシ得ル如ノ強力ナラネバナラヌト指示シタ
ノデアル。而シテ一九三八年十一月ニ日本
ハ武漢三鎭ノ陷落ヲ聲
明シ、重慶ノ支那ノ地區ハ斯クシ
テ我等ノ手中ニ落ツタト述ベタ。第三國ノ
權益ニ付テハ何等言及セズ、ソーステートメ
ントハ單ニ、東亞ニ於テ行ハルヽ新秩序ニ
件ニ第三國ハ彼等ノ適應セシムデア
ラウトイフ日本ノ自信ヲ表示シタニスギナカ
タ。然シテ日本國民ハ是等ノ勝利ガ平和
ノ時代ヲ招來スルニ非ズ、寧ロ日本ガ新
東亞建設ノ爲ニ始ツタノデアルト警告サレテ
キ戰ハヽ始マラントシテ未ダ
政府ガ如何ニ「南洋ヲ包含スル大東亞」中
ノ日本ノ地位ヲ確保セント決心スルニ至ル迄進捗
シ發展シタノデアル。

「南洋ヲ包含スル大東亞」ニ對シテハ日本ハ
ソレ自身近代的世界ニ於ケル一等國ニ成
長セル結果トシテ資格アルノデアルト信ジ
障碍ヲ加ヘヽアラユル手段ヲ以テ
ヲ除去セントシタノデアル。

48

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 17

DOC 239

米國政府ニ代リ茲ニ述ベタル処ヲ言明又ハ抗議ヲナス次第ナリ

私ハ常ニ多クノ日本ノ他ノ人ト交渉シタ、

ソレ等ノ人々ハ日本政府ノ公式記録ガ示スデアラウ如ク当時ノ日本政府ノ指示ニ基キ又ハ之ヲ充タシテヰタノデアル、

多クノ場合私ハ問題ノ事柄ヲ日本外務大臣ト交渉シタ、

時トシテ外務次官、而シテ又或ル時ニハ外務省ノ従僕的官吏ニ

問合セヲナシタ事モアル、

然シ首相ニ向合セタ事ハ絶ト云ッテ可イ程ナカッタ、

ハアルガ私ガ大使トシテノ間ニ起ッタ事ニ関シ抗議ヲ為シタ事ハ

ニ三ノ例外ヲ除キ殆ド全部ニ亘リ外務省ノ当局者ト交渉シタ、

ソシテ多クノ米國資産ニ対スル掠奪事件ノ実例ガ米國経済

人ノ生命ニ對スル危害ガ又米國人ニ對スル差別待遇ガ次々

ト増加シツヽアリ而シテ私ノ大使トシテノ期間ノ終リ近ソレハ

綴ッタノデアル、

ジヨセフ、クラーク、グルー

西紀一九四二年五月廿日 米ノ前ニ於テ宣誓サレ且ツ署

名サレタリ、

エドガー、エム、フォード

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E-1106
DocP2007B
1106

二〇〇七B

眞珠湾攻撃ニ関スル議会両委員会ノ合同委員会ノ証言抜萃

一〇七六―一〇八三頁

一、一九四一年（昭和十六年）ノ会談ノ背景

[redacted]

会談ニ対スル日本ノ見解ハ、極東ニ関スル日米間ノ協定ノ締結ニ
[redacted]
一年（昭和十六年）ノ初期ニ提起セラ
スル前ニ、大統領ト余ハ此ノ問題ニ関シ
日本ノ國際的行動ニ於ケル重性
[redacted]
ノ詳細ニ付テハ合衆國ニ保リテ傳統的ニ又現在遂行セラレテ
居ル両國政策ノ確然タル相違及ビ極東、欧洲、並ビニ合衆國
ニ於ケル現情勢等ノ原因ノ背景ニ対シ、十分ナル考慮ヲ拂ヒタ。

A 日本ノ侵略記録

No. 1

大統領及余ハ日本ノ過去ノ侵略的記録ト同時代ニ極東ニ於ケル発展的傾向ヲ念頭ニ置ケレバナラナカツタ。

日本ハ近代的國家トシテ発生シタ殆ド最初カラ軍事的擴大政策ヲ續行シテキタ。穏健派ガ勢力ヲ得タ或短期間ヲ除キ

E-1106
DocP2007B
T106

二〇七B

眞珠灣攻撃ヲ審査ニ對スル議會共同委員會ノ
前ニ行ハレタル「ハル」國務長官ノ證言拔萃

一〇七六―一〇八三頁

一、一九四一年（昭和十六年）ノ會談背景

會談ニ對スル日本ノ提議ハ、極東ニ関スル日米間ノ協定ノ締結ヲ
指向セルモノナリキ。其レハ一九四一年（昭和十六年）ノ初期ニ提起セラレタ。
此ノ提議ヲ受諾又ハ拒否スル前ニ、大統領ト余ハ此ノ問題ニ関シ
日本ノ國際的侵略ノ記錄、日本ト合衆國ニ依リテ傳統的ニ又現在遂行セラレテ
居ル兩國政策ノ確然タル相違及ビ極東、歐洲、並ビニ合衆國
ニ於ケル現情勢等ノ原因ノ背景ニ対シ、十分ナル考慮ヲ拂ッタ。

A 日本ノ侵略記錄

No. 1

大統領及余ハ日本ノ過去ノ侵略的記錄ト同時代ニ極東ニ
於ケル發展的傾向ヲ念頭ニ置クト共ニ又之ヲ考慮ニ入レテ
レバナラヌカッタ。

日本ハ近代的國家トシテ發生シタ當初カラ軍事的擴大
政策ノ續行セラレ來ッタ。侵略ノ勢力ヲ得ル爲ニ短期間ヲ除キ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 2

Doc. 2007B

其ノ大部分ノ期間中一侵略階段ト次ノ階段トノ中間期間ハ單ニ軍事的整理ノ期間タルニ過ギナカツタ。

一八九五年（明治廿八年）日本ハ支那ニ対スル戦争ニ成功シテ後ニ台湾ヲ併合シ尚満洲ニ於テ足場ヲ建設シヨウトシタガ之ハ失敗シタ。

一九〇五年（明治卅八年）日露戦役ノ後日本ハ関東州ニ対スル租借権ヲ獲得シ南満洲鉄道ヲ領有シテ満洲ニ確乎タル地盤ヲ築イタ。同時ニ日本ハ南樺太ヲモ獲得シタ。

一九一〇年（明治卌三年）日本ハ多年ノ侵害ノ後歴迫ト陰謀ニヨツテ朝鮮ヲ併合シタ。

一九一五年（大正四年）日本ハ欧洲ノ聯合國ガ対獨戦争ニ夢中ニナツテヰルノヲ利用シテ、カノ悪名アル「二十一箇條ノ要求」ヲ中國ニ突キ附ケ、第一次世界大戦ノ終末ニ於テ日本ハ一九二一―二二年（大正十年―十一年）ノ華盛頓會議ニ於テ締結セラレタ諸條約ノ調印國トナツタ。是等ノ條約中ニハ中國ニ関スル原則及政策ニ関連ヲ有スル九ケ國條約ガ包含セラレテ居リ、コノ條約ハ中國ガ實力ノアル安定シタ政府ヲ育成シ且維持スル為ニ充分且ツ最モ無障害ノ機會ヲ與ヘル狀態ガ創造セラレルコトヲ期待シタ。

日本ハ九ケ國條約ガ基礎ヲ置クトコロノ中國ニ対スル自制的改策ヲ採用シテ居ルト言ツテ居ルガ、然シナガラ一九二七年（昭和二年）田中内閣出現後、日本ハ一九二八年（昭和三年）二八中國ニ対シ所謂「積極」改策ヲ採用シテコノ改策ノ下ニ益々中國ノ内政ニ干渉スル傾向ヲ表シタ。

一九三一年（昭和六年）二八日本ハ満洲ヲ侵略シ其ノ「満洲國」ノ名稱ノモトニ之ヲ統治スル傀儡政府ヲ樹立シタ。九ケ國條約ノ

51

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 3

Doc 2007 B

極悪ナル違背デアルコノ行為ニヨリ日本ハ華盛頓會議ノ諸條約ニ協定セラレタ協力政策ヲ完全ニ破棄シタノデアル。

一九三四年（昭和九年）、始メ日本ノ外務大臣廣田氏ニヨッテ覚書、形式デ（一九三四年十月二十日附）日本政府ガ接近シテキタコトヲ如何ニ余ガ歓迎シタカヲ想ヒ出ス。コノ覚書ニ廣田氏ハ「アメリカ合衆國ト日本トノ間ニハ友誼的解決ガ根本的ニ不可能ナル問題ハ存在シナイコトヲ確信スル」ト言ハレタ。余ハソレニ対スル回答（一九三四年三月二日附）ニ於テ廣田氏ノ意見ニ賛同シ、且我ガ政府ハ平和的方法ニヨリ諸問題ノ調整ヲ確信スルコトヲ強調シタ。

然ルニコノ覚書ヲ交換シテ間モナク日本ハ再ビ國内ノ強力ナル改革樹立者達ガ終始一貫固執スル侵略ノ根本目的ヲ暴露シタ。

一九三四年四月十七日、日本外務省ノ代辯者ハカノ「天那ニ手ヲ出スベカラズ」聲明トシテ知ラレテ居ルモノヲ發表シタ。コノ聲明ニ於テ日本ハ中國ヲシテ日本ノ指圖ニ従フコトヲ強制シ且日本ガ許容スル場合ニ限リ他ノ國ト中國トノ交渉ヲ許スト言フ目的ヲ明カニシタ。

52

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOC 2007 B

No. 4

一九三四年/昭和九年/十二月二十九日、日本ハ、一九三六年/昭和十一年/末ニ、
一九二二年/大正十一年/二月六日「ワシントン」ニ於テ調印セラレタル
海軍制限條約ヨリ脱退スル意圖ヲ公式ニ通告シタ。
其ノ通告ハ、征服ノ行程(向ヲ明瞭且ツ意識的ニ動キテアッタ。
其ノ通告ノ提出次イデ日本ハ、中國侵略ノ開始ヲ意味シテ、其ノ軍備
増強ニ邁進シタ。

其ノ頃日本ハ「ナチス」獨逸ト會談ニ入リ、ソノ結果、
一九三六年/昭和十一年/十一月二十五日、防共協定ガ両國ニヨリ締結セラレタ。
一九三七年/昭和十二年/伊太利ガ調印シタ。同協定ノ表面上ハ共産
主義ニ對スル自己防衛デアッタガ、實際ハ其ノ後ノ歴史ガ證明スル如ク
武力的發展ノ手段ノ爲ノ準備工作——所謂「枢軸」ノ創造ノ
第一歩——デアッタ。

一九三七年/昭和十二年/七月、日本ハ北京附近ノ一地点ニ於ケル中國軍隊
ト日本軍隊ノ間ニ起ッタ小サナ事件ヲ故意ニ利用シ、大規模ノ中國侵略
ヲ非道ニモ開始シタ。日本ハ包大ナ軍隊ヲ中國ニ注ギ込ミ、ソレハ、
産業其ノ他、重要中心地ヲ含ム廣大ナ地域ニ擴ガッタ。是等
ノ軍隊ハ凌辱、掠奪、殺人其ノ他凡ユル不法行爲ヲ犯シタ。特ニ野蛮
ナコトハ一九三七年/昭和十二年/十二月十三日日本軍隊ノ南京占領ニ次
ク行ハレタ同市ニ於ケル暴行デアッタ。

一九三七年/昭和十二年/十二月十二日、日本航空機ハ揚子江ニ於ケル英國軍艦
「パネー」ヲ爆撃シ之ヲ撃沈シタ。

53

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOC 2007 B

No. 5

軍事的発展ノ計画ニ対シ、日本ニ於テ国民ノ支持ヲ得ンガ為「大東亜新秩序」ノ樹立ヲ目的トスル「東亜共栄圏」ト云フヤウナ標語ガ用ヒラレタ。合衆国其ノ他ノ国ハ日本ノ発展ヲ抑圧シ又ハトイフ非難ヲ受ケタ。

一九四〇年/昭和十五年/八月及ビ九月ニ、日本ハ独逸及ビ伊太利ト三国同盟ヲ佛領西ト協定ノ無理ニ治ンデ、其ノ協定ノ下ニ日本軍隊ハ北部印度支那ニ進入シタ。

一九四一年/昭和十六年/九月、日本ハ独逸及ビ伊太利ト三国同盟ヲ強化シタ。右同盟ハ直接ニ合衆国ヲ目的トシテヰナイケレドモ。ソレハ日本ト独逸及ビ伊太利トガ欧洲西及ビ欧洲巳ニ征服、計画ヲ実行スルニ当リ両国ガ独立ノ合衆国ニ干渉スルノヲ抑止スル為ニ合衆国ガ充分ナル自衛手段ヲ採ルヲ妨ケル為ニ合衆国サレタノデアツタ。

一九四一年/昭和十六年/十月四日ニ、近衛首相ハ三国同盟ニ関スル声明中ノ一部ニ次ノ如ク言ツテ新聞ニ書カレタ。

「合衆国ガ、日本、独逸及ビ伊太利ノ真意ヲ理解スルコトヲ拒否シ、執拗ニ挑戦的態度及ビ行為ヲ続ケルニ於テハ、……是等諸国ハ戦ハザルヲ得ナクナルデアラウ。日本ハ目下日露ノ政治及ビ経済関係ヲ調整スル為ニ努力シテ居リ、又日本ト露西亜ト ノ間ノ摩擦ヲ減ズル為、凡ユル努力ヲ為スデアロウ。日本ハ今露西亜、英国及ビ合衆国ガ彼等ノ蒋政権援助行動ヲ中止スル様要求シ諦メ外交工作ヲ行ツテ居ル」

54

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2007B

Doc

(B)

日本ノ表裏的言動ノ記錄

大統領ト余ト亦日本ガ國際関係ニ於テ表裏的言動ヲ爲シタル長イ記錄ヲ有スル事實ヲ考ヘタ。コノ表裏的言動ハ日本軍部ガ彼自身ノ法律ヂテヲリ日本ノ文官ガ約束シタ事ヲ終始一貫シテ蹂躙シテキタト云フ事實ニ大イニ起因スルモノデアル。

一九〇四年(明治卅七年)日本ハ朝鮮ノ獨立ト其ノ領土保全トヲ保證シタ。一九一〇年(明治四三年)ニ日本ハ「アメリカ」合衆國ト共ニ中國ノ獨立保全及ビ中國ニ於ケル機會均等ノ原則ヲ支持スルコトヲ誓約シタ。一九一五年(大正四年)ニ日本ハカノ惡名アル「二十一ヶ箇條ノ要求」ヲ中國ニ突キツケタ。

一九一八年(大正七年)ニ日本ハ露西亜軍ガ其ノ後必要トスルカモ知レヌ軍需品ヲ保護スル爲、及ビ「レベリア」ニ於ケル約ル爲ニ、各國ハ夫々七千人ヲ超ヘサル兵力ヲ「シベリア」ニ派遣スルト云フ聯合國間ノ取極メニ參加シタ。日本軍部ハコノ事業ニ東部「シベリア」併合ノ好機アリト見テ(結局成功セナカッタガ)七万人以上ノ兵力ヲ派遣シタ。

No. 6

一九二二年(大正十一年)ノ九ヶ國條約ニ於イテ日本ハ中國ノ主權、獨立及ビ領土的行政的保全ヲ尊重スルコトニ同意シタ。日本ハ亦中國ニ於テ機會均等ノ原則ヲ樹立スルコトニ盡力スルコトニ同意シタ。一九三一年(昭和六年)以降中國ニ於ケル日本ノ軍事的占領各經濟的支配ノ全課程ハ是等ノ誓約侵犯デアッタ。當時國際聯盟ヘ派遣ノ日本代表デ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 2007 B

No. 7

アジア 松岡氏ハ「我々ハコレ以上、領土ヲ欲セズ」ト言ッタ。一九三二年（昭和七年）ノ末迄ニ日本軍ハ満洲全土ヲ占領シ、其後ノ歳月ニハ南方及西方ニ行動シテ廣大ナル中國ノ地域ヲ占領スルニ至ッタ。

一九三七年／昭和十二年／七月二十七日、當時ノ日本首相近衛公爵ハ、「北支ヘノ軍隊派遣ニ當ッテハ、政府ハ最近ノソノ聲明ニモ述ベタ如ク、東亜ノ平和維持以外ニ何等ノ目的モ有スルモノデハナイ」ト述ベテヰル。「東亜ノ平和ヲ維持」スルタメ、日本軍ハ四ヶ年ニ亘ッテ中國ノ大部分ノ地域ニ戰爭ト苦難ヲ齎シタ。

一九三七年／昭和十二年／十月二十八日、日本外務省ハ「日本ハ決シテ中國民衆ヲ敵ト視ルモノデハナイ……」ト述ベテヰル。日本ハ中國ニ対スルソノ友情ヲ、一般中國民衆ヲ爆撃シ中國ノ諸都市ヲ焼キ幾百万ノ中國人ノ家ヲ奪ヒ、生計ノ道ヲ絶チ、一般人ヲ虐待殺戮スルコトニ依ッテ又恐怖ト惨虐ノ行為ニ依ッテ示シタ。

一九四〇年／昭和十五年／四月十五日、當時ノ日本外相有田氏ハ「日本政府ハ蘭領東印度ノ現状ニ影響ヲ及ボスベキ如何ナル進展ニ対シテモ深ク憂慮セザルヲ得ナイ」ト述ベタ。ソノ春ノ独逸ニヨル和蘭陀占領ニ次イデ、日本ハ商業使節團ヲ蘭印ニ送リ若シソレガ容レラルル場合ハ、蘭印ヲシテ実際上日本ノ殖民地タラシムルガ如キ譲歩ヲ要求シタ。

一九三七年／昭和十二年／七月中國ニ対スル日本ノ宣戰ノ布告ナキ戰爭勃発後モ、日本ノ民間指導者達ハ、アメリカノ權利ハ尊重サルベキ旨ヲ屢々保證シタ。日本陸軍ハ屢々コノ保證ニ違背

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 8

Doc 2007B

スル行動ニ出ヅ

自 一〇八四頁 一〇八八頁

日本ハ屢々中國ニ於ケルアメリカ人ノ生命及ビ財産ハ尊重サルベキ旨保證シタ。

シカモアメリカ人ノ生命ト財産ハ危險ヲ伴フアメリカ財産爆撃事件ハ確實ニ増加スル數ヲ以テ報告セラレツヽアッタ。

日本ハ屢々中國ニ於ケルアメリカノ條約上ノ權利ハ尊重サルベキ旨保證シタ。コレラノ權利ヲ侵犯スル無數ノ措置ガ日本占領地域ニ於テ實施セラレタ。通商独占ガ行ハレ差別的ナ稅ガ課セラレ、アメリカ財産ガ差押ヘラレタ等モ。

加フルニアメリカ人ハ襲撃サレ、不法ニ抑留サレ侮辱ヲ受ケタ

57

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 9

Doc 20073

(C)日本ノ政策ト米國ノ政策トノ相違

米國ト日本トハ非常ニ懸隔セル觀念ト政策トヲ有スルヲ實ヲ大統領ト余ハ深ク念頭ニ置イテ居ルヲ吾々ハ我ガ政府ガ日本ヲシテ平和的政策ヲ採ルヤウニ仕向ケル爲ニ順次執ル手段ヲ檢討シタ。

五、一九三一年(昭和六年)ニ日本ガ武力ト條約無視トニヨル侵略及拡張ノ約束ヲ出シタル約束ハ侵略的勢力ト平和維持ノ希望ト者トノ間ニ於ケル爲メニ衝突ノ先驅ヲ爲シタモノデアルコトヲ思ヒ出シタ、滿洲ニ於ケル日本ノ約束ニ對スル我ガ政府ノ反對ハ一九三二年(昭和七年)一月七日附ノ國務長官スチムソン氏ヨリ日本政府宛ノ通達及一九三五年(昭和十年)二月二十五日附國際聯盟事務局長宛ノ通達ニモ述ベラレタ。

58

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 2007B

No. 10

一九三三年ノ昭和八年ノ一月十日選出大統領ルーズヴェルト氏ハ或ル質問ニ対スル回答トシテ、次ノ如キ声明書ヲ出スコトニ依ッテ彼ノ國際條約神聖原則支持ヲ明カニシタ。

「余ハ、アメリカノ外交政策ハ國際條約ノ神聖ヲ支持セネバナラヌトイフコトヲ茲ニ進ンデ明カニスル。コレコソ國家間ノ凡テノ関係ガ依ッテ以テ立ッベキ礎石デアル。」

ルーズヴェルト大統領ハ一九三三年三月四日ノ最初ノ就任演説ニ於テ彼ハ善隣政策ノ領野ニ於テコノ國ヲ善隣政策ノ一ト断乎トシテ自己ヲ尊重シソレガ故ニ他ノ權利ヲモ尊重スル隣人ノ一自己ノ義務ヲ尊重シ隣人ノ世界ニ於ケル又ハソレトノ間ノ彼ノ協定ノ神聖ヲ尊重スル隣人ニ一ニ擇ゲル旨ヲ述ベタ。

カクシテ一九三一年ノ昭和六年ノ三月ヨリ一九三三年ノ昭和八年ノ三月ニ亘ッテ日本ガソノ侵略計畫ヲ進メツツアッタ時、アメリカ政府ハ條約ト平和的方法ノ神聖ヲ世界的ニ支持スルコトヲ提唱シテ着実ニ前進シツツアッタノデアル。

一九三四年五月十六日余ハ日本大使斉藤ト一般的会談ヲ約シソレハ余ガ日本側ニ彼等ノ最大ノ利益ハ平和政策ニ從フコトデアルコトヲ説得シヤウト努メタ話ノ多クノ会談ノ一ツデアッタ。

三日後ニ余ハ再ビ日本大使ト会談シタ。会談中大使ハ日本政府ガ日本ハ東亜ノ平和維持ニ関シテ優越セル特殊ナ任務ヲ持ツテヰルトイフ趣旨デ数週間ニ亘リ公ニ提唱シテ居タ

59

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 11

Doc2007B

常套語ヲ繰返シタ。近隣諸國ト領土ニ対シ覇權ヲ振ハントスルハ日本側ノ意圖デアルトイフ意味ガ暗ニ日本側ノ常套語ニ含マレテ居ルヲ以テ日本大使ノ注意ヲ喚起シタ。

昭和十一年六月十二日駐英日本大使トノ会談ノ際日本ハ東亜ヲ始メ次イデソノ外ニ好ム地域ニ対シ経済的支配ヲ及ボサントシテヰルガ如シテ以上ハ防衛軍事的支配ノミデナク政治的支配モ意味スルトイフノハ米國市民ノ受ケタ印象デアルトイフ。余ハ大使ニ平和的且建設的計畫ニ自ラ寔シムスヤノ日本ニ利益ナル旨ヲ力説シタ。

60

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2007B

NO. 12

我々ノ凡ユル説得ヤ努力ニモ拘ラズ日本ハ一九三七年七月支那侵略ヲ開始シタノデアリマス七月十六日合衆國政府ハ平和的方法ノ支持ニ対シ凡ユル國ノ斜合セントスル國際的政策ノ根本原則ニ関スル声明書ヲ出シタ。

更ニ一九三七年八月二十三日、声明書ニ於テ私ハ七月十六日ノ声明書ノ原則ヲ明白ニ支那ニ於ケル事態ニ適用シタ。

茲ニハソノ予要ニ当ッテ、合衆國ガ関心スル論争点ニ米國國民並ビニ米國利権ノ保護トヨリ目下ノ問題ヨリ遠ク以上ノモノデアルト述ベタ。重大ナ戦闘状態世界ノ如何ナル部分ニ於テモ凡ユル國家ノ関心ヲ引キツヽアッタ。故ニ茲ハ中國並ビニ日本両政府ニ対シ敵対行為ヲ制止スル様勧告シタ。

一九三七年昭和十二年十月六日米國政府ハ支那ニ於ケル日本ノ行動ハ國家間ノ関係ヲ律スベキ原則ニ合致セズ又九ヶ國條約及ビ「ブリアンケロッグ」協定ノ規定ニ背クモノナルヲ声明シタ。一九三七年十一月合衆國ハ他ノ十八ヶ國ト共ニ極東ニ「蔓延スル違憲ナル闘争ノ経過ヲ促進スル平和的手段ヲ研究スル」タメ「ブラッセル」ニ於テ開催カレタル会議ニ参加シタ。右会談ハ一九二二年ノ九ヶ國條約ノ規定ニ従ヒ開催カレタル右会議ニ参加シ加ヒ討スル日本政府再三ノ拒否ハ調停ト和解ニ依リ闘争

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 13

2007B

経緯ヲ説明シ日本ノ努力ヲ了承シ且之ニ協力スル旨ヲ述ベタ。尚会談ノ詳細ハ別紙ノ通リデアル。

一、千九百四十年/昭和十五年/四月十五日日本外相ハ南洋地域殊ニ蘭領東印度ニ日本ノ支配ヲ拡張セントスル根本目的ヲ顕ス声明ヲ発表シタ。四月十七日ニ余ハ其ノ声明ヲ知ツタ。余ハ國際関係ニ於ケル蘭領印度ノ重要性ヲ指摘シタ。

余ハ平和的方法ニ依ル以外ニ蘭印ノ内政問題ニ干渉シ又ハ其ノ現状ヲ変更セシメルコトハ蘭印ノ地域ニ於ケル全ノミナラズ全太平洋地域ニ於ケル安定、平和及ビ安全ノタメ有害ナル可キヲ述ベタ。余ハ平和諸原則ガ太平洋ノ各域ニモ適用サラル可キヲ主張シタノデアル。

千九百四十年/昭和十五年冬カラ千九百四十一年/昭和十六年春ノカケテ余ハ日本軍部ノ指導者達ガ布哇ノ数百哩西方ヨリ南洋及ビ印度ニ亘ル全太平洋地域征服ノ使命ニ発足シツツアル模様デアルコトヲ心ニ銘記シ且ツ其旨國会議員及ビ余ノ接触シタ其ノ他ノ米人ニ説明シテ居タ。日本人ハ世界新秩序ノ建設ヲ夢ミツツアルト合作デ武力ヲ以テ立上ツタ而シテ彼等ハ彼等ガ自己ノモノト僭称セル世界ノ半分ニ於ケル新秩序ノ下ニ全平和的國家ヲ参加セシメル力ヲ持ツト思ツタ。

62

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2007 B

No. 14

余ハ一九三三年／昭和八年／カラ余が對日関係ヲ解決スルタメノ組織的且堅実ニシテ眞摯ナル努力ヲ開始シテ丼タコトヲ天下ノ米人ニ語リテ居タ。余ハ日本人ニ接近シ此ノ征服ノ行動ヲヤメル様ニ根等ヲ説服スル何等カノ方途ヲ見出スコトガ人智デ出来得ルコトカ否カヲ知ラウト試ミテ居タ。我々ハ日本人ニ対シテ政治経済及ビ社會的見地カラ根等自身ノ将来ヲ考慮スル様強調シテ居タノデアル。

大統領ガ千九百四十一年／昭和十六年／一月六日議会ニ対スル根ノ演説中『米國ノ安全ガ今日程外部ヨリ由々シク脅威ヲ受ケタコトハ嘗テ無イ』ト公言シタ時根ハ極東ノ情勢ニ着眼シテ丼タ。大統領ハ民主々義的生命ノ全型式ガ驚ク程多數ノ独立國家ニ於テ抹殺サレタ而シテ侵略者ハ他、大小諸國家ヲ脅カシツツ更ニ行進ヲ續ケテ居ルト述ベタ。

千九百四十一年／昭和十六年／一月十五日下院ノ外交委員会ニ提出ノ武器貸與法案ヲ支持スル陳述中余ハ左ノ如ク述ベタ。

『日本ガ西太平洋ノ全域ニ於テ支配的ノ地位ニ自己ヲ確立セントスル廣汎ニシテ覇気満々タル計画ニ依ツテ最初カラ活動シ来レルコトハ終始一貫シテ明白デアル。日本ノ指導者達ハ武力ニ依リ其ノ地位ヲ獲得維持シ斯クテ自己ヲ世界全人口ノ約三分ノ一ヲ含ム地域ノ支配者タラシメントスル根等ハ其ノ結果トシテ根等ハ其ノ地域ニ於ケル海上航路及ビ通商路ノ専断的支配ヲ獲得スルコトニナルデアロウ』

余ハ着々トシテ擴大スル征服ノ組織的残忍且ツ執拗ナル行動ニ人類ガ直面シテ居ルコト並ニ法ヲ遵守スル諸國家ニ依ル公海ノ支配ガ西半球ノ安全ノ鍵デアルコトヲ指摘シタ。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 15

Doc. 2007B

自一一〇三頁至一一〇九頁

三、一九四一年／昭和十六年／七月以前ノ会談及ビ展開

一九四一年／昭和十六年／三月十四日大統領ハ新日本大使野村大将ヲ衷心ヨリ喜ビ迎ヘ二人ハ率直ニ語リ合フコトガ出来ルト云ヒマシタ。併ハ日米間ノ関係ガ悪化シツツアルコトヲ指摘シ日本ノ南進ヤ三國同盟加入ニ云及シマシタ。大統領ハ大使ガ國務長官ト日米関係ノ重大局面ヲ再檢討シ率直ニ協議スルノガ望マシイコトデアルト申シマシタ。

三月八日日本大使トノ最初ノ長時間ノ会談ニ於テ余ハドイツ及ビ日本ガ身勝手ニ太洋及ビ諸大陸ヲ支配セントシテ進軍シ且犠牲者達ノアラユル幸福ヲ無ニシテ利益ヲ得ントスル活動ニ対シ米國民ハコノ上モナク激昂シテヰルトイフコトヲ強調シマシタ。

三月十四日日本大使ハ大統領ト私ニ会見シマシタ。大統領ハ我々二國間ノ問題ヲ武力的ニ衝突スルコトナシニ解決出来ルト言フ大使ノ暗示ニ賛成シ先ヅオ一ノ手順ハ日本ノ意図ニ関スル疑惑ヲ除去スルコトデアラウト力説シマシタ。日本外相松岡氏ガ華々シク豪語シテベルリンニ向フヤラ日本ノ海空軍部隊ガ漸次泰國ノ方ニ移動シツツアルヤラデ重大ナル関心ヤ疑惑ガ存シテ居タノハ言迄モナイノデス。

64

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 16

Doc. 2007 B

四月十六日 私ハ日本大使ト更ニ会談ヲ重ネマシタ。

余ハ、我ガ政府ガ関心ヲ有スル最モ主要ナ前提問題ハ、日本政府ガ武カニ依ル征服ト云フ現在ノ主義ヲ潔ク抛棄スル意志トカヲ持ツ且、我ガ政府ガ各國民関係ノ律スルベキ根抵ト見做シテ斗ル次ノ如キ四綱領ヲ採用スルトニヲ明瞭ナル事前ノ保證デアルコトヲ指摘シマシタ。

(一) 各國民及ビ凡ユル國民ノ領土、保全及ビ主權ヲ尊重スルコト。

(二) 他國ノ内政ニ関シテ不干渉ノ原則ヲ守ルコト。

(三) 商業ノ機會均等ヲ含ミ、均等主義ヲ守ルコト。

(四) 平和的手段ニ依ル現狀変更以外、太平洋ニ於ケル現狀ノ攪乱ヲ避クルコト。

余ハ日本大使ニ我ガ政府ハ以上ノ原則ニ添フ如キモノナラバ、日本政府ノ如何ナル提案ニモ善ク考慮スル旨ヲ傳ヘマシタ。

三月十三日、日本大使ハ一般的解決ニ対スル提案ヲ出シマシタ。

ソノ提案ノ要領ハ合衆國ガ蔣介石ニ日本ト和平交渉ヲスル様要請スベキコトソレニモル高一蔣ガ合衆國ノ右勧告ヲ受入レタイ場合ニハ、合衆國ハ蔣政府ヘ援助ヲ停止スベキコトヲ、又日米間ノ正常ナル通商関係ヲ復活スベキコトヲ、且、合衆國ハ、日本ヲ助ケテ南西太平洋地域ノ天然資源――例ヘバ、石油、ゴム、錫、ニッケル、ボーキサイトノ如キ――ヲ開發スル便宜ヲ得セシムベキコトヲ要求スルコトデシタ。其ノ他日本ハ後ニ之ヲ撤回シマシタガ「フィリッピン」ノ独立ニ対スル合衆國ト日本ノ共同保障、要求、無差別待遇ヲ以テスル、合衆國ヘノ日本人移住ヲ考慮スベキ要求及合衆國ト日本ト提携セヨ「ヨーロッパ」戦争ノ擴大防止ニ、ヨーロッパニ於ケル平和ノ迅速ナル解決、要求、様々ナ條項モアリマシタ

65

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2007 B

No. 17

「十頁」

右提案中ニ尚日本ガ三國同盟ヲ遵守スベキコトガ確ニ言セラレ又「ゾニット」聯邦ガ特ニ除外サレテヰルガ以外ノ時「ヨーロッパ」戰爭ニ八日支紛爭ニ參加シテヰナイ國ノ同盟調印國ノ何レカ攻撃ヲ受ケタ場合ニヲ援助スベキ日本ノ義務ニ就テ特ニ言及セラレテヰマス。

日本ガ中國ニ提示シタ和平條件ハ、ハッキリシタ用語デ明確ニ規定サレテヰナカッタ。シカレドモ丹念ニ吟味スルト、ソレラノ條件ニハ一見何ノ差障リモナイヤウナキマリ文句、假面ヲカブッタ規約デアルガソレニヨリテ日本ハ、中國ニ於ケル様々ナ戰略資源、便宜、諸事業、支配ノ保持ヲ又表面上ハ共産主義ニ對スル共同防衛ノクビキノ下ニ於テ扁範圍、要衝地域ニ日本軍ノ大部隊ヲ駐屯セシメル權利ノ獲得ヲ意味スルト云フ事ガ判明シタ。

コノ日本側申出ニ關係デ其ノ一方的ナルモ拘ラズ我ガ廣範圍ニ解決ヲ成ス一ツノ可能性ヲ見ツケ出スノ爲ノ出發点トシテコノ申出ヲ取上ケタノデアッタ。

解決ハ此ノ國ガ則ッテヰル處ノ原則ニ一致シタ線ニ沿ッテ全太平洋地域ヲ包括スルモノデアッタ。

五月十四日日本外相松岡氏ハ「クルー」大使ト對談ノ際近衛首相ト余ハ日本ノ南方進出ハ只管平和的手段ニヨッテ遂行サルベキデアルト。

66

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 18

Doc. 2007 B

決意ヲ云ヒタルガ同代ハ「事態ガソレヲ不可能ナラシメス限リ」ト意味深長ナル言ヲ附加ヘタ。

ソノ事態トハ何ヲ意味シテヰルカトノ大使ノ問ニ答ヘテ松岡代ハ「イギリス」軍ノ「マレイ」集結ノ他「イギリス」側対案ニ言及シタ。大使ガ斯ル対案ハ何レモ防衛的ナモノデアルトノ外相ハ日本國民一般ハソレヲ一般対策ヲ攻府ニ何等ノ行動ヲ取ル事ヲ強ヒル挑発的ナモノデアルト見做シテヰルト答ヘタ。

一九四一年六月二十七日「ルーズヴェルト」大統領ハ「國家的超非常時」ナル事ヲ宣言シ同日ラヂオ渡説デ我々民主主義擁護策ハ總テ我國ノ保全ヲ計ル事ニ基ヰテヰルノデアルトノコトヲ言明シタ。大統領ハ「ヒットラー」ガ一勝利ヲ占メタ場合ニ発生スルト思ハレル事態ニ就キテ警告シタ。大統領ト余ハソノ宣言ガ「ヒットラー」ノミナラズ日本ノ軍部特官達ニモ留意サレタ事ヲ確信シテヰル。六月二十八日私ハ我々非公式ノ会談カラ日本ト交渉ニ入ル前ニ中國政府ト胸襟ヲ開イテノ申出ヲ含マヘテヰルト日本大使ニ話シタ。

引續キ三週間ノ間ニ種々ノ点ヲ明ラカニシ、喰違ヒヲ少クスル為ニ何回トナク會談ガ行ハレタ。我々ハ繰返シ〳〵次ノ諸点ニ関スル我国ノ態度ヲ説明シタ。即チ合衆國ガ自衛上欧洲戦争ニ捲込マレタ場合ニ於ケル日本ノ對極軸關係ヲ明ラカニスル事、必要ナ他國ノ國内問題ニ対スルオ干渉原則ノ適用及日本軍ノ中國領土カラノ撤退、中國及ノ他太平洋諸地域ニ於ケル通商關係ノ平等原則ノ適用及太平洋ニ於ケル日本ノ平和意圖ヲ確信スベキ事等。我國ガホメテヰルモノハ平和手段トシテ物ヲ云フ様ナ度汎囲ナ協定デアルトイフコトヲ協調シタ。

日本側ハ五月十二日ニ彼等ノ申出ニ対スル完全ナル回答ヲ強要シテヰタノデ六月二十一日大使ニ日本側申出ニ対スル假再成案ノ形式デ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 19

Doc. 2007B

我國ノ意向ガ記サレタ。ソノ再成案ニハモシ各衆國ガ自衛上歐洲戰ニ引込マレテモ日本ハ各衆國ニ對シテ行動ヲ起ス心要ハナイトイフ事ヲハツキリサセル爲、方法ガ提議サレテヰタ。

中國ニ於ル日本軍駐屯ノ問題及中國ト日本トノ間ノ經濟協調ノ問題ノ滿足ナル解決ヲ成シトゲル爲ニ向一層ノ努力ガ爲サルベキデアルトイフコトガ提言サレタ。又各衆國ガ中國政府ニ對スル援助ヲ中止スル意圖デアルトイフ樣ナ提言ニハ除去サレテヰタ。ソノ他種々ノ提示サレタ變更ハ明確化ノ爲ニ我々ガ述ベタ原則ト提示サレタ解決案トヲ一致サセル爲ニナサレタモノデアツタ。

68

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

P1855-1
E110F

日本帝国政府終戦連絡中央事務局
宛名　　連合国軍最高指揮官総司令部
提出者　東京終戦連絡中央事務局
首題　　御前会議開催ノ件
CCAO二七八一号（ppp）一九四六年六月十日

一、表題　首記首題ニ関スル一九四六年五月二十三日附CCAO・マイアー大佐ノ覚書

二、御前会議ノ公式記録ハ各議ノ開催ヲ決定スルニ際スベキ議案ヨリ成ッテヰタ。該会議ノ議題ヲ示ス記録（議事筆録）ハ

[redacted]

六日ニ亘ル夜間ノ会議ノ記録ハ内閣官房ニ保管サレ居ル旨ヲ答ヘタ。

四、　陸軍参謀総長、海軍軍令部総長ガ常ニ該会議ニ出席スルノハ定ノ慣例デアッタ。

会議出席者中ニ含マレテヰタ。軍事関係長官中ニ該会議ニ出席シタ。

御前会議ニ出席スルノハ定ノ慣例デアッタ。

右ニ加フルニ大臣、企画院総裁及一定ノ

大臣ハ特定ノ場合ニ出席シタ。而シ

テ他ノ閣僚ハ其ノ閣議ガ必要ト考ヘラレタ場

合ハ会議ニ時折リ出席スルコトヲ要請サレタ。

会議ノ書記官トシテ内閣書記官長、陸軍々務

局長、海軍々事局長ハ常ニ該会議ニ

22

69

P1855-1

E1107

日本帝国政府終戦連絡中央事務局

宛名　聯合国軍最高指揮官総司令部

提出者　東京終戦連絡中央事務局

首題　御前会議開催人員ノ件

C.P.O.C.二七八一号（P P）一九四六年六月十日

一、参照　前記首題ニ関スル一九四六年五月二十三日附C.S.O.マイアー大佐ノ覚書

二、御前会議ノ公式記録ハ各議ニ関スベキ機密ヨリ成ッテヰタ。該会議ノ警備ニ関シ示ス記ム（銀章参照）ハナカッタ。

三、前述ノ御前会議ノ記録ハ内閣官房ニ保管サレテヰタガ一九四五年五月二十五日ヨリ二十六日ニ亘ル夜間ノ空襲火災ニヨリ焼失シタ。

四、総理大臣、陸軍大臣、海軍大臣、陸軍参謀総長、海軍軍令部総長ガ各ニ該御前会議開催右中ニ含マレテヰタ。内閣書記官長ガ御前会議ニ出席スルノハ伝統ノ慣例デアッタ。右ニ加フルニ大蔵大臣、企画院総裁及一定ノ大臣ハ予定ノ各閣中述ベルニ出席シタ。而シテ他ノ閣僚ハ手ノ閣議ガ必要ト考ヘラレタ場合ハ会議ニ時折リ出席スルコトヲ要請サレタ。会議ノ審記官トシテ内閣書記官長、陸軍々務局長、海軍々務局長ハ御前会議ニ

69

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1835-2

四箇ヶ所。多クノ場合陸軍ヲ誘致又ハ陸軍々
令部又ハ師団司令部ノ所在地ヲ含ム箇所ヲ指
エ、　軍港ニ在レバ海軍ノ名簿記載ノ者ハ左記日
以前ノ各官衙ニ出席シタ。
一九四一年七月二日
一九四一年九月六日
一九四一年十一月五日
一九四一年十二月一日

総理官邸中央ホール
閣議決定事項ノ如キ報告書寫三通
閣議書記官長

局長代理

S。井口（署名）

同封、第二項指示ノ如キ報告書寫三通
閣議決定事項
(A)
(B)
(C)
(D)
(E)
(F)
(G)
(H)
(I)
一九四一年七月二日

内閣書記官長	近衛
内閣総理大臣	松岡
外務大臣	豊田
陸軍大臣	東條
海軍大臣	及川
大蔵大臣	河田
企画院総裁	鈴木
内務大臣	平沼
陸軍参謀総長	杉山

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1.52

議長	枢密院議長
内閣総理大臣	内閣書記官長
陸軍大臣	陸軍省軍事局長
海軍大臣	海軍省軍事局長
拓務大臣	拓務省次官
鉄道大臣	鉄道省次官
内務大臣	内務省警保局長
大蔵大臣	大蔵省主計局長
文部大臣	文部省次官
農林大臣	農林省次官
商工大臣	商工省次官
逓信大臣	逓信省次官
司法大臣	司法省刑事局長
厚生大臣	厚生省次官

一九四一年九月六日

永野	富岡
近原	近原
豊田	藤田
伊原	岡敬

近藤	豊田
伊藤	東條
小倉	及川
武藤	富永
杉山	田邊
永野	富吉
岡敬	伊原
藤田	

71

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1855-1

一九四一年十一月五日

内閣総理大臣兼陸軍大臣　東條

外務大臣　東郷茂徳

海軍大臣　嶋田繁太郎

大蔵大臣　賀屋興宣

企画院総裁　鈴木貞一

国務大臣　岩村通世

内閣書記官長　迫水久常

内閣総理大臣秘書官長　非松四郎

陸軍省軍事課長　佐藤賢了

陸軍省軍務局長　武藤章

海軍省軍事局長　岡敬純

陸軍々令部次長　田邊盛武

海軍々令部次長　伊藤整一

一九四一年十二月一日

内閣総理大臣兼陸軍大臣　東條

外務大臣　東郷茂徳

海軍大臣　嶋田繁太郎

大蔵大臣　賀屋興宣

企画院総裁　鈴木貞一

司法大臣　岩村通世

文部大臣　橋田邦彦

農林大臣　井野碩哉

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

/1-55-

南工大臣
逓信大臣
厚生大臣
陸軍参謀総長
海軍々令部総長
内閣書記官長
内閣企画院総裁
情報局総裁
情報々局次長
軍事課長
総務課長

原 伊田岡武星永杉小寺井

鳥井山野谷藤 迫

73

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

P1632EE

木戸侯日記ヨリ抜萃

昭和十六年／一九四一年／

七月二日（水）晴

午前九時安藤京都府知事来訪面談

午前十時ヨリ宮中ニ於テ御前会議催サレ独ソ開戦ニ伴フ新情勢ニ対応スル国策決定セラル

十二時二十分河田蔵相来室汪政府ニ三億借款許容ニツキ説明

二時ヨリ三時十分迄豊［　］岡外相ノ真意ヲ捕捉スルニ苦ム等ノ［　］

三時二十分武官長ト宮中ニ大本営設置ト其ノ件ニツキ打合ス

三時半下園佐吉来ル面談

七時半廣瀬久忠君来訪面談

74

P1632 E E

木戸侯日記ヨリノ抜萃

昭和十六年（一九四一年）

七月二日（水）曇

午前九時宇藤京都府知事来訪面談

午前十時ヨリ宮中ニ於テ御前會議催サレ仏ノ開戦ニ伴フ新情勢ニ対應スル国策決定セラル

十二時二十分河田蔵相来室汪政府ニ三億借款許容ニツキ説明アリタリ

一時近衛公来室面談松岡外相ノ真意ヲ摘發スルニ苦ムノ話アリタリ

二時ヨリ三時十分迄枢密院御前会議ノ模様等ニツキ承ル

三時二十分武官長ト宮中ニ大本営設置ト葉山行幸ノ件ニツキ打合ス

三時半下園佐吉来廳面談

七時半廣瀬久忠君来訪面談

74

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 1

E 1109

Doc 2731

書類番號二七三

通譯者證明書

私ハ認識番號二一三五一七ニ米國海軍豫備役中佐「イエール、マクノン」ヲ宣誓ノ上左ノ通リ陳述ス（述べ）私ハ爲サレタ問答ヲ英語ヨリ日本語ニ又日本語ヨリ英語ニ夫々眞實ニ飜譯シマシタ

而シテ左ニ列擧セル文書ノ方式ニヨル三十九ノ訊問ヨリ成ル前記問答ノ記錄ニ依リ且ツ言ヘルモノニ限リ眞實ニシテ正確ナモノデアリマス。

佐「イエール、マクノン」署名

一九四六年十月二十五日　余ノ面前ニ於テ

聯合國最高司令官總司令部

國際檢察部

特別調査官「ジョン、アール、フィエリ」署名

4

75

No. 1

doc 2731

E 1109

宣誓書番號二七三

通譯者證明書

私ハ認識番號二一三五一七ニ米國海軍豫備役中佐「イエールマリン」ガ宣誓ノ上左ノ通リ陳述ス　私ハ右ノ問答ヲ英語ヨリ日本語ニ又日本語ヨリ英語ニ夫々眞實ニ飜譯シマシタ

而シテ左ニ列擧セル文書ノ方式ニヨル三十九ノ訊問ニ對シ成ル前記問答ノ記錄ハ私ノ知リ且ツ信ズル限リ眞實ニシテ正確ナモノデアリマス、

米國海軍豫備役中佐「イエールマリン」署名

右、意本一九四六年（昭和二十一年）十月二十五日　余ノ面前ニ於テ宣誓ノ上署名セリ。

聯合國最高司令官總司令部

國際檢察部

特別調査官「ジョン・ケント・フィエリ」署名

4

75

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 2

Doc 2731

速記者證明書

私即チ「マートル、ビー、ミルス」ハ左ニ列擧ル訊問ニ際シ速記者ヲ勤メ茲ニ添附シタル面ニ於ケル茲ノ記錄ハ私ノ知リ且ツ信ズル限リ眞實ニシテ且ツ正確ナル速記ナル事ヲ茲ニ證明シマス

「マートル、ビー、ミルス」署名

訊問者證明書

私「ジョン・アダムス・ブルーリー」ハ左記日附ニ來ル英機ガ私ノ面前ニ出頭シ「イエール、ラッソン」中佐ノ通譯ニ依リ左記書類ノ通リ宣誓ノ上訊問ニ對スル應答ヲナシタル事ヲ證明ス.

一九四六年二月七日（書類番號 四九九）
一九四六年二月八日（書類番號 五〇〇）
一九四六年二月十一日（書類番號 五〇一）
一九四六年二月十二日（書類番號 五〇二）
一九四六年二月十八日（書類番號 五〇三）
一九四六年二月十九日（書類番號 五〇四）
一九四六年二月二十日（書類番號 五〇五）
一九四六年二月二十一日（書類番號 五〇六）
一九四六年二月二十二日（書類番號 五〇七）
一九四六年二月二十三日（書類番號 五〇八）
一九四六年二月二十五日（書類番號 五〇九）
一九四六年三月十一日（書類番號 五一〇）
一九四六年三月十二日（書類番號 五一一）
一九四六年三月十三日（書類番號 五一二）
一九四六年三月十四日（書類番號 五一三）
一九四六年三月十五日（書類番號 五一四）

76

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 3.

Doc 2731

一九四六年三月十八日	書類番號 二五一三		
一九四六年三月二十五日	書類番號 二五一四		
一九四六年三月二十六日	書類番號 二五一五		
一九四六年一月六日	書類番號 四一五二		
一九四六年一月七日	書類番號 四一五三		
一九四六年一月十八日	書類番號 四一五四		
一九四六年一月二十三日	書類番號 四一五八		
一九四六年一月二十四日	書類番號 四一五九		
一九四六年一月二十八日	書類番號 四一六〇		
一九四六年一月二十九日	書類番號 四一六一		
一九四六年一月二十日	書類番號 四一六二		
一九四六年一月一日	書類番號 四一六三		
一九四六年二月四日	書類番號 四一六四		
一九四六年二月十五日	書類番號 四一六七		
一九四六年三月 五日	書類番號 四一七三		
一九四六年三月 九日	書類番號 四一七四		
一九四六年三月 七日	書類番號 四一七五		
一九四六年三月 八日	書類番號 四一七六		
一九四六年三月十三日	書類番號 四一七七		
一九四六年三月十九日	書類番號 四一七八		
一九四六年三月二十日	書類番號 四一七九		
一九四六年三月二十七日	書類番號 四一八一		
一九四六年三月三十八日	書類番號 四一八二		
一九四六年三月二十九日	書類番號 四一八三		

「ジョン、ダブリュー、フェリー」

場所 日本 東京

附、一九四六年昭和二十年十月二十五日

77

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E' 1110R P2502B

東條更機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃

一九四六年二月十三日

「オハ一九頁」

問、誰ガ昭和十六年七月ノ此ノ前会議ノ奏請ヲシタノデスカ

答、帝領印度支那ノ南部ニ軍隊ヲ進駐セシメル問題ガ主要ナ問題デアリマシタカラ陸軍大臣デアッタト思ヒマス

問、貴方ガ此会議ノ奏請ヲシタ次第ヲ述ベテ下サイ。

答、実際ノ起ガ言ヒ出シタノデアリマス。

絶対機密ヲ始ト(同意)ヨリ決定セラレタノデス。貴方ハ此ノ会議ハ連絡会議ト違ッテ陸軍大臣ガ主ニナッテヤッテヰルト云フ様ニ言ヒマシタガ如何デアリマスカ

答、連絡会議ト違ヒ陸軍大臣、海軍大臣及現理大臣ノ三人ノ長官ニ依ッテ行ハレルト云フ様ナ実際ノ案ハアリマセン。

問、連絡会議デ陸軍前会議ノ奏請ノ決定ガ公ニサレタノデスカ

答、公ニサレマセン。又今迄ノ経験ニ徴シテ公ニスルコトハ出来ナイト思ヒマス。

問、此ノ会議ノ奏請ヲシタ後ニ於テ今申シ上ゲタ順序デ天皇ノ裁可ヲ経タノデアリマス。然シ南部仏印度支那ヘノ軍隊ノ移動ニ関スル責任ハ陸軍大臣トシテノ私ノ責任デアリマスカラ之ニ対シ同意(避)ノ様ナ表情ヲスルコトハ私ニハ不愉快ナコトデス。

78

東條支機ニ対スル訊問ヨリノ抜萃

一九四六年二月十二日

「ポハ一九頁」

問、誰ガ昭和十六年七月ノ此ノ南部仏印前進ノ会議ノ参請ヲ出シタノデスカ

答、軍令部ト陸軍ノ軍隊ヲ進駐サセル問題ガ主要ナ問題デアッタカラ陸軍大臣デアッタト思イマス

問、貴方ガ陸軍大臣デアッタノデス。

答、実際ノ兵ヲ動カス統帥ノ事ハ参謀総長ト軍令部総長ガ協議ノ上決定セラレタノデスカラ此ノ会議ハ統帥ニ関スル事ト私ハ思ッテ居リマシタ。勿論ソノ会議ニハ参謀総長、軍令部総長、陸軍大臣、海軍大臣、外務大臣ガ出席シテ居リマス。何故ナラバ統帥ト国務トハ密接ナ関係ガアルカラデアリマス。ソレカラ実ノ実際ノ実施ニ当ッテハ陸軍大臣、海軍大臣ノ協力ヲ必要トスルカラデアリマス。ソレカラ実ノ実際ノ実施ニ当ッテハ陸軍大臣、海軍大臣ノ協力ヲ必要トスルカラデアリマス。

78

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1111 (5)P 4062 J
Item 3

伯林　九四年（昭和十九年）七月三日
発遠國外務大臣宛　ヘレダイア

[redacted]

丁抹足否蘭瑞典洪諸國承認問シ又島大使ト討議ノ機会ニ乗ジ大使ヨリ「外交評論」ニ付テ語ニ掛ケタ。此ノ中立國諸國ノ日本ノ態度ヲ問如ノ如ク程ニ表現セラレテホルトデアル。

又島ニ余ニリレニ就テ次ノ如ク語ツタ。彼ハ今晩東京ヲ現在ノ日本ノ処置ニ関スル假報告ヲ得タニ大略次ノ如ク述ベテホル。

(一)三國協定ノ内容及精神ニ係リ今後モ日本ノ外交政策ノ基礎トシ益々之ヲ強化スル事ニ決シタ

(二)日本ハ獨逸ト共ニ全面的ニ共産主義的諸組織ト闘ハント欲シ此ノ爲ニハ軍備（延ラハ満洲國ニ於ケル）ヲ強化セント欲シテホル

(三)南西太平洋ニ於ケル英國及米國ニ対スル圧迫ニ依リ日本ハ両アングロサクソン國ヲ東亜ノ舞台ヨリ駆逐セント欲シテホル

(四)アニユル手段ヲ以テ支那事変ノ終了ニ努力ヲ爲サル筈デアル。大使ハ特ニ事変ガ不可解デアル。彼ハ電報ニ依リ大使ニ歴史的機会ヲ逸スル勿レト警告シタ。

尚言ヲ俟タヌ。

余ハ大島大使ニ敬意ヲ表シ本報告ヲ更ニオット大使ガ我々ニ唯今同様ノ不満足ナ報告ヲ爲シタニ付テモ承知シテ呉タニハ情報ニ依ツテモ承知シテホル。

ヴアイス　ゼツカー

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1111 (S) Y 4062 J

Item 3

伯林 一九四一年（昭和十六年）七月三日
発 独逸國外務大臣宛 テレタイプ

丁抹及芬蘭駐在独逸公使ヨリ承認ニ関シ大島大使ト討議ノ機会ニ於ケル最近ノ外交評論ニ付テ語ニ関ケル。此ノ中ニ関係ノ各大使ノ態度ガ明知ノ如ク程々ニ表現サレテオルノデアル。

本ノ態度ガ明知ノ如ク程々ニ表現サレテオルノデアル。

大島ハ余リニ軟ク次ノ如ク語ッタ。彼ハ今晩東京ヨリ現在ノ日本ノ総理ニ関スル報告ヲ得タニ大略次ノ如ク述ベテオル。

(一) 三國協定ノ内容ヲ精神ヲ守リ今後モ日本ノ外交政策ノ基礎トシテ維持スル。

(二) 日本ハ独逸ト共ニ帝國ヲ兵産主義的諸組織ト闘ハントスルノ為ニノ軍備（殊ニ海洲國ニオケル）ヲ強化セント欲シテオル

(三) 南西太平洋ニ於ケル英國ニ対スル压迫ニ依リ日本ハ両ツノロケクソン國ヲ緊縛シント欲シテオル

(四) ニニ九ヲ経ヲ経テ支那事変ノ為サレタルガ大島ハ云ウ。彼ハ此ノ報告ヲ特ニ重大ナルモノトハ考エテオラヌ。彼ハ電モ接テ註釈ヲ東京ニ報ジタガ、彼ハ此ノ点ニ関シ大ナル危険ヲ感ジテオラヌ。結論トシテハ彼ハ軟弱ナ日本ノ政策ヲ共同シテ代表シ度ク思ッテオル

ト明言シタ。

余ハ大島大使ノ此ノ報告ヲ更ニ、オット大使ガ我々ニ唯今（昨日）会議ノ不満足ヲ経過ニ付報告シテ来タトキノ情報ニ依ッテモ亦保證シ得。

ヴアイス ゼプカー

99

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2

書類ハ四〇六二号

證

4062
Item 3

余 Ulrich Straus ハ余ガ熟知ス 語及ビ
日本語ニ精通セル者ナルコト並ニ
舩逸語原文及ビ 日本 語原文ヲ対照シ
右八本書類ヲ以テ真正確ニ翻訳セルモ
ノナルヲ確證ス

Ulrich A. Straus

80

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Order 263 [illegible]

Cummings Certificate P 4062
E 1111

供　述　書

余、W.P. カミング（W. P. CUMMING）
ハ正ニ宣誓シテ次ノ諸項ヲ証言ス

一、余ハ合衆國國務省國、同國陸軍省民事局政治顧問部員タル事、及右ニ依リ余ハ（合衆國）領域軍政部代表ノ一員タルコト、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ領域外務省所在、倍米文書本部ニ於ル歯種領域外務省提供文書並ニ文庫、原本ノ占有、保管、管理ニ任シアル事。

二、上述領域外務省提供文書並ニ文庫ノ原本ハ聯合國総司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ歯種征算技高司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ歯種取得セラレ、其在係ノ下ニ、初メ領域國[illegible]

[redacted]

[illegible]算責任官ヨリ上述セル[illegible]

[illegible]セラレタルモノナル事

[illegible]日、領域マールプルグ

ニ於テ、上述文書本部領管ヲ命ゼラレタル事。

是ニ伝リテ該歯種領域外務省提供文書並文庫原本ハ、余ノ占有、保管、管理ニ帰シ、而来引続キ余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事

1.

81

1.

Cummings Certificate P 4062
E 1111

供　　書

余、W.P.カミング（W.P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ陳述ヲ為ス

一、余ハ合衆國國務省員、而シテ同部員タル事、及右ニ述リ余ハ（合衆國）陸軍省軍政部代表ノ一員タルコト、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ陸軍省ノ占有、保管、管理ニ在シテル事。

二、上述ノ通リ陸軍省ハ文書並ニ文書ノ原本ハ聯合國遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ直接取得セラレ、其後ハ初メ聯合マールブルグニ於テ該軍隊ニヨリテ軍文書本部ニ蒐集セラレ、後該聯合軍司令官ヨリ上述セル／佰林／文書本部ニ引渡サレタルモノナル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、陸軍マールブルグニ於テ、上述文書本部ヲ命ゼラレタル事。是ニ仍リテ該陸軍省陸軍外務省集積文書並文書原本ハ、余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘 面 白 紙

（令第 四 号）　　総 参 謀 副 長 発

ACTING ADJUTANT GENERAL

LT. COLONEL, AGD

在京四国軍司令官宛

G. H. GARDE

マ ー ク・ク ラ ー ク 大 将 ノ 件

一 九 四 六 年 四 月 二 十 三 日 参 謀 副 長 ヨ リ 在 京 四 国 軍 司 令 官 宛 電 報 文

中 佐

（A. P. CUMMING）

アメリカ陸軍軍人

Cleaning & Pressing

A 森 ニ 於 ケ ル 米 軍 ト ノ 会 ノ 際 ハ 常 ニ 軍 服 ヲ 清 潔 ニ シ 折 目 ヲ 正 シ ク ス ル コ ト ニ 注 意 ヲ 払 ヒ 度 シ 尚 ボ タ ン ノ 欠 ケ タ ル モ ノ ハ 直 ス カ 又 ハ 取 換 ヘ ル コ ト ヲ 要 ス 尚 ボ タ ン ノ 取 換 ヘ ハ 当 分 ノ 間 ハ 困 難 ナ ル ヲ 以 テ 此 ノ 点 ニ 付 テ モ 注 意 ヲ 払 ヒ 度 シ

B 軍 服 ノ 洗 濯 ハ 当 分 ノ 間 ハ 困 難 ナ ル ヲ 以 テ 此 ノ 点 ニ 付 テ モ 注 意 ヲ 払 ヒ 度 シ

C 軍 服 ノ 修 理 ハ 当 分 ノ 間 ハ 困 難 ナ ル ヲ 以 テ 此 ノ 点 ニ 付 テ モ 注 意 ヲ 払 ヒ 度 シ

E1112 Vcc P 1632W (54) Order No. 64 (6)

1112

木戸侯爵日記

昭和十六年七月五日ノ

七月五日（土）晴

午前九時徳建氏來訪面談

十時二十分ヨリ十一時三十五分迄内閣顧問会議

陸軍ニ於テハ今回ノ南部仏印進駐ニツキ内閣ハ今日頃

迄ニ何等カノ声明ヲ為スヘキ旨ヲ主張シ

一時半由崎総監來邸懇談安ニツキ敎育ノ點ク

二時松岡外相參内面談帰邸即チ

ヨリ右ノ外交々渉ヲ進メントシツルトコロ外部ニ

漏レタルト見ヘクレーギーヨリ右ノ事實ナレバ英

國トシテハ極メテシーリアスナ問題ト考フル旨ノ

申入ヲ大使次官ニナシタルヲ以テ之カ進渉ヲ見

ル爲メ五日許リ延期スル次第ナリトノ話アリタリ

四時頃宅四時半岡田文秀氏來訪面談

E1112 Dec P 1632 W (54) Auth 1112 (6)

木戸侯爵日記

昭和十六年七月五日ヨ

七月五日（土）晴

午前九時徳建氏來訪面談

十時二十分ヨリ十一時三十五分迄井誾重今部ノ項

黙云々等ニツキ御話アリタリ

一時半山崎総監來應治安ニツキ御話アリタリ

二時松岡外相參内面談帰途ニツキ官邸ニ立寄ル

ヨリ右ノ外交々渉ヲ進メントシツツアルトコロ昇部ニ

過レタルト見ヘクレーギーヨリ右ノ事實ナレバ英

國トシテハ極メテシーリアスナ問題ト考フル旨ノ

申入ヲ大橋次官ニナシタル事實ヨリ之カ進移ヲ見

ル爲メ五日許リ延期スル次心ナリトノ話アリタリ

四時過宅ニ時半岡田文秀氏來訪面談

裏面白紙

[redacted]

Dec S4062k
Stm
E(1113) (7)

No 1

84

No 1

Ord 4062 K
Stm
E 1113 (7)

84

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

702

Doc 4062K
Item 15

[illegible]

85

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No3

Doc 4062K
Item 15

書類第四ニ六ニ號

證

余 Ulrich Altmann ハ余ヲ指導シ
日本語ニ精通スル者ニシテ
原文ノ日本語原文ヲ対照シ之ニ基ク本書類ノ譯文ヲ
ニ基ク本書類ノ譯文ヲ確實ナルヲ確證ス

Ulrich A. Altmann

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Order 265

1.

Cumming's Certificate p4062K

E1113

供述書

余、W.P.カミング（W.P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ諸項ヲ証言ス

一、余ハ合衆国国務省内、同国独逸関係事項政治課副部長タル事、及右ニ依リ余ハ（合衆国）独逸軍政部代表ノ一員タルコト、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ独逸伯林所在、独逸文書本部ニ於ル独逸外務省秘密文書並ニ文庫、原本ノ占有、保管、管理ニ任シアル事。

二、上述独逸外務省秘密文書並ニ文庫ノ原本ハ聯合国遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ独逸国内ニ於テ押収セラレ[illegible]係ノ下ニ、初メ独逸関[illegible]独逸ニヨリテ軍文書本部[illegible]官軍任官ヨリ上述セル[illegible]官セラレタルモノナル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、独逸マールブルグニ於テ、上述文書本部総管ヲ命ゼラレタル事。是ニ仍リテ該独逸外務省秘密文書並文庫原本ハ、余ハ独逸マールブルグ在営時、初メテ余ノ占有、保管、管理ニ帰シ、爾来引続キ余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事。

87

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参考白紙

Documents de référence pour
E-1113

（ＡＰ．ＰＤ．ＣＵＭＭＩＮＧＳ）

参考資料ノ訳文

一、正ニ直面シテ次ノ（ａ）ヨリ（ｄ）ノ問題ハ、同盟国ノ全般的ナ利益ニ関係ヲ有スルモノデアル。

（ａ）連合国軍ノ占領ノ目的ハ、日本ガ再ビ米国ノ脅威トナリ又ハ世界ノ平和及安全ヲ脅カス国ト為ルコトヲ不可能ナラシムルニ在リ、且ツ此ノ目的ノ為ニハ、日本ノ軍国主義ノ根絶ヲ確実ニスルノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

（ｂ）日本ノ軍国主義ノ根絶ヲ確実ニスル為ニハ、日本ノ軍事力ノ再建ヲ不可能ナラシムルニ足ル経済力ノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

（ｃ）日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

（ｄ）日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

二、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

三、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

四、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

五、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

六、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

七、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

八、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

九、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

十、日本ノ経済力ノ発展ヲ許ス範囲ハ、日本ガ其ノ隣国ニ対シ又ハ世界貿易ニ於テ、再ビ脅威ヲ与エザル様ナ経済活動ニ参加スルヲ得シムルニ足ル丈ケノ発展ヲ許スノ外、尚ホ一層ノ措置ヲ執ルノ必要アルコト。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

（合衆国）陸軍軍事顧問団

ACTING ADJUTANT GENERAL,
1, T, COLONEL, AGD
高級副官補佐官代理
BRIGADIER GENERAL
中将 シーハウゼ・カリー

一、九四六年四月二十三日午後二時ニ発ヲ号令且ツ

真崎大将

二、陸軍軍事顧問団ノ本部、参謀、各課ノ将校及ビ其ノ家族ハ、左記ノ船舶ニ乗船シ、指定ノ埠頭ニ於テ、指定ノ時刻ニ、指定ノ場所ニ集合スベシ。

船舶名 ゲアリー・ビーチ・ビクトリー

埠頭 横浜第一埠頭

集合時刻 午前十時

集合場所 埠頭ノ陸側入口

三、荷物ハ、一人当リ、手荷物ノ外、船室ニ持込ミ得ル小荷物一個ニ限ル。

四、集合ノ際携帯スベキ書類ハ、左ノ通リ。

(1) 乗船名簿（三通）
(2) 旅券
(3) 健康証明書
(4) 予防注射証明書
(5) 税関申告書
(6) 荷物引換証

Cummings Confidential

秦面白紙

P. [illegible]

E 1114

Doc 40520 Item 2

電報（秘密暗号法）

東京一九四一年（昭和十六年）七月十日午後十時五十分

着 〃 〃 十六日七時三十分

七月十二日付第一三四六號 大至急

秘

欄外註

番號ナシデ特別列車ヘ轉送セラレタシ

日本外務次官ハ十度私ノ来訪ヲ求メ極秘ニ取扱ヒヲ欲シタル上

左ノ事ヲ傳（タ）日本政府ハ「ヴィーシー」ノ日本大使ニ南佛印

ニ於ケル日本軍隊ヲ駐屯セシメ「イゴ」ト「コモラン」ニ航空基地ヲ設定スル旨通告シ

名ノ（ツ）ヒ（テ）ノ通告ニ基キ數箇月ニ亘リ「フランス」政府ト交渉スル様ニ指令ヲ發シ

タル旨「ド・ゴール」ノ運動ニ有害ナル進メラレル旨「ド・ゴール」ノ運動ニ有害ナル

ヲ以テ共同防衛ヲ目的トスル日本政府ハ

印度支那ノ平和的發展ニ政治的經濟的ニ特ニ經濟的ニ倉

糧ト原料ノ重大ナル供給ヲ確保スル爲ニ非常ニ關心ヲ有スル日

本政府ハ仍テ領土的意圖ナク、印度支那ノ主權ヲ侵害

スル積リハナイシ即チ佛印ノ協定及ビ最近署名セラレタ「フランス」政府

トノ印度支那ニ關スル條約ヲ遵守

セントノ目的ヲ以テ和的方法ニ依ッテ達成セントヲ希望シテヰルガ萬一

英米側カラノ干渉ニ對シテハ絶對ニソノ主張ヲ貫徹スル決

心ダアル、日本ハ交渉ガ七月二十日マデニ成功裡ニ終ラシメソレカラ

佛領ニ對シテ始ユル事ヲ期待シテ居ルガ、「フランス」政府ガ萬一日本ノ

依賴ニ對シテ拒否政府ノ援助ヲ要求スルナラバ日本ハ獨自

ノ「ヴィーシー」ニ働キカケル旨ニ

御教ニシクダ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1114 P.Jan 46

D00 40452C Item 2

電報（秘密暗号法）

東京 一九四一年（昭和十六年）七月十五日十時五十分発

着 〃 〃 十六日七時三十分

七月十五日付第一三四六號

秋

欄外註

番號ナシデ特別列車ヘ轉送 七月十六日発電 ㊙

日米外務次官ハ十度私ノ来訪ヲ求メ極秘ノ取扱ヒヲ欲ヒタルトテ次ノ通リ傳（タ）日本政府ハ「ヴィーシー」ノ日本大使ニ南佛印ニ於ケル日本軍隊ヲ駐屯セシメ「コインゴと」「コモラン」ニ航空基地ヲ設定スル「フランス」政府ノ許ノヲ得ル爲「フランス」政府ト交渉スル旨ニ指令ヲ発シタ、其ノ目的ハ米英側ヨリ進メラレル「ド・ゴール」ノ運動ノ有害ナル影響ヲ防ギ「フランス」当局ト共同防衛デアル、日本政府ハ印度支那ノ本和的発展ニハ政治的経済的ニ特ニ経済的ニ多大ノ利害ヲ有スル爲ニ非常ニ関心ヲ有スル旨、本政府ハ仏印ノ主権ヲ侵害スル積リハナイシ、又仏印ノ領土的意図モナク、印度支那ノ主権ヲ侵害トノ印度支那ニ関スル條約ヲ遵守スル積リデアル、日本政府ハ自己ノ目的ヲ平和的方法ニ依ツテ達成セントヲ希望シテヰルガ萬一英米側カラノ干渉ニ遭ヒテハ絶対ニソノ主張ヲ貫徹スル決心デアル、日本ハ交渉ガ七月二十日マデニ成功裡ニ終ラシメソレカラ仏領ガ始マルヲ期待シテ居ル、「フランス」政府ガ萬一日本ノ依頼ニ對シテ独乙政府ノ援助ヲ要求スルナラバ日本ハ独乙ノ為ニ働キカケル旨ニ

1/

22

89

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 4052C

伊太利大使ニハ同ジ趣旨ノ事ヲ知ラサルデアラウ、他ノ政府並ニ東京駐在ノ「アランス」大使ニハ何等通知サレナイデアラウ

オット

書類第四五二C號
證

余 Ulrich Stahl ハ余ガ独乙語及ビ日本語ニ精通セル者ナルコト並ニ独乙語原文及ビ日本語原文ヲ對照ノ上、右ハ本書類ヲ眞實且、正確ニ飜譯セルモノナルヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス

Ulrich, a. Stahl

90

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

91

余、W.P.カミング（W. P. CUMMING）

[redacted]

台湾ハ勝国ヨリ無償譲渡ヲ受ケタルモノニシテ下ニ在ル臣民ハ悉ク日本臣民ノ資格ヲ有スルモノニシテ、其ノ待遇ハ内地人ト異ルコトナシ。

余ハ一九四五年八月十五日、台湾ニ到着セルヲ以テ、台湾ニ於ケル日本軍ノ降伏文書ニ署名スル為メ、台湾ニ於ケル日本軍ノ代表者ト会見スル為メ、台湾ニ赴キタルモノナリ。

[redacted]

余ハ、本日ノ会見ニ於テ、台湾ニ於ケル日本軍ノ降伏文書ニ署名スルニ当リ、台湾ニ於ケル日本軍ノ代表者ニ対シ、左ノ命令ヲ発スルモノナリ。

1.

1.

Cummings Certificate 4052C
E 1124

保証書

余、W.P.カミング（W.P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ諸項ヲ証言ス

一、余ハ合衆国国務省補、同省独逸政府記録取扱局同部長タル事、及右ニ依リ余ハ（合衆国）独逸軍政部代表ノ一員タルコト、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ独逸伯林所在、伯林文書本部ニ於ル鹵獲独逸外務省蒐録文書並ニ文庫、原本ノ占有、保管、管理ニ任シアル事。

二、上述独逸外務省蒐録文書並ニ文庫ノ原本ハ聯合国遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ鹵獲保有セラレ、其指揮ノ下ニ、初メ独逸国マールブルグニ於テ該軍隊ニヨリテ軍文書本部ニ蒐集セラレ、後聯合軍当任官ヨリ上述セル伯林ノ文書本部ニ移管セラレタルモノナル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、独逸マールブルグニ於テ、上述文書本部総管ヲ命ゼラレタル者。是ニ仍リテ該鹵獲独逸外務省蒐録文書並文庫原本ハ、余ハ独逸マールブルグ在住当時、初メテ余ノ占有、保管、管理ニ帰シ、爾来引続キ余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事。

91

Cumming's Certificate

同奈ノ此供述書ノ添附セラルヽ所ノ文書ハ上述ノ
司法外務省案證文書並ニ文庫トシテ、倒産セラ
レ、奈ノ占有、保管ニ歸シ、且奈ノ管理ノ下ニ
置カレタル、司法外務省文書原本ノ、眞正精確
ナル直接復寫寫眞ノ謄本タル事

茲ニ添附セラレタル直接復寫寫眞謄本ノ文書原
本ハ、奈ノ保管、管理ノ下ニ、各方面代表者ノ
點檢閲覧ニ供スル如クナシアリ、爲ニ該原本ヲ
流用ナシ得サルガ故ニ、該原本ノ寫眞謄本ヲ供
シ且ツ之ガ證明ヲナスモノナル事

ダブルユー・ピー・カミング
（W. P. CUMMING）

一九四六年四月二十三日奈ノ面前ニ於テ署名且
宣誓ス

中佐　ジー・エッチ・ガード
G. H. GARDE
高級副官事務取扱
E. S. OCCUPATION AGD
ACTING ADJUTANT GENERAL
（合衆國）　司法局政部

92

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1115

Dec 16.32 W (AC)

(61) 1116

1115

1

木戸侯爵日記

昭和十六年七月十五日分

七月十五日（火）

晴

午前八時松平恒雄宮内大臣官長真京ヨリ来訪

近衛首相ト連絡ノ結果ニツキ報告ヲ得タリ

一、日米諒解ニ関シテハ首相ハ自信可ナリト為シ居ルモノアリ

寧ロタラザルモノアリ

一、昨日迄ノ情況ニテハ首相ハ自信可ナリト為シ居ルモノアリ

ノ手許ニテ作製セル案ニ対シ外相ニ於テ豊少ノ修正ニテ直ニスル様ナレバ此儘ニテ進ム考ヘナリシガ

外相ハ作製直ニ賛成ヲ見テ案ニハ異存ナキルステートメントハ国際ナスル旨ノ電話ヲ野村大使ニ送ヲ電話シタシトノ意見ナルガ之ニ対シ首相ハ若シ右ノ如ク進ベバ米国側ハ嘗然従来ノ交渉ヲ打切ルモノト考フルノ虞アレバ之ヲ同時ニ電話スルヲ可トストノ意見ナリキ右ニ対シ書記官長同ハ大使ニ於テ可然取計フベケレバ外相ノ意見ノ通リ進ビテハ

93

E-1115
1. Doc 1632W (60) (1115) (61) 1116
72
9

木戸侯爵日記

昭和十六年七月十五日分

七月十五日（火）

一、午前八時富田書記官長東京ヨリ来訪
近衛首相ト会談ノ結果ニツキ報告ヲ得タリ

一、日米諒解案ニ就テハ依然松岡外相ノ態度ニ
釈然タラザルモノアリ

一、昨日迄ノ情況ニテハ首相ハ陸海両軍務局長
ノ手許ニテ作製セル案ニ対シ外相ニ於テ些
少ノ修正ニテ同意スル様ナレバ此際ニテ進
ム考ヘナリシガ
外相ハ昨日軍務局長案ヲ見テ案ニハ異存ナキ
モハル長官ノオーラルステートメントハ国辱
ナレバ先ヅ之ヲ拒否スル旨ノ電訓ヲ野村大使
ニ与ヘ然ル後ニ修正案ヲ電訓シタシトノ意見
ナルガ之ニ対シ首相ハ若シ右ノ如ク運ベバ米
国側ハ当然従来ノ交渉ヲ打切ルモノト考フル
ノ虞アレバ之ヲ同時ニ電訓スルヲ可トストノ
意見ナリキ右ニ対シ斎藤顧問ハ大使ニ於テ可
然取計フベケレバ外相ノ意見ノ通リ運ビテハ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 1632-W(60)

如何トノコトナリシガ首相ハ之ニ同意セズ同
原閣ヲ外相ノ許ニ遣シ首相ノ意見ニ同意ヲ求
メシメタリ以上ガ昨夜十時半頃迄ノ状況ナリ
然ルニ今朝一時半首相ヨリ電話ニテ其後一向
志奉ナキヲ以テ寺崎局長ヲシテ取調サセタル
ニ大臣ハ一時半頃ニ局長ヲ通ジ
[illegible]
後ニテ禁中ニ参リ内大臣ト今後ノ處置ニツキ
[illegible]
[illegible]
右ニツキ総督官房トモ一緒懇談ノ場合ニ處ス
ル方針ニツキ打合ス
今日ノ実情ヨリスレバ高等警察ノ全従等迅速
止メシテ厳張セル国民ニ對シ政策ソレモ理由
ノ不明瞭ナル政策ハ絶對ニ避クルコトヲ要ス
ル点先ヅ第一ハ外相ヲ時急セシムルコトヲ真ス
ソレガ実現出来ザル事情アリタル場合ハ総督
懇ノ上ナキモ其ノ場合ニハ吾陣下ノ方針ヲ以
テ能ク迅モ近衛公ヲシテ重大事局ノ収拾ニ當
ラシムルコトニ決意ス
十一時出勤
一時三十五分ヨリ二時迄拝謁以上ノ事情ノ大
要ヲ言上ス
三時近衛首相東京ヨリ参邸

94

裏面白紙

3. Doc 1632 W (60)

直ニ面会シ時二十分迄懇談ス、大臣秘書官長ヨリ昨ヤイルト同様ノ事情ナリヨッテ余ハ此際出来得ル限リ政治ヲ避クル為メ外相ノ庭決ヲ求メルコトヲ勧メタルモ首相ハ其ノ場合ニハ差間ハ必ズ米国ノ意向ニ付閣ヲ改造シタリト云ア直接ヲ「ハル」ニ会ヒタキカラズト原則ニハ変リナキ旨ヲ述ベタルニ首相ハ其ノ影響甚白ニテ容易ニ組閣セラレザリキ

同時二十分近衛公爵訪ス御前ヲ退下後五時二十分ヨリ同四十分迄頁ニ面談組閣シタルモ結局セラルヽニ至ラザリキ

六時迄息子ニ関ル東京ヨリ富田書次郎治同夫人帰子ト共ニ来訪

小松侯令嬢のぶ子さんヲ挙ゲノ旨昨ノ話ハ原町ニ住ミ小松侯ノ方ニテモ異存ナシトノコトニテ昌決定スタ食ヲ共ニス挙ゲ挙式夜来迄

95

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1116

Doc P 1632 W (61)

1116

木戸侯爵日記

昭和十六年七月十六日分

七月十六日　午前十時閣議
　　十一時ヨリ十二時迄拝謁
木曜　二時ヨリ山下奨文中将ノ御進講アリ陪聴ス

四時松平侯ヨリ電話ニテ内閣ハ五時半ヨリ臨時閣議ヲ開キ総辞職ニ決セリト四時十分ヨリ二十分迄拝謁右ノ趣ヲ言上ス

1.

伯夫妻ト倉食ス　分発電車ニテ帰京一旦帰宅鶴
七時二十五分歌舞伎座ニテ松平ノ秘書官長同伴通子ニ逢リ直ニ築山御用邸ニ入ル　ワンニ於ケル富田健二郎氏ミ小松侯夫妻令息令嬢甘露寺

96

E 1116

Doc P 1632 W (61)

1116

1.

木戸侯爵日記

昭和十六年七月十六日分

七月十六日　水曜

午前十時閣議

十一時ヨリ十二時迄拝謁

二時ヨリ山下奉文中将ノ御進講アリ陪席ス

「四時松平侯ヨリ電話ニテ内閣ハ五時半ヨリ臨時閣議ヲ開キ総辞職ニ決セリト四時十分ヨリ二十分迄拝謁右ノ趣ヲ言上ス」

四時四十九分発電車ニテ帰京一旦帰宅後子爵稲田侯爵Aワン氏ノ招宴ニ臨ミ小松侯夫妻ト会食ス

七時二十五分着私設電車ニテ松平ノ秘書官長岡仲通子ニ至リ直ニ荒山御用邸ニ入ル

96

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. Doc 1632W (61)

九時近衛公爵内閣辞表ヲ捧呈ス

九時十分御召アリ後任内閣ニツキ左ノ如ク御命ヲ奉ス

近衛内閣総理大臣ハ辞表ヲ捧呈シタ
後継内閣主班者ヲ選定スルニ付キ枢密
院議長及元総理大臣タリシモノヲ特召
長ニ命シテ招集サセルカラ内大臣ハ是
等ノ人々ノ意見ヲ徴シ適任者ヲ奉答セ
ヨ

御召官長ト明日ノ打合ヲナシ午後十時半
退出(子爵ニ入ル)

(備考)子爵彦來(退)

97

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

41
17 Dec 1632 W(62) 17
1117

22.

木戸幸一日記

昭和十六年七月十七日分

七月十七日（木）

晴　午前八時二十五分登ニテ上京直ニ御相、若槻岡田阿部米内各氏ヲ招キ午後一時百二ノ間ニ於テ各個ニ会見ス

自荒木氏ノ話氏ヨリ御話ガアリマシタ通リ陛下ヨリ左ノ如ク申述ス

昔話寺待従次長ヨリ葛城ノ宿泊アリ次イデ会只今待従次長ヨリ御話ガアリマシタ通リ陛下ヨリ御ニ国下方ノ御意見ヲ示サルル上参会スル様御下命ガアリマシタ起キマシテハ首相ノ通リ充分御話合ヲ以ヒ陛下ノ御意見ヲ承ル

一御下命ニヨリマシテモナイコトト存ジマス

テ態度的ニ御話合ヲ以ヒ意ヲ尽シ度ト存ジマス

ト述ベテイコトデアリマスガ此ノ御段ノ御言ハ陛下ノコトニ御以ヒ奉シマス、

ヒ方ノ為メ先ヅ近衛首相ノ陛下ニ奉答ヲ以ヒ、

98

E1117 Dec 1632-4/(62) 17
1117

木戸幸一日記

昭和十六年七月十七日分

七月十七日（木）

晴　午前八時二十五分登ニテ上京直ニ御車

午後一時百二ノ間ニ原総相、近衛国相、有馬内相、岡田前総理、荒井前国相ニ会ヒ各自ノ意見ヲ聞ク

音羽寺侍従次長ヨリ御前ニ於テ御話アリ

ヨリ左ノ如ク陳述ス

只今侍従次長ヨリ御話ガアリマシタ通リ陛下ヨリ御下命ガアリマシタ処ニ付テハ首相ノ御意見ヲ承リタル上参考ニ供シ度キ旨ヲ申シテハ首相ノ御意デ御一所ニ御願ヒ致シタ次第デアリマス

又ソノ他実上申スマデモナイコトト存ジマスガ会議デハアリマセンカラ次第ハ攻リマセン様メテ懇談的ニ御話合ヲ願ヒ度ト存ジマス

申ス迄モナイコトデアリマスガ此処デノ御話ハ口外無用ニ願ヒ度シマス、

尚ホ此ノ会合ハ近衛公ノ御要望ニヨリ開カレタモノデアル事ヲ附言ス、

98

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 16.321 (62)

若槻氏ヨリ講話ノ趣旨、外交上ノ問題（意見ノ相違等）ニツキ質問アリ

岡部氏ヨリ此際近衛公ニ再ビ陛下ノ意見聞ケトノ意見開陳アリ岡田氏ヨリモ其ニモヨク政治ノ各方面ノ識者ヲ網羅シ得ル人トシテハ近衛公以外ニハナシトノ理由ニテ近衛公ヲ推薦ハ若槻氏モ同氏ト同意見ナリト述ベラルル旨ノ意見ナリ只只田氏ハ大本営ト内閣ヲ方法セラレシガ余ヨリ大本営宮中ニ関係ノ深キヲ説明セシ結果近衛公ニ同意セラルル旨ヲ述ベラレタリ

若槻氏ハ積極的ノ説明カリシガ同氏モセラルルヤ全員一致ニテ近衛公推薦ニ決シ二時散会ス

三時二十分東山ヨリ同陛下ニ奉答ス

三時半ヨリ四時十分迄再ビ各自意見ヲ述ブ

三時五分迄御会議内大命ヲ拝ス　御前ヲ辞下ル

御前散ス

五時三十分大命ヲ拝シ次官来邸日米国交ニツキ説明ヲ聴ク

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1118 Doc 4052F

(1118)

(12)

電　報（暗號法）

東京一九四一年七月二十日　一時五十分
着　〃　〃　二十日　四時二十分
七月十九日附第一二九七號

發　參

七月十九日附電報第一二九五號對照

外務大臣ノ宣言ノ趣旨次ノ如シ

一外務大臣ノ職ヲ引受ク私ハ並ニ東京獨逸（伊太利）大使ニ自己ヲ紹介スル事ヲオ許シ下サイ。

私ハ貴殿ニ忠誠ニ獨逸外務大臣閣下ニ宣敬シク御傳ヘ下サレ又閣下ニ私ガ内閣改造ニ際シ閣ラズモ外務大臣ノ地位ヲ委託サレタ事ヲ知ラサレン事ヲ御願致シマス。

同時ニ私ハ貴殿並ニ獨逸政府ニ公式ニ日本帝國政府ヲ代表セシテ頂キ度イ。貴殿ガ帝國政府ノ如ク今度ノ政府更迭ハ一ツニ外交政治的處置ヲ斷行シ、且更ニ此ノ國ノ内政狀勢ノ强化ノ爲必要ナ處置ヲ執リ得ル爲實行サレタノデアル。之等ノ點以外ニ政府更迭ニ對スル何等ノ理由ナク又日本帝國ノ從來ノ政策ハ如何ナル場合ニモ變更モ行ハレナイデアラウ

1.

100

1.

E 1118 Doc 4052 F

(1118)

(12)

電報（暗號書暗號法）

東京一九四一年七月二十日　一時五十分
着　〃　〃　二十日　四時二十分
七月十九日附第一二九七號

参

七月十九日附電報第（十一）二九五號對照

外務大臣ノ宣言ノ趣旨次ノ如シ

一外務大臣ノ職ヲ引受ク私ハ茲ニ東京獨逸（伊太利）大使ニ自己ヲ紹介スル事ヲオ許シ下サイ。

私ハ貴國ニ對シ獨逸外務大臣閣下ニ宜敷シク御傳ヘ下サレ又閣下ニ私ガ內閣改造ニ際シ閣ラズモ外務大臣ノ地位ヲ委託サレタ事ヲ知ラサレン事ヲ御願申シマス。

同時ニ私ハ貴國並ニ獨逸政府ニ公式ニ日本帝國政府ノ更迭ニ就キオ知ラセシテ頂キ度イ。貴國ガ帝國政府ノ告示カラ御承知ノ如ク今度ノ政府更迭ハ一ツニハ國際情勢ニ相應ジタル政治的處置ヲ斷行シ、且更ラニ出來ル限リ速ニ此ノ國ノ內政狀勢ノ强化ノ爲必要ナ處置ヲ執リ得ル爲實行サレタノデアル。之等ノ點以外ニ政府更迭ニ對スル何等ノ理由ナク又日本帝國ノ從來ノ政策ハ如何ナル場合ニモ變更モ行ハレナイデアラウ

100

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.　　　　Doc 4052F

私ハ貴殿ニ特ニ日本ノ政府ハ日本獨逸伊太利間ニテ締結サレタ三国同盟ノ締結並ニ目的ノ基礎ニ立ツテアラウトイフ事ヲ承知サレン事ヲオ願ヒスル。前外務大臣松岡ガ七月二日ノ内閣決議ニ於キ貴殿ニ國際ニ述ベタ如ク日本ノ對獨伊關係ニハ何等ノ變更モ行ハレナイデアラウ。私ハ貴殿ニ於モ慇懃ニ上述ノ事モ同様ニ貴国政府ニ傳達サレン事ヲオ願スル

私ハ個人的ニハ三国條約締結當時海軍ニ勤務シテキタ、而シテソノ成立ニ際シテハ無関係デハナカツタ。前外務大臣松岡ノ後任トシテ私ハ彼ノ外交政策ヲ繼續シ而シテ更ニ日、獨、伊ノ確固タル團結ヲヨリ強化シ共同體制ニ於テ前進ニ邁進スル意図デアリマス、私ハ貴殿大使閣下ニ前外務大臣ト同ジ様ニ私ニ貴殿ノ尊重サレテキル友誼並ニ共働ヲ與ヘラレン事ヲ希望シマス。

オツト

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

102

ウルリッヒ・A・シュラウス少尉

ワシントン国際空港ニ於テ日本軍ノ降伏文書調印ニ参列シ帰還ノ途ニ就ク

Dec 1945

Ulrich A. Shaus 2d Lt.

3.

第二一五〇四号

Order 291
4052F
Cummings Certificate P E 1118

供述書

余、W.P.カミング（W. P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ諸項ヲ証言ス

一、余ハ合衆國國務省附、同省獨逸課勤務ノ公務員タル事、及右ニ述ヘル余ハ（合衆國）獨逸軍政部代表ノ一員タルコト、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ獨逸領水所在、倫巴文書本部ニ於ル歯科器械類並外務省集積文書並ニ文庫、原本ノ占有、保管、管理ニ任シアル事。

二、上述倫巴文書並ニ文庫ノ原本ハ聯合國遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル貴族ニヨリテ歯科器械類並外務省集積文書並ニ文庫原本ハ聯合國遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル貴族ニヨリテ占有セラレ、其指揮ノ下ニ、初メ右聯合國ニヨリテ選任セラレタル獨逸人ニヨリテ占有、保管、管理ニ任シアル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、倫巴マールブルグニ於テ、上述文書本部ニ於テ、上述文書本部ニ於テ、是ニ伴リテ設置セラレタル獨逸外務省集積文書並文庫原本ハ、余ハ獨逸マールブルグ在ル時、初メテ余ノ占有、保管、管理ニ移シ、爾来引続キ余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事

1.

103

Order 291
4052F
E 1118

1.

Permanent Certificate

保　証　書

余、E.P. カミング（E.P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ諸項ヲ証言ス

一、余ハ合衆國商務省國勢調査局ノ職員タル事、同局ハ戦争捜査局（War Department）ノ要請ニ依リ、（合衆國）陸軍省ノ為ニ、且如上表明セル資格ニ於テ、余ハ通信情報部ノ為ニ、陸軍省集積文書並ニ文書、原本ノ占有、保管、管理ニ在シアル事。

二、上述ノ通リ陸軍省集積文書並ニ文書ノ原本ハ聯合國遠征軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリテ直接又ハ間接ニ没収セラレ、其後本ノ下ニ、初メ右連合國マールブルグニ於テ該軍隊ニヨリテ軍文書本部ニ収集セラレ、後ニ聯合軍最高司令官ヨリ上訴セル／佐ホ／文書本部ニモ管セラレタルモノナル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、右通マールブルグニ於テ、上述文書本部捜索ヲ命ゼラレタル事。是ニ伴リテ該商務省集積文書並文書原本ハ、余ハ右通マールブルグ在営時、初メテ占有、保管、管理ノ下ニアル事。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Cumming's Certificate

四 余ノ此供述書ノ添附セラル、所ノ文書ハ上述ノ陸軍外務省集録文書並ニ文庫トシテ、内蔵セラレ、余ノ占有、保管ニ帰シ、且余ノ管理ノ下ニ置カレタル、陸軍外務省文書原本ノ、眞正精確ナル直接複寫寫眞ノ謄本タル事

五 茲ニ添附セラレタル直接複寫寫眞謄本ノ文書原本ハ、余ノ保管、監督ノ下ニ、各方面代表者ノ點検閲覧ニ資スル如クナシアリ、為ニ該原本ヲ流用ナシ得サルガ故ニ、該原本ノ寫眞謄本ヲ提供シ且ツ之ガ證明ヲナスモノナル事

ダブルユー・ビー・カミング
（W.P. CUMMING）

一九四六年四月二十三日余ノ面前ニ於テ署名且宣誓ス

中佐 ジー・エッチ・ガード
G. H. GARDE
高級副官事務取扱
LT. COLONEL, AGD
ACTING ADJUTANT GENERAL
（合衆國） 陸軍副官部

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc # 2512B

E 1194

[redacted]

（第一三回）

東條英機ニ對スル訊問ニ關スル抜萃　一九四六年二月十日

問　連絡會議議員中如何ナル人々ガ其ノ實否決定ニ關係シテ居ラレタカ

答　普通ニ於テ權限ヲ持ツ居ル人々ハ内閣ニ於テハ總理大臣、外務大臣、陸軍大臣、海軍大臣内閣企劃院總裁デアリ統帥部側ニ於テハ兩總長デアリマシタ。

但シ他ニ内閣側ノ他ノ閣僚又統帥部側ノ參謀次長及軍令部次長ニ未實否決定ニ關與スル權限ヲ持ツテ列席セシタ。

從ツテ決定ニ當リテハ列席セシタ人々全員一致デアリマシタ。（會議ノ決定ハ全員一致ニテ這般ノ事情ニ關シ一回ノ會議ニテ決定シタルモノニ非ズシテ數回ノ會議ニ於テ決定セラレタルモノデアリマス。）

問　實否ノ決定ハ何レノ會議ニテ決定セラレタカ

答　連絡會議ニ於テ決定セラレタルモノデアリマス。

問　連絡會議ノ構成員ハ何人カ

答　普通ニ於テハ前述ノ通リデス。

105

Doc 125 12B

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1120 Doc P 1383 E

(15)

昭和十六年七月二十三日後着府發
七月二十四日前本省着

豐田外務大臣

野村大使

第五五〇號（至急、極秘、館長符號）

我南進ノ場合日米關係ニ及ホス影響ニ付テハ七月三日、七月十九日電ヲ以テ申進セシ處今日其ノ影響ハ可成リ急速度ヲ以テ進展シ國交斷絶一歩手前迄進ムノ惧大ナリ月曜若杉國務次官會談ニ依リ事態ノ急迫ヲ感シ火曜日國務次官ニ會見ヲ申込ミシ處漸ク今水曜午後三時會見ノ答ナリ昨夜急據旅行先ヨリ歸京セル一閣僚ニ面會セル處同氏モ「ハル」長官ハ保養中ナリ「ウエルズ」モ固却シツツアリトテ何トモシ難キ口吻ナリ本使ノ意見ヲ問ヘルヲ以テ本使ハ決シテ希望ヲ失ハス所信ニ從タルモ國交斷絶一歩手前迄行

[redacted]

1.

ハ極テ新嘉坡、蘭印ニ進ム第一歩ナリト認ムル、ニ在リ當國海軍當人モ同ク認メツツアル模様ナリ又日本ハ一面日米了解ヲ實物ト爲シ反面南進ノ策ヲ立テ國務長官

106

1.

E1170 Doc P 1383 E

昭和十六年七月二十三日後着府發
七月二十四日前本省着

豊田外務大臣

野村大使

第五五〇號（至急、極秘、館長符號）

我南進ノ場合日米關係ニ及ホス影響ニ付テハ七月三日、七月十九日電ヲ以テ申進セシ處今日其ノ影響ハ可成リ急遠度ヲ以テ進展シ國交斷絶一歩手前迄進ムノ惧大ナリ月曜若杉國務次官會談ニ依リ事態ノ急迫ヲ感シ火曜日國務次官ニ會見ヲ申込ミシ處漸ク今水曜午後三時會見ノ答ナリ昨夜急據旅行先ヨリ歸來セル一關係ニ面會セル處同氏モ「ハル」長官ハ保養中ナリ「ウエルズ」モ困却シツツアリトテ何トモシ難キ口吻ナリ本使ノ意見ヲ問ヘルヲ以テ本使ハ決シテ希望ヲ失ハス所信ニ從ヒ最善ヲ盡スト答ヘ置キタルモ國交斷絶一歩手前迄行クモノト認メラル

當方面ノ對日空氣急變ノ原因ハ南進ニ在リ而シテ南進ハ驟テ新嘉坡、蘭印ニ進ム第一歩ナリト認ムルニ在リ當國海軍當人モ兩ク認メツツアル模樣ナリ又日本ハ一面日米了解ヲ裏物ト爲シ反面南進ノ態ヲ立テ國務長官

(15)

106

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 1383E

ノ如キハ固サレタルナリトノ非難モアル迄ニテ長官ノ使
康狀息ト相俟テ辭職說モアル由ナリ又東京ヨリハ我眞
意ヲ疑ハシムル情報頻々トシテ來リ最モ顯著ナルモノ
ハ(イ)本使等ノ交渉ハ東京ニ於テ決破(「トルピドー」)
サルヘシ(ロ)日本ハ獨伊側ニ對シ日米國交調節ハ兩選擧
備完成迄ノ謀略ナリト云フ說明ヲ與ヘタリト云フニ在
リ此等ノ情報ニハ最高責任者モ漸ク耳ヲ傾ケ出スニ至
リタリト云フ說モアリ要スルニ交渉進行中低ニ第三國
調ノ離間中傷アリ日米双方ニ夫々反對運動アリタルニ
相違ナシ今ヤ眞ニ六ケ敷キ形勢ニ在リ

就テハ一面米國大使ニ機ヲ失セズ日本政府ノ日米國交
調節ニ關スル誠意ト御披瀝相成樣致
度シ又本使ニ對シテハ至急新內閣ノ對米御方針御內示
相成度ク本使モ起死回生ノ積リニテ十二分ノ努力ヲ致
シタキ覺悟ナリ(了)

107

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1120

[redacted]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

[redacted]

P
M0520-
0tUm39
1121

(16)

電報

（秘密暗号法）

東京　昭和十六年（1941年）七月二十四日　十一時五十分
〃　　七月二十五日　一時三十分
〃　　〃　　〃

本日午後日本ノ外務大臣ハ印度支那ニ於テ
日佛交渉ハ彼ノ言フ所ニ依レバ「デッドロック」
ニ乗リ上ゲタ事ヲ私ニ告ゲルタメニ通譯ノ同席
領土ニ関スルコトヲ含ム）ニ関シ直ニ閣議ヲ開キ
（公報ハ明ラカニ七月二十五日ニ発セラレルデアロウ）
外相ハ更ニ彼ノ側ヨリ為ベクレクル協力ニ対シ彼ノ感謝ノ意ヲ
表シ且準備ト協定ハ此ノ時ノ諸困難ヲ克服シテ
言ノ様式ヲ以テ私ニ対シテ提督豊田ハ次
ノ如キ意（即チ協定ハ摩擦ヲ
ノ日ニ陸軍派遣軍司令官
シ総督ト討議シ
並ニ私ノ訪問ノ際
蔵ガ語ッタ意ニ
更ニ私ハ彼ノ依頼ニ応ジ外務大臣ニ現在ノ
ソ聯ニ対スル諸々ノ重要行動ノ現況ヲ説明シ又外相ハ私ノ
要ヲ明瞭ニ了解シ
ニ英国ト日本ト
私ニ彼ハソレニ関聯シテ彼ニアメリカ政府側
日本ノ態度ニ関スルワシントン」ノ日本大使ノ報告ガ
訳ニアルカドウカ訊ネタ。

109

E1121

P

1121

(16)

電報（秘密暗号訳）

東京 [illegible]発（昭和十六年）七月二十四日 十一時五十分
〃 〃 七月二十五日 一時三十分 着
七月二十四日 維希 一三五 三四五 大至急

昨日午後自分ノ来訪ヲ求メタ日本ノ外務大臣ハ印度支那ニ於ケル基地ノ占領ニ就イテノ日佛交渉ハ彼ノ言フ所ニ依レバ「ヴィーシー」発ノ十月二十日一致ニ達シタ事ヲ私ニ告ゲルタメニ通訳ノ同席ノ下ニ私ヲ迎ヘタ。現在両政府間ニ議定書ト公報ガ協定サレテヰルガソレニ依レバ其ノ確定サレル事ハ印度支那ノ保全ト其ノ領土ニ対スル「フランス」ノ主権ハ犯サレナイデアラウト言フ事デアル。
公報ハ明ラク七月二十六日公表サレルデアラウ。
外相ハ更ニ組合側ヨリ与ヘラレタル協力ニ対シ彼ノ感謝ノ意ヲ表シ而シテ準備ト協定ハ地方的ナ諸困難ヲ考慮シテヰナイト言フ様デアルカ否カト言フ私ノ質問ニ対シテ提督豊田ハ次ノ如ク答ヘタ。協定ハ摩擦ナキ経過ヲ保証シテヰル、特ニ印度支那ノ日本陸軍派遣軍司令官[illegible]将軍ハ凡テノ細目ニ付ドクー総督ト討議シタカラ。更ニ私ハ訓令ニ従ヒ日本外務大臣ニ最近ノ私ノ訪問ノ際私ニ手交サレタ声明ニ対シ独乙外務大臣ノ感謝ノ意ヲ伝ヘタ。

1.

更ニ私ハ彼ノ依頼ニ依リ外務大臣ニ現在ノ資料ニ基キ蘇独戦争ノ軍事行動ノ現況ヲ説明シタ。外相ハ私ノ報告ヲ明瞭ニ満足ノ意ヲ以テ聴取シ又更ニ私ハ蘇聯邦並ニ英国ノ日本使節ノ報告ヲ彼ニ従来通リ知ラセテクレル様ニ頼ンダ。彼ハソレヲ約束シタ。私ハソレニ関聯シテ彼ニアメリカ政府側ノ日本ノ無回答ノ受領ニ関スル「ワシントン」ノ日本大使ノ報告ガ既ニアルカドウカ訊ネタ。

裏面白紙
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 4052 Item 39

外相ハ日佛交渉ノタメ三木ガ「アメリカ」問題ヲ取扱ッテ居ル暇ガナカッタト答(タ、松ハ會談ノ現況ヲ適時且ツ完全ニ知ラサレタイト言フ外ナシノ印象ヲ受ケル旨ヲ指摘ス。

オツト

書類第四ノ五三号、

証

余 Ulrich Strauss ハ余ガ独乙語及ビ日英語ニ精通セル者ナルコト並ニ独乙語原文及ビ日本語原文ヲ對照シ上右ハ本書類ヲ眞実ニ且正確ニ飜譯セルモノナルヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス。

Ulrich R. Strauss

110

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

裏面白紙

Chinmugo 発信

/.

占有、使ヒ、ヒ処理ニ関シ必要ノ命令ヲ発スルコトヲ得。

＝会ハ一九四五年八月十五日ノ降伏文書ノ条項ヲ履行スル為ニ連合国最高司令官ノ権限ニ従属スルモノトス。

＝於テ、上述ノ降伏文書ニ署名シタル日本国政府ノ代表者及日本国大本営ノ代表者ハ、連合国最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スルコトヲ約ス。

悪＝関シ、会ハ、日本国政府ニ対シ、又ハ日本国政府ヲ通ジテ、日本国大本営ニ対シ、会ノ占有、管理、保護、処理ニ関シ必要ト認ムル命令ヲ発スルコトヲ得。

会ノ占有、管理、保護、処理ニ関シ必要ト認ムル命令ヲ発スルコトヲ得。

＝於テ、上述ノ降伏文書ニ署名シタル日本国政府ノ代表者及日本国大本営ノ代表者ハ、連合国最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スルコトヲ約ス。

＝会ハ一九四五年八月十五日ノ降伏文書ノ条項ヲ履行スル為ニ連合国最高司令官ノ権限ニ従属スルモノトス。

／／会ハ／支配ヲ本国ニ及ボスニ当リ、会ニ対シ、又ハ会ノ代理者ニ対シ、何等ノ責任ヲ負フモノニ非ズ。

＝貴官ヲシテ、会ノ為ニ左ノ事項ヲ実施セシムル為ノ措置ヲ執ルコトヲ命ズ。

一、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ権限ニ従属スル日本国軍隊ノ即時完全ナル武装解除。

二、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

三、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

四、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

五、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

六、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

七、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

八、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

九、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

十、会ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

（GUIMUD・ｶﾗ）

発

参ノ為ニ行動スル連合国軍隊ノ最高司令官ノ指示ニ基キ又ハ之ニ代リテ行動スル日本国政府ノ機関ノ即時解散。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参謀副長宛（軍令）

ACTING ADJUTANT GENERAL

LT. COLONEL AGD

軍参謀副長殿

G.H.QARDE

ジー・エイチ・キュー

（U.P.CUMMING）

アップ・ピー・カミング

一九四六年四月二十三日

宜敷

中佐 ジー・エイチ・キュー

Cummings, G.H.Qte

本状ハ添附セラレタル直接軍事裁判ニ関スル覚書ノ各項ノ実施ニ関シ、且参謀副長ノ指揮ノ下ニ、貴官ガ為スベキ事項ヲ指示スルモノナリ

一、貴官ハ、別紙甲号ノ覚書ニ依リ、日本国政府ニ対シ、戦争犯罪人ノ逮捕、拘禁、保釈及ビ訴追ニ関シ、必要ナル指令ヲ発スベシ

二、貴官ハ、別紙乙号ノ覚書ニ依リ、日本国政府ニ対シ、戦争犯罪人ノ逮捕、拘禁、保釈及ビ訴追ニ関シ、必要ナル指令ヲ発スベシ

三、貴官ハ、別紙丙号ノ覚書ニ依リ、日本国政府ニ対シ、戦争犯罪人ノ逮捕、拘禁、保釈及ビ訴追ニ関シ、必要ナル指令ヲ発スベシ

四、貴官ハ、別紙丁号ノ覚書ニ依リ、日本国政府ニ対シ、戦争犯罪人ノ逮捕、拘禁、保釈及ビ訴追ニ関シ、必要ナル指令ヲ発スベシ

E1122 P847C-1 Doc 275 17 1128

情報局發表　佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」間暫定協定締結ニ付テハ、所要ノ手續ヲ遂メ居タル處、昨二十八日御裁可アリタルヲ以テ、直ニ在佛加藤大使ニ訓シ、右暫定協定ニ署名方訓電ヲ發シ、同大使ハ本二十九日「ヴイシー」ニ於テ「ダルラン」副總理兼外務大臣ノ間ニ署名調印ヲ了シ即日實施セラレタル暫定協定ノ全文左ノ如シ

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國
「フランス」國間暫定協定

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ現下ノ國際情勢ニ鑑ミ佛領印度支那ノ安全カ特ニ緊要ナルニ顧ミ佛領印度支那ニ於ケル一般的「フランス」國ノ地位ニ鑑ミ且日本國カ東亞ニ於ケル一般的安定ノ爲ニ有スル特殊ノ地位ニ鑑ミ且日本國カ東亞ニ於ケル一般的安定ノ爲ニ有スル特殊ノ地位ニ鑑ミ且日本國ニ依リ爲サレタル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ特別ノ地位及利益ニ鑑ミ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ同盟ニ關係スルガ如キ佛領印度支那ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ期待スル何等ノ協定又ハ諒解ヲモ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニ左ノ諒解ヲ協定セリ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1122 P 847 ページ-1

情報局發表　佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」間協定締結ニ付テハ、所要ノ手續ヲ遂メ居タル處、昨二十八日御裁可アリタルヲ以テ、直ニ在佛大使ニ對シ、右協定書ニ署名方訓電ヲ發シ、同大使ハ本二十九日「ヴイシー」ニ於テ「ダルラン」副總理兼外務大臣ニ署名調印ヲ了シ即日實施セラレタル協定書ノ全文左ノ如シ

佛領印度支那ノ共同防衛ニ關スル日本國「フランス」國間協定書

大日本帝國政府及「フランス」國政府ハ現下ノ國際情勢ヲ考慮シソノ結果佛領印度支那ノ安全カ脅威セラルル場合ニ於テハ、日本國カ東亞ニ於ケル一般的靜謐及自國ノ安全カ危殆ニ曝サレタリト爲ス理由アルヲ認メ此ノ場合ニ一方日本國ニ依リ爲サレタル東亞ニ於ケル「フランス」國ノ權利及利益等ニ佛領印度支那ノ領土保全及印度支那聯邦ノ全部ニ對スル「フランス」國ノ主權ヲ尊重スル旨ノ約束ヲ、他方「フランス」國ニ依リ爲サレタル日本國ニ對シ直接又ハ同盟ニ對抗スルガ如キ性質ノ政治上、經濟上又ハ軍事上ノ協力ヲ禁止スル何等ノ協定又ハ諒解ヲモ印度支那ニ關シ第三國ト締結セザル旨ノ約束ヲ新ニシ左ノ諸規定ヲ協定セリ

113

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

847ページ

一、両国政府ハ両領印度支那ノ共同防衛ノ為宜奉上協力ヲ為スコトヲ約ス

二、前記協力ノ為執ルベキ措置ハ特別取極ノ目的タルベシ

三、前記諸協定ハ英ノ保護下ノ為リタル情勢ノ存続スル限リニ於テノミ効力ヲ有スベシ

右証據トシテ下名ハ各本国政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本日ヨリ實施セラルル本諒定書ニ署名調印セリ

昭和十六年七月二十九日即チ千九百四十一年七月二十九日「ヴイシー」ニ於テ日本文及「フランス」文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

加藤外松

ダルラン

114

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 1

Doc 847C
E1122 22

書類第八四七C号

證明書

「ワシントン」文書局

國際検察部

典據及ビ公正ニ関スル證明

余、林馨ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ外務省文書課長トシテ、日本政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添附セラレタル、参頁ヨリ成ル、千九百四十一年(昭和十六年)七月二十九日附、下記題名、即チ仏領印度支那ニ関スル日本国「フランス」国間議定書ノ文書ノ保管ニ任ゼル居リ

余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書ガ日本政府ノ公文書ナルコト、並ニ右ガ下記名称ノ省又ハ部局ノ公式書類及ビ綴ノ一部ナルコトヲ證明ス。(若シアラバ綴番號又ハ引用、其ノ他公式書類、又ハ綴ニ於ケル該文書ノ正規所在ノ公式名称ヲモ特記スベシ)

外務省

千九百四十六年(昭和二十一年)十一月七日

東京ニ於テ署名

當該官吏署名擁

右ノ者ノ公的資格

證人

林馨(林)

外務省文書課長

尾上長春(尾)

115

No. 1

Doc 847c

書類番號八四七C号

證明書

「ワシントン」文書局
國際檢察部

典據及ビ公正ニ関スル證明

余、林馨ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ外務省文書課長トシテ、日本政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添附セラレタル、參頁ヨリ成ル、千九百四十一年(昭和十六年)七月二十九日附、下記題名、即チ佛領印度支那ノ共同防衛ニ関スル日本國「フランス」國間議定書ニ関スル情報局發表ノ文書ノ保管ニ任ジ居ルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記錄及ビ文書ガ日本政府ノ公文書ナルコト、並ニ右ガ下記名稱ノ省又ハ局ノ公式書類及ビ綴ノ一部ナルコトヲ證明ス。(若シアラバ綴番號又ハ引用、其ノ他公式書類、又ハ綴ニ於ケル該文書ノ正規所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

外務省

千九百四十六年(昭和二十一年)十一月七日
東京ニ於テ記名

當該官吏ノ署名擁

右ノ者ノ公的資格ノ指

人

林馨(林)

外務省文書課長
尾上長春(尾)

115

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO.2

Doc 847C

公式ノ件ニ関スル証明

余 HENRY STEINOJIMA ハ余ガ聯合國最高指揮官總司令部ニ関係アルモノナルコト、証ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ証明ス。

十九百四十六年/昭和二十一年/十一月七日

東京ニ於テ署名

氏名 棚橋 Henry Steinojima

右者ハ公的資格 國際檢察部調査官

証人 J. A. CURTIS 2d LT.

116

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2502A-1

東條英機ニ對スル訊問ヨリノ抜萃

千九百四十六年（昭和二十一年）二月十三日

問　千九百四十一年（昭和十六年）ニ於テ何日最初ノ御前會議ガ開カレシカ。

答　其レハ七月テアツタト思ヒマス。私ハ正確ニハ覺エテ居リマセン。

問　千九百四十一年（昭和十六年）七月ノ御前會議ハ如何ナル根本的理由ニ依ルカ。

答　根本的理由ハ佛印度支那ニ軍隊ヲ派遣センガ爲ノ計畫ガ考慮サレシカ。

問　此ノ計畫ハ誰ガ發案シタカ。

答　多分陸軍大臣ノ案デアツタト思ヒマス。御前會議ノ前ニ連絡會議ガアリマシタ。此ノ會議ニハ總理大臣、關係各大臣及ビ參謀總長並ニ軍令部總長ガ出席致シマシタ。

問　關係大臣ハ誰々ナリシヤ。

答　私ハ明確ニハ覺ヘテ居リマセンガ、首相、外務大臣、陸海軍大臣ガ含マレテ居リマシタ。企畫院總裁ガ出席セシカ否カハ確信ガアリマセン、參謀總長及ビ軍令部總長モ亦出席致シマシタ。

問　其レガ連絡會議デアリマスル。

2502A-1

東條英機ニ對スル訊問ヨリノ抜萃

千九百四十六年（昭和二十一年）二月十三日

問　千九百四十一年（昭和十六年）ニ於テ何日最初ノ御前會議ガ開カレシカ。

答　其レハ七月デアツタト思ヒマス。私ハ正確ニハ覺エテ居リマセン。

問　千九百四十一年（昭和十六年）七月ノ御前會議ハ如何ナル根本的理由ニ依ルカ。

答　根本的理由ハ南部印度支那ニ軍隊ヲ派遣センガ爲メデアツタト思ヒマス。

問　此ノ問題ニ關シ諮ノ計畫ガ考慮サレシカ。

答　私ハ正確ニハ記憶シテ居リマセンガ然シ性質上多分陸軍大臣ノ案デアツタト思ヒマス。御前會議ノ前ニ連絡會議ガアリマシテ其所デ大体問題ハ解決サレテ居リマシタ。此ノ會議ニハ總理大臣、關係各大臣及ビ參謀總長並ニ軍令部總長ガ出席致シマシタ。

問　關係大臣ハ誰々ナリシヤ、

答　私ハ明確ニハ覺ヘテ居リマセンガ、首相、外務大臣、陸海軍大臣ガ含マレテ居リマシタ。企畫院總裁ガ出席セシカ否カハ確信ガアリマセン、參謀總長及ビ軍令部總長モ亦出席致シマシタ。其レガ連絡會議デアリマス。

117

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2502 A-2

問　印度支那ノ安定ニ付キ如何ナル問題ガ千九百四十一年（昭和十六年）七月ニ御前会議ヲ招集スル必要ヲ生ゼシカ

答　當時支那事變ガ進行中デアリ日本ハ其ヲ成功裡ニ急ラント凡ユル努力ヲ拂ツテ居リマシタ。南方ニ於ケル如何ナル不穏ナル地域ト雖事變ノ解決ニ好マシカラザル影響ヲ與ヘル惧レガアリマシタ。加フルニ東亞ノ安定ヲ維持セントイフコトハ此ノ事件ヨリヅット長キ以前ヨリノ日本人ノ理想デアリマシタ。

問　第三ノ理由ハ若シ佛印ニ於ケル狀勢ガ不安デアルナラバ佛印カラ輸入サレル食糧、主トシテ米ガ得ラレナクナルト云フ事デアリマス。是等ノ食糧品ハ日本ニ取リ必要缺クベカラザルモノデアリマス。

問　佛印ガ支那事變ニ關係シテ軍事上有要デアルダロウト云フ事ハ陸軍大臣トシテノ貴君ニ依リ考ヘラレタ事デアリシヤ。

答　勿論私ガソウ考ヘマシタ。勿論軍事上ノ見地カラ北部佛印ニ關スル限リ實際上關係ガアリマス。佛印ヨリ北ニ向ケテノ供給路ハ中華人ニ取リ大ナル援助デアリマシタ。加フルニ軍事上ノ見地カラ編制「ルート」ヲ遮斷スル爲メニ北部佛

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2502A-3

印ニ飛行基地ヲ建設スル事ヲ欲シマシタ。

然シ欧洲ニ於ケル形勢ノ結果トシテ仏蘭西ノ勢力ガ劣ヘタ為メニ安定維持ノ必要上軍ニ北部仏印ノミナラズ中部及南部ニモ軍隊ヲ駐屯セシムル必要ガ生ジマシタ。

問　其等ハ今迄ベタ国々ニ対シ開戦ノ場合之ヲ攻撃スルニ大ニ役ニ立ツタノデセウ。

答　是ハ好ク了解シテ貰ヘナケレバ非常ニ重大ナル結果ニナル問題デアリマス。千九百四十一年（昭和十六年）十二月一日御前ニ決定シタ後初メテ攻撃的軍事行動ガ行ハレマシタ。即チ一軍事行動ノ性質ガ改変サレ攻撃的トナリマシタ。然シ其レ迄ハ軍事行動ノ性質ハ防衛的デアリマシタ。

「仏印ニ於ケル軍隊ノ駐屯ニ関シ」

119

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1194

P4167B(1)

[redacted]

来條英機訊問ニ関スル報告

又書四六七号

一九四六年二月十五日

「オミ貝ー四貝」

問、日本カ合衆国ヲ攻撃シタ時、佛領印度支那カラ如何ナル攻撃ヲ開始シタノデスカ。

答、佛領印度支那ノ貢ヨリ南西ノ方ヘ泰國ノ東海岸ニ向ツテ攻撃ガ加ヘラレタト思ヒマス。又南部佛領印度支那ニ基地ヲ持ツテ居ツタ飛行機ハ上陸シツツアツタ軍隊ト協力シマシタ。

ソレハ主力部隊デアツタト思ヒマス。然ルニ船舶ニヨリ広東市カラ南方ニ或部隊ノ物動ガアツタカヲ知レマセン。同時ニ海軍航空母艦カラノ飛行機ヲモシンガポールヲ攻撃シマシタ。コレラノ事柄ハ私ノ記憶ニヨルモノデス。コレラハ実際統帥事項デアリマシタ。

△

22

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1124

P4167B(1)

(1124)

英假英機ニ対スル訊問ヨリ抜粋

一九四六年二月十五日

(第三頁―四頁)

問、日本ガ合衆國ヲ攻撃シタ時、佛領印度支那カラ如何ナル攻撃ヲ開始シタノデスカ。

答、佛領印度支那ノ東部カラ、南西ノ方ヘ泰國、東海岸ニ向ッテ攻撃ガ加ヘラレタト思ヒマス。又南部佛領印度支那ニ基地ヲ持ッテ居ッタ飛行機ハ、上陸シッツアッタ軍隊ト協力シマシタ。

ソレハ主力部隊デアッタト思ヒマス。然ル二船舶ヨリ左東南カラ南カニ或部隊ノ移動ガアッタカモ知レマセン。同時ニ海軍航空母艦カラノ飛行機ガシンガポール」ヲ攻撃シマシタ。

ソレラノ事柄ハ私ノ記憶ニアルモノデス。ソレハ実際統帥事項デアリマシタ。

120

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

P41678
E'1124A

Cummings Certificate

1.

[redacted]

供述書

余、W. P. カミング（W. P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ如ク陳述ス

一、余ハ合衆国陸軍省ニ、同国参謀本部ニ、且ハ同国陸軍省ニ於テ、民事部員タル職、及ビ同部ニ置カルル軍政部代表ノ一員タルコト、且如上資格ニ於テ、余ハ特ニ本部所示、指令文書本部ニ於ル南西太平洋連合軍最高司令官ノ代理者、参謀ニ交付シアル事。

二、上述ノ連合国軍最高司令官ノ代理者、参謀ニ交付シアル文書並ニ文書ノ原本ハ聯合国最高司令官ノ指揮下ニ在ル軍隊ニヨリ又ハ其ノ下ニ、初メ占領セラレタル軍政文書本部ニヨリテ軍政文書本部ニ合衆国陸軍長官ヨリ上述セル目的ノ為メ交付セラレタルモノナル事。

三、余ハ一九四五年八月十五日、降伏マールブルグニ於テ、上述文書本部指令ヲ命ゼラレタル際ニ伴リテ設置サレタル軍政部ニ本部、余ハ連合軍最高司令官ノ代理者、参謀ニ交付シアル文書並ニ文書ノ原本ハ、余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事。

1/4

P4167B
E1124A

Command Certificate

1.

証　　書

余、W.P. カミング（W. P. CUMMING）ハ正ニ宣誓シテ次ノ如ク証言ス

一、余ハ合衆国陸軍将校ニシテ、同国陸軍省ニ勤務シ、同国陸軍ノ代理トシテ行動スル者ナリ。

二、余ハ合衆国陸軍省ニ於テ、其ノ一部ヲ組織スルコト、且如上説明セル資格ニ於テ、余ハ陸軍省ニ於ル前記陸軍省ノ文書ヲ占有、保管、管理ニ任シアル者ナリ。

三、上述ノ通リ陸軍省ニ於ル文書並ニ文章ノ原本ハ聯合国陸軍最高司令部ノ指揮下ニ在ル軍政ニヨリテ創設セラレ、其指揮ノ下ニ、初メ陸軍省ニ置カレ、マールブルグニ於テ陸軍ニヨリテ陸軍文書本部ニ置カレ、後陸軍合衆国軍司令官ヨリ上述セル／省ニ／文書本部ニモ管セラレタルモノナル事。

四、余ハ一九四五年八月十五日、陸軍マールブルグニ於テ、上述文書本部ヲ命ゼラレタル事。是ニ伴リテ該文書ハ陸軍省並文章原本ハ、余ハ陸軍マールブルグ在管時、初メテ余ノ占有、保管、管理ニ移シ、爾来引続キ余ノ占有、保管、管理ノ下ニアル事

1/4

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参考白紙

（令参陸）　陸軍省副官発信

陸軍高等官会議議長

GHQ

中将 ジーロハイヤ

一、九四六年四月二十三日午前十時ヨリ第一生命ビル別館ニ於ケル連合国軍最高司令官ノ会議ニ出席スベキ陸軍代表者ノ氏名左ノ如シ

陸軍

中将 ヨネハラ、マサハル

（ANNOUNCED）

ダグラス・マッカーサー元帥

（A）

Commings Certificate

2.

P 1632 W(63)

木戸侯爵日記

昭和十六年七月三十一日分

七月三十一日（木）

雨

午前九時橋本警保局長來訪治安ノ狀況等ヲ聽ク

午時十五分ヨリ十一時迄拜謁對米施策其他ニ

ツキ永野軍令部長ノ拜謁ノ際御下問ニ對シ奉

リ其ノ要旨左ノ如シ

一、方ハ伏見前總長宮ト同樣出

來ル限リ避ク度シトノ意見ナリ

一、三國同盟ニハ強ク反對ナルモノノ如ク之アリ

テハ日米國交調整ハ不可能ナリト見居ル樣ナ

リ

一、國交調整不可能ナリトシ從ツテ油ノ供給源ヲ

失フコトトナレバ話ハ二年ノ貯藏量ヲ

有スルノミ戰爭トナレバ一年半ニテ消費シ盡

スコトトナルヲ以テ爭ロ此際打ツテ出ルノ外

ナシトノ考ヘナリ

1.

E 1125

(20)

1125

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1. E 1125 Doc 1632 W(63)

木戸侯爵日記

昭和十六年七月三十一日分

1125 (20)

七月三十一日（木）

雨

午前九時橋本衛保局長來訪治安ノ狀況等ヲ聽ク

午時十五分ヨリ十一時迄拜謁對米施策其他ニツキ永野軍令部長ノ拜謁ノ際御下問ニ對シ奉答ニツキ御話アリ其ノ要旨左ノ如シ

一、戰爭ニ關スル考ヘ方ハ伏見前總長宮ト同樣出來得ル限リ避ケ度シトノ意見ナリ

一、三國同盟ニハ強ク反對ナルモノノ如ク之アリテハ日米國交調整ハ不可能ナリト見居ル樣ナリ

一、國交調整不可能ナリトシ從ツテ油ノ供給源ヲ失フコトトナレバ蘭印ニテハ二年ノ貯藏量ヲ有スルノミ戰爭トナレバ一年半ニテ消費シ盡スコトトナルヲ以テ寧ロ此際打ツテ出ルノ外ナシトノ考ヘナリ

— 1 —

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 1632W (63)

一、然ラバ南盟戦争トナリタル場合其結果ハ如何ト云フニ提出シタル書面ニハ勝ツト説明シアリタル次自分モ勝ツトハ信ズルガ而シ日本海海戦ノ如キ大勝ハ困難ナルベシト御下問ニナリタルニ永野ハ日本海ノ如キ大勝ハ勿論勝チ得ルヤ否モ覚束ナシト奉答セリ

一、斯クテハツマリ捨バチノ戦ヲスルトノコトニテ誠ニ危険ナリトノ御感想ニテ真ニ悲観ニ堪ヘザル次第ナリ

右ニ対シ左ノ如ク奉答ス

一、永野ノ意見ハ余リニ単純ナリ

一、先般ノ日米國交調整交渉ノ際ニモ米國ハ三國同盟ノ存在ハ承認セル次第ニテ米國トシテハ國際條約ヲ極メテ尊重スル國柄ナレバ今日之ヲ日本ガ履行スルコトガ果シテ米ノ信頼ヲ裏ムル途ナリヤ或ハ軽蔑ヲ買フコトトナルニアラザルヤ頗ル疑問ナリ

日米國交調整ニツイテハ未ダ幾段階ノ方法アルベク粘リ強ク建設的ニ熱意スルノ要アルベシ

124

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3.

Doc 1452 W(63)

此話終ト首相ノ考慮ヲ促スコトニ決スベシ
正午及川海相ト面談永野總長ノ奏上セル意見
ニツキ懇談ス
一時武官長來室同上ノ件懇談
一時半甘露寺伯來室小松侯ヨリノ返答到着
奉告ト錦子爵トノ懇談ハ進メラレタシトノコ
トナル由ヲ申シキ安心ス
二時二十分近衛公來室拝謁面談
三時四十分ヨリ四時五分迄拝謁ス
七時寺崎アメリカ局長來邸電報ヲ受取ル

125

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1126

(1126) Doc P2495A

言類第二四九五号ノA

一九四六年(昭和二十一年)三月二十一日 永野修身訊問書

抜萃

第七、八、九頁

(問) 大将閣下、真珠湾ノ攻撃ノ計畫者ハ誰レデシタカ。

(答) 聯合艦隊デ研究シ又此ノ計畫ハ山本大将ニ依リ一九四一年(昭和十六年)ノ春発表サレマシタ。

此ノ計畫ハ聯合艦隊デハ極秘ニサレテ居リマシタカラ山本大将ト他ノ二名ノ将校ダケガ知ツテ居ルダケデシタ。

(問) 大将閣下、貴方ハ何時カラ此ノ計畫ヲ御存ジデアリマシタカ。

(答) 一九四一年(昭和十六年)十月ニ初メテ公式ニ此ノ計畫ヲ聞イテ非常ニ驚キマシタ。

(問) 其ノ時山本大将ハ此ノ様ナ計畫ガ研究サレテ居ルト云ノ事ハ、其ノ前カラ聞イテ居リマシタカ。

(答) イヽエ、サウデハアリマセン。山本ガ最初ニ此ノ計畫ヲ思ヒツイタノガ、其ノ頃デアツタト思ツテ居リマス。

(問) サテ、大将閣下、貴方ハ此ノ計畫ガ初メテ公式ニ耳ニ入ツタノハ、一九四一年(昭和十六年)十月デアツタト言ヒマシタガ、此ノ計畫ガ非公式ニ貴方ノ注意ヲ惹イタノハ何時デシタカ。

No. 1

126

No. 1

E'1126
1126 A Doc P2495 A

書類第二四九五号ノA
一九四六年(昭和二十一年)三月二十一日永野修身訊問書
抜粋
第七、八、九頁

(問) 大将閣下、真珠湾ノ攻撃ノ計画者ハ誰デシタカ。

(答) 聯合艦隊デ研究シタノデス。最初ノ計画ハ一九四一年(昭和十六年)ノ春発表サレマシタ。

此ノ計画ハ山本大将ニ依リ一山本大将ト他ノ二名ノ将校ダケデシタ。

(問) 山本大将ノ準備シタ此ノ計画ハ何時デシタカ。

(答) 一九四一年(昭和十六年)十月ニ初メテ公式ニ此ノ計画ヲ承知シマシタ。此ノ様ナ計画ガ研究サレテ居ルト云フ事ハ、其ノ前カラ聞イテ居リマシタ。

(問) 大将閣下、貴方ハ何時軍令部長ニナリマシタカ。

(答) 一九四一年(昭和十六年)四月デス。

(問) 所デ、其ノ時山本大将ノ此ノ計画ガ貴方ノ耳ニ入ッタトイフ訳デハナイノデスカ。

(答) イヽヤ、サウデハアリマセン。山本カ最初ニ此ノ計画ヲ思ヒツイタノガ、其ノ頃デアリタト思ッテ居リマス。

(問) サテ、大将閣下、貴方ハ此ノ計画ガ初メテ公式ニ耳ニ入ッタノハ、一九四一年(昭和十六年)十月デアリタト言ヒマシタネ。此ノ計画カ非公式ニ貴方ノ注意ヲ惹イタノハ何時デシタカ。

126

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. 2495A

No. 2

(答) 七月頃、又ハ断カル計画ノ訓練ヲシテ居ルトカ云ッ事ヲ聞キマシタ。

(問) 実際ハソノ！(大将) 閣下、更メテ御願ヒシマスガ、余リ厳密ニデナク、假令貴方ガ軍令部長デアルト云ッ事実ニ鑑ミテ、貴方ノ立場カラ、又海軍ノ活動ニ関聯シテトンナ事ガ行ハレテヰタカト云ッ事ニ関スル軍令部長トシテノ知識ヲ有スルモノトシテ答ヘテ頂キタイノデガ、日本海軍ハ真珠湾攻撃ノ作戦ノ山本安吉実行ノタメ一九四一年(昭和十六年)ノ春ニ、演習ヲ始メテヰタノデハナイデスカ。

(答) 此ノ計画ハ春ニ出来マシタ。然シ夏迄演習ニトリカヽリマセンデシタ。

(問) 夏ト云フト何時デスカ。

(答) 確カデハアリマセンガ、七月ノ初メ頃デアッタト思ヒマス。聯合艦隊ガ鹿児島ニ行キ、其處デ山越ニ低空デ入ルコトヤ急降下爆撃ヲ実施スル演習ヲシマシタ。

(問) ソレカラ(大将)閣下、此ノ様ナ演習ノ外ニ、艦隊ハ又真珠湾ニアルヤウナ浅瀬デ用ヒル特殊ノ設計ニナル水雷ノ演習ヲ行ッタト云フ事実デアルデセウ。

(答) 其ノ様ナ水雷ハコノ演習中ニ完成シマシタ。聯合艦隊ハ其ノ水雷ノ精製ト又其ノ試験トニタ大ノ時間ヲ費シマシタ。

127

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 2495

書類第三四九五号
通譯者ノ證明

本職ヨリ「フライシヤー」陸軍少尉（認識番号〇、九三五、〇〇〇、八宣誓ヲ為シタル上、宣誓セラレタル質問及應答ニ付キ英語ニ日本語ヨリ英語ニ眞実ニ飜譯ヲ為シタルコト並ニ右質問及應答ニ付テノ前書轉寫ハ十一頁綴ノモノニシテ本職ノ知識及確信ノ最大限度ニ於テ眞実ニシテ且ツ正確ナルコトヲ陳述ス。

「エリック・W・フライシヤー」署名ノ右ハ一九四六年一月昭和二十一年三月二十五日本職ノ面前ニ於テ署名ヲ宣誓ヲ為シタリ

「ヴアレンタイン・C・ハマック」署名ノ（官職）陸軍最高指揮官直属司令部国際検察部附正當ニ特別任用セラレタル調査官

1.

速記者ノ證明

本職「レオナ・P・コバリー」ハ茲ニ本職ガ前記ノ訊問ニ速記者ノ役目ヲ勤メタルコト、前記ノ質問及應答ヲ轉寫セルコト並ニ右轉寫ハ本職ノ知識及確信ノ最大限度ニ於テ眞実ニシテ且ツ正確ナルコトヲ證明ス

「レオナ・P・コバリー」署名ノ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2

Doc2495

訊問者ノ證明

本職ヴァレンタイン・C・ハマック中尉ハ一九四六年（昭和二十一年）三月二十一日、永野修身ガ本職面前ニ出頭ヲ為シ且ツ通譯者「エリック・ファイシャー」陸軍少尉ニ依リテ前記應答ヲ右ニ記載セル各個ノ質問ニ対シテ為シタル

コトヲ證明ス

「ヴァレンタイン・C・ハマック」署名

場所　於日本東京

期日　一九四六年（昭和二十一年）三月二十一日

129

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

P2453A
E'1127A

昭和二十一年三月二十八日ニ行ハレタ永野修身訊問ヨリノ抜萃

問、サテ提督、貴下ハ昨日デシタカ一昨日デシタカ、一九四一年夏ノ或時日本海軍ハ眞珠湾攻撃ノ演習ヲ始メタルト口ニ出サレタカ、或ハ述ベラレタト思ヒマスガ。ソレハ間違ナカツタ事デセウネ

答、然リ、貴方ノ言ハルヽ如ク其夏ニ艦隊ハ訓練ヲ開

[redacted]

…年ノ夏ノ何月頃カ記憶シテ

答、私ハ餘リ明確ニ記憶シテ居マセン、然シソレハ其夏ノ或ル時デアツタノハ確実デアリマス。

問、ソレハ一九四一年七月ノ或ル時デアツタカモ知レナイト云フノデスカ。

答、然リ。

問、此處ニ其ノ詳報ガアリマスガ、其実驗ト訓練トガ「スカモ」、佐伯、鹿児島及「コノエ」ニ於テ実施サレ

昭和二十一年三月三十一日 ヨリ 板垣

問、サテ提督、貴下ハ昨日デシタカ一昨日デシタカ、一九四一年夏ノ或ル時日本海軍ハ眞珠湾攻撃ノ演習ヲ始メタルトコロニ出サレタカ、或ハ述ベラレタト思ヒマスガ。ソレハ間違ヒナカツタ事デセウネ

答、然リ、貴方ノ言ハル、如ク其夏二艦隊ハ訓練ヲ開始シタト思ヒマス

問、提督、貴下ハ一九四一年ノ夏ノ何月頃カ記憶シテ居リマシタカ。

答、然、餘リ明確ニ記憶シテ居マセン、然シソレハ其夏ノ或ル時デアツタノハ確実デアリマス。

問、ソレハ一九四一年七月ノ或ル時デアツタカモ知レナイトモフノデスカ。

答、然リ。

問、此處ニ其ノ詳報ガアリマスガ、其実験ト訓練ガ「スカモ」、佐伯、鹿兒島及「コノ正」ニ於テ実施サレ

130

裏面白紙

2497A

No 2

テキル。其ノ通リデスカ。

答「スカモ」ハ訓練ニ好適地デアリマス。ソレデ海軍第一二航空隊ノ如キ訓練ニ其地ヲ使用シマシタ、然シ真珠湾攻撃ニ応用シタ急降下爆撃及山越ノ低空飛行ハ訓練ハ鹿児島ニ於テ行ハレタモノト思ヒマス。

問、提督、後ニ一九四一年八月ニ東京ノ海軍大学ニ於テ最後ノ計画ガ作ラレタ事ハ事実デハアリマセンカ。

答、海軍大学ニ於ケル準備ハ十月ニ始メラレ、又図上ノ調査ガナサレタト思ヒマス。其成果ハ後ニ吾々ニ公表サレマシタ。ソレガ吾々ガ攻撃ニ関シテ公ニ通知シタ最初デアリマス。ソシテ其時艦隊司令官ハ後ニ採用セラレタ計画ヲ発表シマシタ。

問、提督、貴下ガ後ニ其結果ニ就イニ始メテ公式ニ通知サレタト言ハレ、ノハ真珠湾攻撃ノ結果ニ就イテ通告ヲ受ケタト申サル、ノデスカ。

答、海軍大学ノ調査ノ結果ガ発表サレタ後、艦隊司令官ハ真珠湾計画ヲ説明シタノデス。

問　事実上、提督、海軍大学ニ於テ計画ガ完

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 3

2497A

戎サレタ日時ハ一九四一年ノ十月下五ヲヨリモ寧ロ八日末或ハ九月早々デハナカツタノデスカ。

答、貴方ハ布哇攻撃ノ計畫ノコトヲ言ハルノデスカ或ハ海軍大学於テサレタ一般調査ノコトヲ云ハレルノデ答。

問、提督、私ハ海軍大学ニ於テ計畫ガ完成サレタ時ノ事ニ就イテ申シテ居ルノデス。「エヌ」組トカ「エイ」組トカ或ハ「イー」組トカ色々ノ組ガック時ノコトデス。

答、私ハ承リヨリ記憶シテ居リマセン。然シ成程九月ノ終リ頃ト申シタ方ガ良イカモ知レナイト思ヒマス。

問、提督、眞珠灣攻撃ノ計畫ヲ完成サシメタ此ノ模擬戰デ、貴下ハ審判官ノ役ヲナサレタノデハアリマセンカ。

答、香審判長ハ山本大將デアリマシタ。私ハ模擬戰ニ於ケル個人ノ関係モアリマセンデシタ。然シ模擬戰ガ終ツタ時ニ其結果ヲ見ニハ行キマシタ。

132

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1104
2004974
2004974

133

(42)

(42)

[redacted]

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参考資料 極秘 昭和二十二年 月 日 検察官 ○○○○ 殿
（氏名）

E'11a-7A
Z4971A
Z4971A

右ノ宣誓ハ日本語ニ依リ私ニ読ミ聞カセラレ、宣誓ニ付疑義ナキ旨ヲ述ベ、署名捺印シタ。

宣誓ノ場所 ○○○○

宣誓者ノ署名

（署名）

右ノ一九四六年／四月二十一日／日本国／東京ニ於テ／宣誓ノ上／署名捺印シタ。

ウィリアム・F・フラナガン／合衆国／陸軍少佐／検察官

（署名）

面前ニ於テ宣誓ノ上／署名捺印シタ。

ウィリアム・G・ウェッブ／合衆国／最高司令官／連合国／軍事裁判所／裁判長

本書ノ一九四六年／四月二十一日／日本国／東京ニ於ケル／宣誓ノ／記録ニ／相違ナキ／コトヲ／証明ス

ジョン・G・ロバーツ／合衆国／海軍少佐／副検察官

133

裏面白紙

2.

Doc 2497H (cont)

及治罪ノ最大限ニ於テ裁量ニシテ且ツ正当ナコトヲ認ム

「レオナ・P・コバリー」／署名／

証拠者ノ陳述

本日、「ザアレンスタイン・C・ハマック」ハ一九四六年／昭和二十一年／三月二十七日永野修身ガ本職ノ面前ニ出頭ヲ為シ且ツ通訳者「エリック・W・フライシャ」陸軍少尉ニ依リテ前記原告ヲ右ニ記載セル役目ノ責任ニ於テ為シタルコトヲ証明ス

「ザアレンスタイン・C・ハマック」／署名／

場所　日本、東京

期日　一九四六年（昭和二十一年）四月三日

134

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E' 1128

Doc P2498 (cont)

1.

証第二四九八号

一九四六年／昭和二十一年／二月廿日

通訳者ノ證明

本職「リツキー・ヤマグチ」ハ宣誓ヲ爲シタル上實施セラレタル質問及應答ニ付夫々英語ヨリ日本語ニ日本語ヨリ英語ニ眞實ニ通譯ヲ爲シタルコト並ニ右質問及應答ニ付テノ前書證言ハ八十三頁第一ノモノニシテ本職ノ智識及確信ニ於テ眞實ニシテ且ツ正確ナルコトヲ玆ニ述ス

「リツキー・ヤマグチ」／署名／

一九四六年／二月廿一日本廳ノ面前ニテ

「リツキー・ヤマグチ」／署名／

※　※　※　※　※　※

速記者ノ證明

本職「ユヴユリン・コーデル」ハ玆ニ、本證ガ前記ノ訊問ニ速記者ノ役目ヲ勤メタルコト前記ノ質問及應答ヲ筆寫セルコト並ニ右筆寫ハ本職ノ智識及確信

135

EI 1128

Doc p2498 (cont)

1.

書証第二四九八号

一九四六年／昭和二十一年／二月十日

通訳者ノ證明

本職「リツキー・ヤマグチ」ハ宣誓ヲ爲シタル上實施セラレタル質問及應答ニ付夫々英語ヨリ日本語ニ日本語ヨリ英語ニ眞實ニ誤解ヲ與シタルコト並ニ右質問及應答ニ付テノ前書第八十三頁綴ノモノニシテ本職ノ智識及確信ノ最大限度ニ於テ眞實ニシテ且ツ正確ナルコトヲ爲シ證ス

「リツキー・ヤマグチ」／署名／

右ハ一九四六年／昭和二十一年／二月十日本職ノ面前ニ於テ署名及宣誓ヲ爲シタリ

「デヨン・ダージイ」／署名／

※　※　※　※　※

速記者ノ證明

本職「エヴエリン・コーデル」ハ茲ニ、本件ガ前記ノ如ク速記者ノ役目ヲ勤メタルコト前記ノ質問及應答ヲ筆寫セルコト並ニ右筆寫ハ本職ノ智識及確信

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2498 (cont)

ノ点六項ニ於テ典害ニシテ且ツ正当ナルコトヲ證明ス

「エヴェリン・コーデル」／署名／

※　※　※　※　※

本取「ジョン・ダージイ」四係ル暴行事ハ一九四六年／昭和二十一年／一月十六日、同十七日、同十八日、同二十一日、同二十二日、同二十三日、同二十五日、同二十八日、同二十九日、同三十日両日ニ亘リ証人ヲ喚問シ且ツ証言ヲ聴キ「サツキー・ヤマグチ」ニ対シ下記証拠ヲ右ニ記載セル様ニ証明スルコトヲ認ム

「ジョン・ダージ」／署名／

場所　県会調査所

期日　一九四六年／昭和二十一年／二月六日

136

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

EX. 1128A
F 2498-B

昭和二十一年一月二十三日 嶋田繁太郎訊問調書

向 山本氏ハ其ノ真珠湾攻撃計画ヲ参謀本部ニ提議シタノハ一九四一年(昭和十六年)初期デハアリマセンデシタカ。

答 仝氏ハ一九四一年一月ニ夫レヲ提議シタト私ハ聞イテ居リマス

向 当時仝氏ハ聯合艦隊司令長官デシタネ

答 左様デシタ。

向 永野大将ガ其計画ノ研究ヲ進メルヤウニ仝氏ニ指令シタノハ一九四一年三月デシタネ……

答 其ノ点ニ関シマシテハ私ハ其ノ日取ハ知リマセンガモウト後ノ事ノ様デアリマス。

向 ソレハ一九四一年ノ初期デハナカッタノデスカ

答 恐ラク五月カ六月カラト思ヒマス。

向 五月カ六月ニ仝氏ノ計画ガ研究的ニ採用サレタノデスカ

答 最初ハ一般計画ニハ真珠湾攻撃ニ関スル計画ハ有リマセンデシタガ五月カ六月頃ニ正式ニ開

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2498 B

ヒルコトニナッテ、山本氏ニ依テ為サレタ艦隊訓練ヤ研究ハ一九四一年ノ五月カ六月頃ニ開始サレタト思ヒマス。

問 海軍ノ浅海奥雷ノ製作ヲ開始シタノハ一九四一年（昭和十六年）ノ初メデアッタト云フコトハ承知デスネ

答 ハイ、能ク承知シテ居リマス。

問 其レハ真珠湾ガ浅瀬デルコトヲ海軍ハ能ク知ッテヰタカラデハ有リマセンカ。

答 ハイ、其ノ通リデス。

問 従テ艦隊ハ其ノ奥雷ヲ用ヒテ訓練ヲ一九四一年ノ夏一杯ヤリマシタネ。

答 ハイ、左様ト思ヒマス。

問 偖、一九四一年（昭和十六年）十一月十日南雲海軍中将ハ其ノ旗艦航空母艦赤城艦上ニ於テ攻撃作戦命令ヲ一号ヲ書キマシタネ。

答 ハイ、一九四一年十一月二十日迄ニハ全軍ニ戦闘作戦ヲ完了アスベキ様ニ命ジマシタ

No. 2

答 左様ニ思ヒマス

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2498B

問 千島列島中擇捉島單冠湾ガ機動部隊
集合地点トシテ攻撃作戦命令第一号ニ指定
サレテヰマシタネ。

答 其通リデアリマス。

問 一九四一年十一月廿一日カラ合セ七日ノ間ニ於テ攻撃部
隊ハ單冠湾ニ集合シテ居リマシタネ。

答 ハイ。ソウデアリマス。

問 攻撃部隊ハ一九四一年十一月廿七日單冠湾ヲ進発
十二月四日カ又ハ五日ニ至ルマデ東方ニ向ケ航海シマシ
タネ。

答 其ノ通リデアリマス

問 ソレカラ進路ヲ南東ニ変ジ布哇ニ向ヒマシタネ

答 ハイソウデス

問 布哇ヲ去ル約二五〇哩ノ地点ニ到達シタル時ニ第一回ノ
飛行編隊ガ発進サレマシタネ

答 ハイソウデス。

No. 3

問 第六艦隊中ノ二十隻カ三十隻ノ日本潜水艦ノ一隊
カ攻撃ニ先立チ真珠湾ノ外側ヲ偵察シマシタネ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 4

B 答ハイ、ソウデス。
498 円ソウシテ五六隻カラナル小型潜水艦ノ一隊ハ回漕
2 侵入セント試ミマシタカ。
答ハイ、ソウデス。

140

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Ex. 1127A
Doc 2498B (cont)

(23)
1.284

証第二四九八号
一九四六年／昭和二十一年／二月二日

通訳者ノ證明

本職ハ「リツキー・ヤマグチ」ハ宣誓ヲ爲シタル上實施セラレタル質問及應答ニ付夫々英語ヨリ日本語ニ又日本語ヨリ英語ニ眞實ニ通譯ヲ爲シタルコト並ニ右質問及應答ニ付テノ前記速記者ノ證言ハ八十三頁乃至ノモノニシテ本職ノ智識及確信ノ最大限度ニ於テ眞實ニシテ且ツ正確ナルコトヲ頁述ス

「リツキー・ヤマグチ」／署名／

右ハ一九四六年／昭和二十一年／二月二日本職ノ面前ニ於テ署名及宣誓ヲ爲シタリ

「デヨン・ダージイ」／署名／

※　※　※　※　※

速記者ノ證明

本職ハ「ユヴユリン・コーデル」ハ茲ニ、本證ガ前記ノ如ク前記ノ質問及應答ヲ速記メタルコト前記ノ質問及應答ヲ前掲セルコト並ニ右前掲ハ本職ノ智識及確信

I

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2498 (cont)

ノ為メ公開ノ法廷ニ於テ真実ニシテ且ツ正確ナルコトヲ誓
明ス

「エヴェリン・コーデル」／署名／

※　※　※　※　※

本職「ジョン・ダージイ」昭和弐拾壱年／一九四
六年／一月十六日、同十七日、同十八
日、同二十一日、同二十二日、同二十五日、同二
十八日、同二十九日、同三十日島田俊太郎ガ本院ノ面前
ニ出頭ヲ為シ且ツ宣誓者「リツキー・ヤマグチ」ニ
対シテ前記通宰ヲ右ニ記載セル様言ノ質問ニ対シテ
答シタルコトヲ証明ス

「ジョン・ダージ」／署名／

場所　桑港領事所

期日　一九四六年／昭和二十一年／二月六日

142

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

訂正

訂正理由	撮影ミスの為
訂正個所	直前の　　/コマ取消 /コマ再撮影
訂正年月日	平成 18 年 11 月 27 日

このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。

撮影者　鈴木康二郎　　鈴木　印

受託責任者　　印

神奈川県南足柄市中沼210番地
富士写真フイルム株式会社
代表取締役　古森重隆

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2498 (cont)

ノ表大限度ニ於テ真実ニシテ且ツ正確ナルコトヲ證明ス

「ユヴユリン・コーテル」／署名／

※　※　※　※　※

本取「ジョン・ダージイ」証拠決定事ハ一九四六年／昭和二十一年／一月十六日、同十七日、同十八日、同二十一日、同二十二日、同二十三日、同二十五日、同二十六日、同二十七日、同二十八日、同三十日島田繁太郎ガ本廷ノ面前ニ出頭シ且ツ為シ且ツ為シタル宣誓ノ下ニ左ノ通リ証言シタルコトヲ證明ス

「ジョン・ダージ」／署名／

場所　最高裁判所

期日　一九四六年／昭和二十一年／二月六日

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

November 12, 1906.
Books.
From: 大谷光瑞氏 re: Buddhist History

15 I
1145

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 1632W (64)

E 1129

24

木戸侯爵日記

昭和十六年八月二日分

八月二日（土）　曇

午前十時出勤

十一時過近衛公来室対米強硬論者漸軍部内ニ抬頭シ来ル形勢ニアリ将来ノ政情ヲ深憂セラレ統帥部トノ圓滑ナル協調ニモ不安ヲ懐カレ居ル様子ナリ余ハ米国ニシテ油ノ供給ヲ断ツカ如キ政策ニ出ル場合[illegible]ノ論議ヲ失フニ至ルベク而シ[illegible]ハ多ク見積リテモ二年ヲ出デズ[illegible]際[illegible]外交工作方ヲ慎重ニセザレ[illegible]ノツカザル窮境ニ逢着スベシ就テハ[illegible]海軍大臣ト国策ノ根本ニツキ徹底的ニ討議シ若シ意見合ハザレバ辞職スルモ不得止ベシ此場合ニハ後ハ陸海軍ヲシテ収拾ニ当ラシムルノ外ナカルベシト意見ヲ述ブ

秘書官長ト右ノ件ニツキ打合ス

二時半岡田文秀氏来訪面談

143

Doc 1632W(64)
E(1129)

木戸侯爵日記

昭和十六年八月二日分

八月二日（土）

曇

午前十時閣議
十一時過迄
都合ニ依リ公來室ニ於テ拝謁
ヲ願度セラレ
モ不安ノ
シテ御ノ供給ヲ
今ニハ石油ノ給源ヲ失フニ至ルベクト
テ財政上ハ多ク見積リテモ二年ヲ出デズ
迄スレバ除ク外交工作方ヲ優先ニセザレ
バ取返シノツカザル
テハ国家大局ト国家ノ現実ニツキ
徹底的ニ
スルモ不
ヲシテ次
ト意見ヲ
都合宜敷ト
二時半陸軍

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc P 163

(44)

(26)

木戸使日記

昭和十六年八月七日分

八月七日（木）晴

[redacted]

一時五分ヨリ一時二十分迄東郷外務大臣ト面談ノ結果ニツキ近衛公ニ報告ス。

[redacted]

一時半小倉大日本産業報国会ノ会長ニツキ近衛公ニ報告ス。

[redacted]

二時半迄首相官邸ニ於ケル閣僚懇談会ニツキ近衛公ニ報告ス。

三時半近衛首相ト会見ス。

余ハ大要左ノ如キ意見ヲ述ベ最後ナル考ヲ求ム。

一、今日ノ事態ハ真ニ大ナリト思フ

一、若干日ヲ経スコトハ許サレス速ニ内閣ノ根本的ナル改造ニヨリ方針ヲ決定スルノ要アリト思フ

一、今日迄余ノ知リタル資料ニテハ陸海ソレ〳〵作戦ハ余程困難ナリト思フ

一、而シテ真ニヨッテハ国民ハ初メテ情勢ニ通ズルトモ云ヘル自チ治ノ問題ダ

1

144

めくれず

Doc P1632W(44)
E 1130

木戸侯爵日記

昭和十六年八月七日分

八月七日（木）晴

午前九時中島亀二次氏来訪ニ会ス。

十時四十分ヨリ十一時近衛文長ノ来訪ニ会ス。

秘書官長若槻来室近衛首相今朝大臣ト面会ノ結果ニツキ報告アリタリ。

一時五分ヨリ一時二十分迄来訪ノ近衛文長ノ来訪ニ会ス。

秘書官長ニ言上セラルヘキ事項ニツキ御話アリタリ。

一時半小倉大臣大臣来室安倉ノ書状ヲ呈ス。

ツキ話アリタリ。

二時半迄官長来室海軍ノ局面ニツキ報告ス。

三時半近衛首相ヲ内奏ノ為メ訪ヒタリ。

会ハ大体左ノ如キ点ヲ述ベ御答ナルヤウ希ム。

一、今日ノ情勢ハ国ニ大ナリト思フ

二、若特ニ対ソ関係ニ於テ断然タル決意ヲ為スコトハ許サレヌ迄ニ面倒ノ部ノ

仏印ニ於ケル措置ニヨリ方針ヲ決定スルノ要アリト思フ

一、今日迄余ノ信ジタル安全デハ来ラソニ作ラハ

余程困難ナリト思フ

二、而シテ貴族ニヨツテハ国ニハ行メテ御覧ニ供元サレタトモ云ヘル自チ油ノ問ニダ

1.

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 1632W (66)

一、油ハ海軍ガ二年是トテモ民爭ヲスレバ一年半シカナイト云フ位軍ハ一年位トノコトダ

一、ソコデ結局カラ云ヘバ右ガ奪貨ナリトスレバ到民米國ニ對シテ必勝ノ信ヲ爲スコトハ出來ナイト云フ外ハナイ

一、米國ヲ外ニシテ手近ニ油ノ供給源ヲ求ムレバ蘭印ト北樺太シカナイ

一、蘭印ヲ攻略スルニハシンガポール、フイリツピンヲ先ヅ征服スルニアラザレバ固ヨリ油井ハ破壞サルヽデアラウシテ之等ノ行爲中ニ油井ハ破壞サルヽデアラウカラ必要量ノ油ヲ得ルニハ到底一年半デハ出來シイト思フ

一、蘭印ニ手ヲ出セバ米國ハ參戰スルデアラウソウスレバ固リニ油ガ出ルトシテモ英米ノ潛水艦ノ脅威ハ非常ニ危險率多ク果シテ所期ノ成果ヲ擧ゲ得ルヤハ頗ル疑ハシイ

一、若シソコニ誤算ガアツタトスレバ由々敷大事デ我國ハ油ノ不足丈デ手ヲ擧グル外ナイト云フコトニナル

一、然ツテ今日ノ情勢ヲ算的ニ云ヘバ國力足ラズシテ思フコトガ出來ナイト云フコトデアツテ豪而ノ形ハ然ツテ居ルガ日清日露ノ三國干渉ノ場合ト同ジ決意ヲスル外ナイト云フコトデハナイカト思フ

145

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3.

Doc 16.32 W.(44)

一、テ今般十年ヲ目標トシ以請書ノ表心ワナシ
一、鑑ミリ日米国交ノ国策ヲ遂行スル
ト共ニ
一、国内ニアリテハ国防ノ目的ヲ完遂ニ在キテ民ノ
目的達成ノ為メニ大体十年ヲ目標トシ
一、直工業、工作機械工業ノ拡立、
一、人、石油工業ノ総合ナル確立
一、鉄鉱及鉄鋼ノ大増回
ニ全力ヲ傾グルコト
而シテ右計畫ノ主ナル事項ヲ左ニ記述スルコト

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21.11.12

Doc 219P (96)

國務省ヨリ日本大使館宛（暗號）（註九一）

日本国内及支那日本占領地ニ於ケルアメリカノ権益妨害ニ関スル最近ノ件

日本国内及支那日本占領地ニ於ケルアメリカ外交官等及領事事務官ヨリ国務省宛ノ報告ニ依レバ日本官憲及日本政府係官ハ単ニアメリカ官憲ノ施設、アメリカ官吏及アメリカノ権益ニ対シ嘉ニ直ル行動ヲ慎重ニトリ来ッテ居ルトノ意ヲ示シテ居ル。

外国関係（暗號）ニ九〇八頁

註（九一）右書翰ハ一九四一年（昭和十六年）八月十三日国務長官ヨリ日本大使（野村）ヘ手交セルモノナリ

147

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1131

P 14570

22

外務[illegible]書類（一九四一年八月五日—一九四[illegible]二月六日）

1131

（26）

1131

与一の政策

昭和十九年八月十六日　後　部局　発

八月十七日　前　本省　着

（機）

野村大使

豊田外務大臣

第七〇三号

[redacted]

[illegible]関係ニシテ真ニ危機一髪ノ所ニ到

[illegible]轉スルノ惧アリ。泰追駐ヲ見ルニ

[illegible]ナラシトハ殆ド日米平人一般ノ見解

ナリ。既報ノ通リ（議会）歐州参戦ハ未タ輿論一致スルニ至ラズ大統領

モ寧ロ[illegible]ソツアル趣ナルカ之ニ反シ極東ニ對スル強硬論ニ對シテハ

輿論一致シ消息通ノ云フ所ニ依レバ夫レハ英國モ賛成シ支那モ

獨逸モ望ム所ナリトノコトナリ。

唯大統領モ海軍首腦モ太平洋戰爭ノ大事業タルヲ知ルカ故

極端ノ行進容易ニ動クコトナカルヘシト認ムルモ一面英國ハ米國ヲシテ

「バックドア」ニ於テ日米戰爭ヲナサシムレバ甚テ米國ヲ歐洲戰爭ニ引

込ム見込アリト認メ居ル由ナリ。

No. 1

148

三ノ1131
P1457 22
1131

外務大臣 書類(一九四二年八月六日―一九四二年十月六日)

別ノ(秋葉)

昭和十六年十八月十六日
東京発
八月十七日(後)
同本省着

豊田外務大臣

野村大使

No. 1

第七〇三号
貴電第四八〇号ニ関シ
(一)帝次御報告致セン通日米関係
着シ日本ノ次ノ動キニ依リ各轉ル(根ア)ノ(根ア)
於テモ形勢ノ急変ヲ来シタルヲ
ナリ 現報ノ通リ歐州戰
モ獨ソ戰ハ大ナル變動
哀路一致シ消息通ノ如キ
獨逸モ望ム所ナリトノコトナリ
米大統領モ海軍首腦モ太平洋戰爭ノ大勢
極端ノ非迄答ヲ動クコトナカレ)ヘシト說ムルモ一面英國ハ米國ヲシテ
「バックドア」ニ於テ日米戰爭ヲ十分
迄ノ見込アリト說メ居ル由ナリ

(一)帝次御報告致セン通日米関係ニシテ真ニ危機一髪ノ前到
着シ日本ノ次ノ動キニ依リ各轉ル(根ア)ノ(根ア)ニ
於テモ形勢ノ急変ヲ来シタルヲ人(政ノ見解ト
ナリ 現報ノ通リ歐州戰ハ大ナル變動
モ獨ソ戰ハ大ナル變動ニシテ英國ハ米國ヲシテ
哀路一致シ消息通ノ如キ極東ニ對シ強硬論ニ對シテハ
獨逸モ望ム所ナリトノコトナリ
米大統領モ海軍首腦モ太平洋戰爭ノ大勢ヲ知ル故
極端ノ非迄答ヲ動クコトナカレ)ヘシト說ムルモ一面英國ハ米國ヲシテ
「バックドア」ニ於テ日米戰爭ヲ十分
迄ノ見込アリト說メ居ル由ナリ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1457

No. 2

尚当方面ノ見込ニテハ独逸ハ
モ戦争ハ速戦遅決ノ域ヲ脱シ
ノ消耗戦トナリ
期ノ目的ヲ達成シ得可ノ今日ハ
寄ルヲ勝利ノ信念
ニ当国ノ情勢
湖ハナルヲ得ス
テ英、仏長官ノ
リ委細ノ様子ナリ
大統領ハ首テ両国首脳会談ノ
本ノ志ス所ハ日米国交ノ根本
メント」戦略ニ出テタリ本使
モート考ヘ出シメル趣旨ニ過
措置セル由、且コノ度ノ米声明ニ対シテモ東京新聞ハ平静ナ
批評ヲ加ヘ居リ益々極メテ悪シ
一掃スルニアラサレハ目的ノ達シ難シ尚又政治的ニ考ヘ一国ノ力ノ成功ノ見込アルニアラサレハ出兵ハ
ノ如キ
ノ如ク
ヨリ「フル」ナル
ノ例ト
ノ例外ノ
ニ引見シタル
ハ平静ナ
テ此ノ談話ヲ
ハ出兵ハ
ノ結合

149

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No.5

1457

ニ於ル難支タリシ自衛権ノ問題、支那ヨリノ撤兵、通商ノ無差
別主義ニ関スル程度ノ言質位ハ要望シ相当ノ考慮ヲ
ナシ得ト思考スル旨」既ニ國務長官ヨリ拒否セラレアル今日御訓
令ノ趣旨ヲ達成スルハ相当ノ考慮ト地均シ工作ノ必要ヲ痛
感スル次第ナリ
大統領ハ一両日中ニ発シ由ナル付右諾否ハ考慮ノ上何分
ノ御指示アラバ速ニ電報アリ度キ旨ヲ請フ（了）
（三〇六―三一二頁）

150

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1457

335355
電話 33398
昭和16年7月15日
午前11時0分着

至急

野村大使

大至急 第五六〇号

往電第五三九号ニ関シ

一、貴電第七九八号ニ依レバ米側ハ
頃ニ達シ居ラルル処貴電ノ趣旨ニ
右ノ段承知御含ミ迄申上ル

尚ア(ロ)ノ仏印交渉ニ関シ特ニ入レシハ
細目的審議ニ入リ之ガ妥結ヲ
実現ヲ促進シ此際事態ノ
極ラヌ如何シテモ両首脳
ベレ共諒承ノ見地ヨリ
ヲ早レヲメザシテ行ヒタルモノニシテ(右ニ対スル貴
大使ニ対スル説明ハ
No.4 ヲ至急来大統領自身ヨリ
ス十三日ノ米大使ヨリノ
ヤリタシ

昭和十六年七月十三日起草

豊田大臣発

(総長前ニ)

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1457.

No. 5

二、我方ハ心ノ調ヘカヤウノ従来ノ非公式会談ヲ「ナロダウン」
若クハ最次ノ更新及前項ニ於ケル明白ナル
ノ話合ノ実質ヲ我大臣ガ見ル日迄ノ暫ク間ニ明瞭ニテ
我方カ大局的見地ヨリスル解決ヲ強調シ居ルモ右ニ甚ク外ナ
ラス

四、仮ニ冒頭ノ如キ話合ヒノ根幹トナル事務的法律的諸点ハ之ヲ
最小限度トシ両首脳部ノ会見ヲ速カニ実現シ其ノ会見ニ於ケル
三巨頭ノ交渉ニ俟テ可ナリトノ意見ナリ

三、米側ハ我方ニ於ケル所謂四原則ノ承認ヲ求メ居ルコトハ此
際目頭ニ関スル解決モ見ス之ヲ強ヒテ筋合ハ尚我方ニ於テ従来指摘セル通リ米ノ「プレッシュア」ニ依
ルベシトノ観ヲ與ヘ候ヘ多分ニアルノミナラス又英蘭支及其他
ノ諸国トノ関係ヨリ要アリトスルモ我ニ於テ強ヒテ解決セラレ、候ヘアリ
得ル筈ニ非ス。此ノ際適当ナル
期間ノ話合ヒノ形トスルコト緊要ナリ右ハ特ニ重要ナル
注意ト認ム（但シ我カ事実上英蘭等トノ話合ヒヲナスモ
之ヲ阻止スル筋合ニモ非ズ又事実上阻止不可能ニテ帝ノ我方
ノ関知スル所ニアラズ要ハ多数国会議乃至協定ニ違カルヲ指否

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No. 5

No. 5

1457.

スルノ意ナリ)

田尚古八貴重第八〇四号)往電(昭五三七号)ノ如キ質問ヲ
拒否スルモノニ八非ズ右ニ本建オトレ主旨ヲ貫徹セント欲スルモノ
ニテ前記二電ニ対スル回答八近ク電報ヲ以テ御含ミ迄

(七三一―七三二頁)

153

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOC 1457 Part 1

證明書

「ワシントン」文書局備付

國際検察局部第四五之號ノ一

共檢察局ニ公正ニ関スル證明

余檢察官ハ余ノ下記ノ資格ニ於テ、即チ外務省文書課長トシテ、日本政府ト公的関係ヲ有セルコト並ニ該官吏トシテ余ガ其ノ職務ノ遂行ニ関シ下記題名ノ文書ヲ所有セルコトヲ玆ニ証明ス。

千九百四十二年（昭和十七年）八月十六日附下記題名ノ文書ハ在米野村大使発豊田外務大臣宛電報ノ文言ノ侵害ニ依リ届ケラレタル文書ニシテ、該文書ハ日本政府ノ公文書ナルコト、並ニ右ノ下記名義ノ者又ハ部局ノ公式書類及ニ報ノ一部ナルコトヲ証明ス。（若シモ又ハ殿番號又ハ引用其ノ他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ成規所在ノ公式名称ヲ特記セシメシ）外務省

千九百四十六年（昭和二十一年）十一月一日

東京ニ於テ署名

檢察官吏署名欄

右者ノ公的地位

證人

林 譽 ㊞

外務省文書課長

辰巳 寿 ㊞

公式入手ニ関スル證明

余、ここに右に署名したる者ハ、余ガ聯合國最高指揮官總司令部ノ関係アルモノナルコト、並ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ玆ニ証明ス。

千九百四十六年（昭和二十一年）十一月一日

東京ニ於テ署名

氏名 栩 ㊞

右者ノ公的地位 國際檢察部調査官

154

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 1457 part 2

證明書

「ブレークニー」文書局第　　號

國際検察部第一四五七號ノ二

出處及ビ公正ニ関スル證明

余林馨ハ茲ニ下記ノ如ク證明ス即チ余ハ外務省文書課長ニシテ日本政府ノ公的関係ニ存在スルモノナルコト又余ハ添附セル八頁ヨリ成ル一九四三年(昭和十八年)九月十三日附ノ記號ナル重光外務大臣宛在本野村大使電報ナル文書ノ保管ニ任ジ居ルコトヲモ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ右記原文書ガ日本政府ノ公文書ニシテ右ハ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公式書類ノ一部ナルコトヲ證明ス(若シ番號又ハ引用其他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ所在箇所ノ公式名稱モ特記スベシ)

一九四六年(昭和二十一年)十一月一日　外務省

東京ニ於テ署名

當該官吏署名欄　林　馨(印)

右ノ者ノ公的資格　外務省文書課長

證人　唐戸長春(印)

公式入手ニ関スル證明

余(Eric W. Fleisher)ハ余ガ聯合國最高司令部ニ関係アル者ニシテ上記證明書ニ記載セラレタル文書ハ余ガ公務上日本政府ノ上記當該官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス

一九四六年(昭和二十一年)十一月一日

東京ニ於テ署名

氏名欄　Eric W. Fleisher

右者ノ公的資格　2dLT AUS MI
國際検察部調査官

證人　ウイリアム・C・ブラウト

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1.

Doc 2534D

E 1132

(27)

高橋義次

東京日々新聞カラノ抜萃

一九四一年八月廿三日附 土曜日

急速ナル軍備擴張ト東亜ノ自給自足ヲ圖ル

物動計畫研究サル

企畫院總裁提出ノ

第四四半期計畫決定

計畫要綱變更サル

政府ハ八月二十二日ノ閣議ニ於テ企畫院總裁鈴木貞一中將提案ノ一九四一－四二年度／昭和十六年七月以降ノ國家物資動員計畫[illegible]。

計畫ノ要點ハ(一)急速ナル軍備擴張(二)東亜共榮圏内ニ於ケル重要資源自給自足體制ノ確立、特ニ石油、石炭生産ノ維持、(三)國民ノ生活必需物資ノ最低限度ノ維持、及ビ(四)物資動員計畫ト海上輸送計畫トノ緊密ナル調和デアル。

鈴木總裁談話

本計畫ハ複雜ナル國際狀勢ニ處スル強力ナル戰時体制ヲ確立スルタメ企畫院竝ビニ關係各廳ニ於

Doc 2534D
E 1132

高橋長次

東京日々新聞カラノ談話
一九四一年八月廿三日附 土曜日

企畫ナル軍備擴張ト東亞ノ自給自足ヲ圖ル
○○○○○○○○○○○○○○○○
勞動計畫研究サルル
○○○○○○
企畫院總裁擴大ノ
第貳回半期計畫決定
計畫要綱發表サル

政府ハ八月二十二日ノ閣議ニ於テ企畫院總裁爲
永貞一中將提案ノ一九四一―四二年度ノ第貳四半期及ビソレ以降ノ國家物資動員計
畫ヲ正式ニ決定セラレタ。

計畫ノ要點ハ(一)急速ナル軍備擴張 (二)東亞共榮
圏内ニ於ケル重要資源自給自足体制ノ確立、特ニ
石炭生産ノ維持、(三)國民ノ生活必需物資ノ
最低限度ノ維持、及ビ(四)勞務動員計畫ノ
計畫トノ緊密ナル調和デアル。

鈴木總裁談話

本計畫ハ擴張ナル國防ニ於ケル重力ナル
時局ヲ確立スルヲメ企畫院並ビニ關係各廳ニ於

1.

156

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2534D

テ熱心ニ研究サレタモノデアル。

鈴木企畫院總裁ハ八月二十二日ノ閣議ニ閣僚各官ニヨリ立案サレタ本計畫ヲ提出、詳細ナル說明ヲ行ツタ。尽案ハ各議ノ上正式ニ承認サレタ。

政府ハ同日午后鈴木總裁說明ノ形式デ左ノ如キ說明ヲ發シタ。

「政府ハ茲ニ一九四一年度ヨリ一九四二年度ノ物動計畫ノ實施ヲ骨子トシ一九四一年度ヨリ第貳四半期動員計畫ヲ樹立實施シマシタ。然シ乍ラ政府ハソノ後急變セル國際狀勢ニ鑑ミ速カニ必要ナル諸方策ヲ研究、之ガ完成ニ努メテ來マシタ。政府ハ新タニ一九四一年度ノ物資動員計畫ヲ樹立シテ一九四一年度ヨリ第貳四半期及ビソレ以降二年度ニ亘ル物動計畫ヲ立案、本日閣議ノ決定ヲ得タノデアリマス。

「本計畫ニ於テハ支那事變ノ完遂ト新タナル國防狀勢ニ即應スル爲臨時軍事費ノ急速ナル完成ヲ目的トスル四ツノ點（後圖）ニ重點ガ置カレテ居リマス。

「一九四一年度ヨリ第二年度ノ供給ニ關シテハ前年ニ依リ第三國ヨリノ輸入ガ困難ニナル事ヲ考慮シテ諸般ノ計畫ヲ樹立シテアリマス。從ツテ本計畫ノ遂行ニ支障ヲ生ズル處ハナイノデアリマス。

157

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3.

Doc 2534D

「官庁並ビニ民需用ノ動員ハ相当ニ制限サレマシタ。能率ノ向上、消費ノ合理化、重点的配給等ノ手段ニ依リ最小限ノ動員ヲ以テ最大ノ効果ヲ挙ゲルヤウ努力致シマス。

「同時ニ政府ハ動員計画ノ周密ナル遂行ヲ期スルタメ更ニ資源ノ国営ヲ促進シ消費規正ヲ強化致シマス。

「動員計画ノ実施ハ国イ総力戦ト官民ノ協力ニ依ツテノミアリマス。国民ハコノ現状ニ鑑ミ、政府ト一体トナリ国家総力ヲ発揮シ立ノ為ニ努力シナケレバナリマセン。」

158

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 2534 Band D

証明書

ワシントン文書局
國際裁判部

第二五三四 IB及D號

典據及ビ公正ニ関スル證明

予 イカワ、キャツイチノ ハ予ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ内閣書記官トシテ、日本政府ト公的関係ニアルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ、茲ニ言及セラレタル図書ノ保管ニ任ジ居ルコト、更ニ此處ニ添附セラレタル、下記題名 即チ一九四一年／昭和十六年／七月十日及ビ一九四一年／昭和十六年／八月二十二日ノ閣議ニ関スル東京日日新聞記事ハ、該時日ニ於ケル内閣決定事項、乃至閣議ニ於ケル表現シ居ルモノナルコトヲ茲ニ證明ス

一九四六年／昭和二十一年／九月二十三日
東京ニ於テ署名

官吏署名欄 イカワ（署名）
K. イカワ

公的資格 内閣書記官

證人 サトウ（署名）
T. サトウ

139

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1133 Doc 2535-A 22

(1183) (29)

一九四一年/昭和十六年/九月之日附

「東京日日新聞」ヨリ抜萃

政府船舶及ビ貨車建造ノ促進ヲ

運輸機関動員

遞信省及ビ鉄道省ガ具体案立案中

[redacted]

昭和十六年度/第四/四半期/輸送動員計画ニ基ヅキ鉄

道省ハ積極的貨車建造ニ乗リ出シ

一方遞信省ハ遞船業組織化ノ為遞船統制會ノ設立

ヲ計画中ナル。

政府ハ九月二日金曜日ノ閣議ニ於キ、時代ノ要求ニ應ジ

陸海輸送ヲ戰時態勢下ニオケル運輸動員計画ヲ

決議シタ。

160

E 1133 P Doc 2535-A 22

(1168) (28)

一九四二年/昭和十六年/九月之日附
「東京日日新聞」ヨリ後華

政府、船舶及ビ貨車建造ノ促進ヲ

運輸機関動員ヲ

遞信省及ビ鉄道省ガ具体案立案中

昭和十六年度/一九四一年/輸送動員計画ニ基ヅキ鉄
道省ハ積極的ニ貨車建造ニ乗リ出シ
一方遞信省ハ遞船業組織化ノ為遞船統制會ヲ設立
スル筈デアル。

政府ハ九月二日金曜日ノ閣議ニ於テ、時代ノ要求ニ應ジ
陸海輸送ノ戰時態勢下ニオケル輸送動員計画ヲ
決議シタ。

No 1

160

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Do 02535A

證　明　書

「ワシントン」文書局第　號
多除檢察部第三号　號A
異稼及び公正に関する證明

余前記署名ハ余が下記ノ資格ニ於テ、即チ内閣書記官トシテ、
某政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ該ニ引用
セラルル閣議記録ノ保管セルコト及ビ茲ニ添付セラレタル
左記題名新聞記事即チ、千九百四十一年／昭和十六年／
九月廿日ノ閣議ニ関スル事実ノ要旨ニ於
テ當該期日ニ於ケル閣議ノ決定ヲ正確ニ表示セルモノナルコトヲ
證明ス

千九百四十六年／昭和二十一年／九月二十二日
東京ニ於テ署名

當該官吏署名欄
右ノ者ノ公的資格
證
人

井川キヨワイケ（署名）
内閣書記官
T. 佐藤（署名）

公式入手ニ関スル證明

余ハ CERTIFICATE 八分ガ聯合国最高指揮官總司令部
ニ関係アルモノナルコト、並ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政
府ノ上記四者名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

千九百四十六年／昭和二十一年／九月二十二日

RICHARD H. SAROI（署名）
多勝檢察部調査官
九
戸口

161

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1134

Doc P-1632 W (67)

30

1124

木戸幸一日記

昭和十六年九月五日分

九月五日（金）晴

午前九時砂田重政氏來訪面談

十時二十五分ヨリ十一時迄拝謁

侍從長來室懇談

一時半中村豊衛局長來室最近ノ治安狀況等ヲ聽ク

四時半首相參內御前會議ノ衆ニツキ奏上ス對米施策ニツキ作戰上ノ御質問等モ數々アリ首相ハ兩總長ノ御召ヲ御願シ尚內大臣トモ相談スベキ旨言上一旦退下ス因ツテ五時ニ奏請ヲ願ヒ右ニ對シ御下問ニ奉答言相ノ奏上ノ通リ兩總長ヲ御召相成度旨奏上ス一旦還下更ニ同十分奏請ノ手續ニツキ御許ヲ得直ニ長ニ傳達セシム

ヒテ奏請御下問ニ奉答ス、御前ヨリ小時會談七時退出ス

162

E 1134
Doc P-1632-W (67)

30
1134

木戸侯爵日記

昭和十六年九月五日分

九月五日（金）晴

午前九時砂田重政氏來訪面談

十時二十五分ヨリ十一時迄拝謁

侍從長來室懇談

一時半中村軍事課局長來室最近ノ治安狀況等ヲ聽ク

四時半首相參內閣前會議ノ衆ニツキ奏上ス對米施策ニツキ作製上ノ御參問等モ段々アリ首相ハ兩總長ノ御召ヲ御願シ尚內大臣トモ相談スベキ旨言上一旦退下ス因ツテ五時ニ拝謁ヲ願ヒ右ニ對シ御下問ニ奉答首相ノ奏上ノ通リ兩總長ヲ御召相成度旨奏上ス

一旦退下更ニ同十分拝謁ノ手續ニツキ御許ヲ得直ニ賞山武官ニヨリ兩總長ニ傳達セシム

六時首相兩總長打揃ヒテ拝謁御下問ニ奉答ス、御前ヲ退下ノ後首相ハ立寄リ小時會談七時退出ス

162

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1135

Doc P1632 W.(68)

(31) 22

木戸侯爵日記

昭和十六年九月六日分

九月六日（土）晴

午前九時半出勤

九時四十分ヨリ九時五十五分迄御召ニヨリ拝謁ス本日ノ御前会議ニテ御質問相成度思召ニテ種々御下問アリタルヲ以テ余トシテハ御質問ノ重要ナル點ハ原首相ニ於テ奏聞スベキ筈ナレバ陛下トシテハ最後ニ今同ノ決定ハ國運ヲ賭シテノ戰爭トモナルベキ重大ナル決定ナレバ統帥部ニ於テモ外交工作ノ成功ヲ齎スベク全國ノ協力ヲナスベシトノ意味ノ御警告ヲ被遊コトガ最モ可然カト奉答ス

十時橋本警保局長來訪治安狀況ヲ聽ク

十時半教育ニ關スル會議アリ出席ス

十一時ト御前會議ニツイテ懇談ス

十一時十分迄拝謁御前會議ノ模様ニツイテ

リヤ云々ノ質問ニ對シ外交工作ヲ主トスルノ趣旨ナル旨奏言セザリシニ對シ最後ニ御質言アリ統帥部ノ答辯セザルヲ遺憾トスト仰セアリ明治天皇ノ御製「四方ノ海」ノ御歌ヲ御引用ニ相成リ外交工作ニ全幅ノ協力ヲナスベキ旨仰セラレタル旨奉ル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1135

Doc P1632 W.(68)

木戸侯爵日記

昭和十六年九月六日分

九月六日（土）晴

午前九時半出勤

九時四十分ヨリ九時五十五分迄御召ニヨリ拝謁ス本日ノ御前会議ニテ御質問相成度思召ニテ種々御下問アリタルヲ以テ余トシテハ御質問ノ意義ナル點ハ原総相ニ於テ質問スベキ筈ナレバ陛下トシテハ最後ニ今回ノ決定ハ國運ヲ賭シテノ戰争トモナルベキ重大ナル決定ナレバ統帥部ニ於テモ外交工作ノ成功ヲ資スベク全幅ノ協力ヲナスベシトノ意味ノ御警告ヲ被遊ト拝答ス

一時十分ヨリ一時三十分迄拝謁御前会議ノ模様ニツキ御話アリ、原議長ノ外交工作ヲ主トスルノ趣旨ナリヤ云々ノ質問ニ對シ海軍大臣ヨリ答弁シ統帥部ハ發言セザリシニ對シ最後ニ御發言アリ統帥部ノ答弁セザルヲ遺憾トスト仰セアリ明治天皇ノ御製「四方ノ海」ノ御歌ヲ御引用ニ相成リ外交工作ニ全幅ノ協力ヲナスベキ旨仰セラレタル旨拝ル

（31）

22

163

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1136A
P2507A-1 22

東條英機ニ對スル訊問ヨリノ抜萃

一九四六年二月二十三日　第一一二、三、五一六頁
「訳一一二頁」

問、天皇ニ對スル大統領ノ最後ノ親書ハ何時日本ニ於テ受領セラレマシタカ。

答、前ニ申上ゲタ通リ、私ハ昭和十六年十二月八日午前一時頃外務大臣カラ電話デソノ親書ノアツタコトノ知ラセヲ受ケマシタ。

問、ソノ親書ハ天皇ニ宛テラレタモノナルニ何故直接ニ天皇ニ上奏セラレナカツタノデスカ。

答、私ハ知リマセン。ソレハ外務省及宮内省ノ問題デアリ、ソレハ國家ニ影響ヲ及ボス事柄デアツタカラ、内閣ニ於イテハ取扱ハレナカツタノデアリマス。

問、大統領ノ親書ニ關シテ外務大臣ニ電話ヲ掛ケタノデスカ。

答、私ガ關係大臣デアリ、外務大臣ヲ通ジテ親書ハ、外務省ニ於イテ處理セラレマス。

問、大統領ノ親書ニ關シテ彼ハ貴方ニ何ト申シマシタカ。

答、外務大臣ハソノ親書ノ來タ事實ヲ私ニ報告シ、ソシテ之ヲ陛下ニ御渡シスル樣リデアルト申シマシタ。私ハ同意致シマシタ。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1136A
P2507A--1

東條英機ニ對スル訊問ヨリノ抜粋

一九四六年二月二十三日　第一一二、三、五一六頁

「第一一二頁」

問、天皇ニ對スル天統領ノ説明ハ何時日本ニ於テ受領セラレマシタカ。

答、前ニ申上ゲタ通リ、私ハ昭和十六年十二月八日午前一時頃外務大臣カラ電話デソノ親書ノアツタコトノ知ラセヲ受ケマシタ。

問、ソノ親書ハ天皇ニ宛テラレタモノナルニ何故直接ニ天皇ニ上奏セラレナカツタノデスカ。

答、私ハ知リマセン。ソレハ外務省及宮内省ノ問題デス。斯カル電報ノ親書ハ、外務大臣ヲ通ジテ來タカモ知レナイガ、内閣ニ於イテハ取扱ハレマセン。何時モ宮内省ニ於イテ處理セラレマス。

問、何故外務大臣ハ貴方ニ電話ヲ掛ケタノデスカ。

答、私ガ國務大臣デアリ、ソレハ國家ニ影響ヲ及ボス事柄デアツタカラ私ニ電話シタノデシタ。

問、大統領ノ親書ニ關シテ彼ハ貴方ニ何ト申シマシタカ。

答、外務大臣ハソノ親書ノ來タ事實ヲ私ニ報告シ、ソシテ之ヲ陛下ニ御渡シスル積リデアルト申シマシタ。私ハ同意致シマシタ。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2507A-2

問、外務大臣ハ何時天皇ニソレヲ渡ス積リデアルト申シマシタカ。

答、直チニソレヲ上奏スルト申シテ居リマシタ。

ソレ故電話ガ済ムト直グ上奏ニ出カケタモノト私ハ思ヒマス。

問、ソノ親書ガ何時天皇ニ渡サレタカ貴方ハ知ツテキマスカ。

答、存ジマセン。先程申上ゲタ通リ、ソレガ私ニ報告セラレタノハ一時頃デアリ、私ハソノ後間モ無クソノ事ガ上奏セラレタモノトノ印象ヲ受ケテ居リマス。

ソノ親電ノ事ヲ知ラサレタ際私ハ何カ譲歩セラレタ點ガアルカト問ヒ訊シマシタ。之ニ對シ大シテ譲歩サレタ所ハナイトノ答デシタ。

問、貴方ハソノ親書ハ眞珠灣攻撃ノ後マデ天皇ニ渡サレナカツタ事ヲ知リマセンカ。

答、全ベテガ風説ニ過ベバ眞珠灣ノ攻撃ハ日本時間ニシテ八日ノ午前三時頃ニナル筈デシタ。

勿論ソレマデニ何等ノ報告モアリマセンデシタ。

然ルニ親書ハ一時頃ニ私ニ知ラサレタノデス。

從ツテソレハソノ直グ後、即チ眞珠灣攻撃ノ以前ニ天皇ニ渡サレタモノト思ツテ居リマス。

× ×

165

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3507A-3

「第三頁」

問、何等ノ警告ナシニ米國ヲ攻撃スルコトニ賛成シタ人々ガアリマセンデシタカ。

答、アリマセンデシタ。然シ、之ハ正シク正當防衛ノ事デアルト思ヒマシタ。

問、ドンナ外交上ノ手續ニ從ハネバナリマセンデシタカ。

答、最後通牒ガ送達サレネバナリマセンデシタ。之ハ正當防衛デアル以上不宣戰條約ニハ拘束サレマセンデシタ。然シ我々ハ出來得ル限リ外交上ノ手續ニ從ヒ手落ナキヲ期スル樣決定シマシタ。

× ×

「第五一六頁」

問、九月六日ノ御前會議ハドンナ目的デ召集サレタノデスカ。

答、ソレハ當時ノ情勢ニ鑑ミドンナ國策ヲ採ルベキカノ問題ヲ決定スル爲ニ召集サレマシタ。

私ノ記憶ニ依レバ、主要問題ハ戰爭カ平和カ、

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2507A-4

又ソノ何レカノ場合ニ於テドンナ態度ヲ執ルベキカトイフコトデアリマシタ。

問、コノ會議ニ於イテ米國トノ交渉ヲ終結シ十月中旬迄ニ打開ヲ見ル樣努力スルコトガ決定サレタノデハアリマセンカ。

答、ハイ、多分左樣ニ思ッテ居リマス。然シ茲ニ資料ヲ持合セテ居リマセンノデ確定的ナコトヲ申上ゲルコトハ困難デアリマス。

問、十月中旬迄ニ打開スルニ至ラナカッタナラバ米國ニ對シ戰爭ヲ開始スベキコトヲモ決定シタノデハアリマセンカ。

答、十月中旬迄ニ打開スル樣ニ計ルコトヲ定メマシタ。戰爭ノ爲ノ決定ハコノ會議デハナサレマセンデシタ。

問、昭和十六年十月十二日又ハソノ頃ノ近衞邸ニ於ケル會合ニハ誰ガ出席シマシタカ。

答、正確ニオ答ヘ出來兼マス。然シ陸軍大臣、海軍大臣、外務大臣ハ確ニ居リマシタ。企畫院總裁ガ出席シテ居ッタカドウカハッキリシマセン。然シ主立ッタ三人ノ出席者ハ今私ガ申上ゲタ三人デアリマシタ。

問、會合ノ目的ハ何デシタカ、又會合デハドンナ事ガ起リマシタカ。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2507A-5

答、私ノ記憶スル所デハソノ会談ノ理由ハ次ノ通リデアッタト思ヒマス。先ヅ夜ノ十月中旬、即チ我々ガ最ニソノ時迄ニ有利ナダ交上ノ打開ヲ計ラス様努力スルコトニ決定シテヰタ時ガ既ニ到来シテ居リマシタ。

近衛公爵ト会談ヲ重ネ又従ノ会見ニ於スル日本ノ申出ハ米國ニ依リ却下セラレテヰタ。國際情勢ハ引続キ一層ノ緊張ヲ示シテ居リマシタ。コノ様ナ情況ニ於テ日本政府トシテハ之ニ對度スル政策ヲモツト決定的ニ決定スルコトガ必要デアリマシタ。コレガ近衛首相ト於ケル会合ノ根本ノ目的デアッタト信ジマス。

問、ソノ会合ニ於テ貴方ト近衛公トハ如何ナル點デ意見ノ相異ガアリマシタカ。

デシタカ。

答、イヽエ、ロ於デハアリマセンデシタ。唯意見ガ相異シタノデス。

問、如何ナル點デ意見ノ相異ガアリマシタカ。

答、私ノ意見ハ次ノ通リデシタ。即チ日本ハ十月中旬迄ニ外交的打開ニ達スル様努力ヲシテ試歩ニ譲歩ヲ重ネテ來タ。然シ他方米國ハ自己ノ地位ヲ些カニテモ動カス事ヲ拒絶シ、何等ノ譲歩ヲ爲サナカッタ。政治的解決ノ到達ニ望ミヲ懸ケタ近衛首相ト大統領ノ会見モ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2507A-6

御下サレタ。ソコデ陸軍大臣トシテ私ノ意見ハ最早外交的打開ノ望ミハ絶対上絶タレテヰナイトイフノデアリ、ソコデ私ハ戦争ノ決定ヲナスベキ時期ガ到來シタト云フノデアツタ、コノ決定ヲ遅ラセバソレ丈、後ニナツテ戦争ヲスルコトガ決定サレタ場合ニ日本ノ立場ハ不利トナツタデアラウ。今ヤ、十月中旬ガ到來シテ居マシタカラ私ハ斯ク考ヘタノデシタ、

169

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東條英機ニ對スル訊問ヨリノ抜粋

一九四六年三月十一日

「第四頁」

E'1137A
P2509A

問、昭和十六年九月六日カラ同年十月中旬迄ノ間ニ
御前會議ガ開メラレタトイフコトハ本當デハ
アリマセンカ

答、前ニ申上ゲタ通リ平和カ戰爭カヲ討議シタアノ
會議ニ於テハ平和ノ準備ト戰爭ノ準備ノ兩方ヲ
討議シタトイフ意味デアリマス。／コノ點ニ付テハ
本人ハソノ相違ナキコトヲ認メ
ル證據ガ出メラレタノハコ
カラ後ノコトデアリマシタ

× ×

× ×

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E'1137A
P2509A

直接共ニ関スル訊問ヨリノ抜粋

一九四六年三月十一日

「第四頁」

問、昭和十六年九月六日カラ同年十月中旬迄ノ間ニ
戦争ノ準備ガ進メラレタトイフコトハ本官デハ
アリマセンカ

答、前ニ申上ゲタ通リ平和カ戦争カヲ討議シタアノ
会議ニ於テハ平和ノ準備ト戦争ノ準備ノ両方ヲ
進メルコトガ決メラレマシタ。／コノ部分ハ誤
人ニ誤解セラレ誤人ハソノ相違ナキコトヲ認メ
タリ／戦争ニ関スル詔勅ガ造メラレタノハコ
ノ決定ガアツテカラ後ノコトデアリマシタ

× × ×

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21.11.12.

Doc 2893

1.

書類第二八九三號

東郷茂徳訊問調書

一九四六年三月二十六日

一頁

問、東條ガ總理大臣ヲシテ居タ間ノコトデアルガ、
南京政府ニ充用サレタト思ハレル三億圓ノ借款
ノ話ヲ記憶シテ居ルカ。

答、戰爭勃發後、一九四二年ノ春頃、南京政府ノ財
政部長ガ借款ノ事ニ關シテ日本ニ來タノヲ記憶
シテヰルガ、額カナ額ハ覺エテ居ナイ。

問、南京政府ニ對スル借款供與ノ金ハ何處カラ得タ
カニツイテ何カ聞イテ居ルカ。

答、其ノ點ハ主トシテ日本ノ大藏大臣ニヨッテ扱ハ
レ、借款ハ日本政府カラノ信用貸ト云フ事デアッ
タト。私ノ記憶スルトコロデハ借款ハ日本銀行
ニ依リ、日本政府ヲ通シテ爲サレル事ニナッテ
居タト。

問、此ノ資金ハ阿片、麻藥ノ財源カラ充當シタモノ
デアッタカモ知レナイト云フ事ニ就テ何カ知ル
所ハナイカ。

答、私ハソレト麻藥或ヒハ阿片トノ關係ニ付イテハ
何モ聞イタ事モ無イシ、何モ知ラナイ。

問、貴方ハ田中隆吉將軍ヲ知ッテヰルカ。

101

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2893

裏面白紙

谷、私ハ田中ヲ知ツテヰル。私カ外務省政米局長デアツタ時、田中ハ同東京ノ参謀デアツタ。ソシテ私ハ局長トシテ「ソ」聯ニ関スル事項ヲ受持ツテ居タノデ田中ガ東京ニ来テ私ヲ訪問シタ時、満洲国ト「ソ」聯トノ国境ヲ画定スル必要ヲ強調シ、田中ハ此ノ意見ニ賛成シタ。其レ以来、田中ハ東京ヘ来ル度ニ、少クトモ一回ハ私ヲ訪問シタ。其ノ後、私ハ外国ヘ大使トシテ行ヰ私カ日本ヘ帰ツテ来タ時、田中ハ兵務局長ニナツテヰタ。私カ外務大臣ニナル前、外務大臣在職中、又外務大臣ノヲ辞シテ後モ田中ハ折々私ヲ訪問シ、或ル時談話ヲシテ意見ガ一致シタ。即チ私カ外務大臣ヲ辞職シタ後ニハ東條ヲ放逐シナケレバナラナイト云フコトニ我々ノ意見カ一致シマシタ。ソシテ戦争終了前、私カ既ニ其ノ目的ニ向ツテ方策ヲ取り始メタ頃、田中ハ私ノ所ニ来テ戦争ヲ終結サセル必要カアル事ヲ語ツタ。之デ私ト田中ノ関係カドンナモノカ大略ヲ述ベタト思フ。

尚、去年ノ九月頃、一九四一年九月六日ノ御前会議ニ就イテ彼ト話シタ事ガアツタカ。

答、去年ノ九月ノ末頃田中カ私ヲ此ノ家ニ訪ネテ来タノハ覚エテヰルガ、色々ノ事ヲ話シ合ツタノデ、当時話シ合ツタ事ノ中ニ九月六日ノ御前会議ノ決定ガ含マレテヰタカドウカハ覚エテ居ナイ。

172

3.

Doc 2893

問、一九四一年ノ九月ニハ貴方ハ外務大臣デハナカツタガ、九月六日ノ御前会議ノ直後、南部印度支那占領ノ為ノ軍ニ関スルアツタ訳デアリマスガ、其ノ際貴方ガ情報ヲ得テ居タト云フコトニ了解シテ宜敷イカ。

答、南部仏領印度支那ヘノ進出ハ七月二日ニ決定サレ、実際ニ実行サレタノハ七月ノ終リテアツタ。ソレ以来、私ハ軍隊ノ動ニ関シテハ知ラサレテ居ナイ。然シ、ハツキリトデハナイガ、田中ガ其ニ関連ニ付イテ私ニ話ツタ事ヲ記憶シテ居ル。復ハ直接其レニ関係シテハ居ナカツタガ、其ノ事ニ付イテ復ハ情報ヲ得テ居タ。復ノ処ニハ其レニ多少共関係ガアツタカラ、ソシテ其レハ、軍隊記ニハ登載ヲ差控ト云フ事デアツタ。シテ相当連絡シテ居ルト云フ事デアツタ。

去年ノ九月ノ田中トノ会談ニ於テ、ハツキリトハ覚エテ居ナイガ、軍隊ノ記載ハ直接ヲ差地トシ相当連絡シテ居タト云フ事ヲ思ヒ出ス。少クトモ其ノ事ニ関シテハソノ様ニ記憶シテ居ル。

問、貴方ハ此ノ情報ヲ田中カラ得タノカ、ソレトモ誰カ他ノ人カラ得タノカ。

答、田中カラ得タモノデアル。

× ×

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1138

Doc P 16321 (1138)

35

本戸部日記

昭和十六年九月十一日分

正午近衛首相ヲ訪ヒ御召ノ結果ヲ聴ク

二時星田外相来訪　昨夜面談ノ結果ヲ報告ス

二時五十五分ヨリ三時四十分迄拝謁ス

四時半出御陪食　来賓治安ノ点等ヲ聴ク

12

174

E 1138

Doc 1632W(69)

1138

35

本戸御使日記

昭和十六年九月十一日分

九月十一日 木曜

午前十時半 [東條陸相井出秘書官 軍務課長佐藤少将来室 軍務局ノ結果ヲ聴ク]

每ニッキ調査ノ結果ヲ聴ク

正午近衛首相ヨリ招メ数官随伴ニ御昼食被仰付候

扈ス

二時豊田外相拝謁 兵役面歓軍米支ノ概況

ナリ

二時五十五分ヨリ三時四十分迄拝謁ス

四時半山崎警保局長来訪治安ノ状況等ヲ聴ク

172

174

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

22　E 1139　Doc p! 457B

(暗 28093　28095-6　28102)

[redacted]

昭和十六年九月十一日後 華府発
九月十二日夜 本省着 (機)
野村大使発

極秘 館長符號

豊田外務大臣 電報写

大臣

最近交渉ノ難点ハ累次ノ往電
支日本軍撤兵及防共駐兵
ノ問題ニシテ米国側トシテハ既ニ此ノ点ニ関スル我方ト
南京政府トノ協定條件ヲ承認スルコトハ国内ノ
輿論ハ勿論支那側ニ対スル義理合ヨリシテモ賛
成シ得サル立場ニ在リト思ハル 依テ六月廿一日ノ
米提案ニハ日支間テ新ニ協定セラルヘキ取極ニ従
ヒ成ルヘク速ニ撤兵スヘシトノ趣旨ヲ記載シオリ最
近ニ於テハ更ニ態度ヲ硬化シ平和克復後二年以
内ニ於ケル完全ナル撤兵ヲ口ニスルニ至レル次第
(右硬化ノ原因トシテハ支那側トノ話合ノ結果モアル
ヘシト思ハル)ニテ今回ノ帝国政府案ニ対シテモ米

西米利加局長　東亜局長

No1

175

Doc.1457B
2809
2805-6
2810

昭和十六年九月十二日 接 華府 (後)
九月十二日 後本省着 (機)
野村大使発

極秘 館長符號

豊田外務大臣 電報第

大臣
次官 イキ 電報ヲ入ル二号

今次日米交調整交渉ノ難局ヲ打開シ
二依リ御熟知ノ通在支日本軍撤兵及防共駐兵
問題ニシテ米側トシテハ飽ク迄モ南京政府トノ協定條件ヲ承認スルコトハ勿論
奨論勿論支那側ニ対スル義理合ヨリシテモ賛
成シ得サル立場ニ在リト思ハル 依テ六月廿一日ノ
米提案ニハ日支間ニ新ニ協定セラルヘキ取極ニ従
ヒ成ルヘク速ニ撤兵スヘシトノ趣旨ヲ記載シオリ最
近ニ於テハ更ニ態度ヲ硬化シ平和克復後二年以
内ニ於ケル完全ナル撤兵ヲ口ニスルニ至レル次第
No.1 (右硬化ノ原因トシテハ支那側トノ話合ノ結果モアル
ヘシト思ハル) 二テ今回帝国政府ニ対シテモ米

175

めくれず
裏面白紙
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

DOC 1457B

No 2

側トシテハ他ノ点ニ付大ナル難色ヲ示メササル様
感セラルモ撤兵ノ点ニ付テハ強硬ナル反対ヲ有シ
居ル様見ラレ結局撤兵問題ニカラマリテ本件
交渉ヲ最後ノ暗礁ニ乗リ上クル公算大ナリ
ト観測ス

之カ打開策トシテハ大体米側希望ノ線ニ沿ヒ駐
兵ニ関ルコトナク平和克復後二年内ニ撤兵スル
案ニ折合方政府ノ御勘考相煩度ク右ハ昨日本
使ヲ未訪セルニ対シ本事項ニ関シ説明
ヲ留保シ置キタル経緯モアリ交渉上本使トシテ至
急我方最後ノ腹ヲ御決定方ヲ願ニ及ノ次第也
本来撤兵問題ハ日支間ノ問題ニシテ唯米ヨリハ橋渡シ
ノ義理合上之ヲ云々シ得ル次第ナルカ帝国政府ニ於
テ本案御採択相成ル結果交渉進捗スル場合両首
脳部ノ会見ヨリ細目協定ノ成立ヲ待テ日支休戦講
和会議ノ段取ニ至ル迄ニハ勿論相当ノ時日ヲ要スヘ
ク或ハ一年以上ニ亘ルコトモアリ得ヘシ従テ今日ニ
於テ仮令今後二年以内ノ撤兵ヲ約束スルトスルモ

126

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

No 3

Doc 1457B

其ノ間ニ於ケル国際情勢ノ変転及現地事態ノ推移ニ鑑ミ新ニ二日又ハ二日ニ駐兵期間延長ニ関スル話合ヲ為シ得ベク又ハ居留民ノ生命財産保護ノ為ニ居据リ得ベク本件ニ関シ米国政府ニ於テモ思考シ得サル次第ナルモ内閣トシテハ真ニ六ケ敷キ問題ナルコト推察ニ余リアルカ至急何分ノ御回訓ヲ得度ク切望ニ堪ヘス

尚本件ニ関シ防共駐兵ニ関スル一項ヲ削除サル（キ新ニ安寧ニ有害ナル行動ヲ防止スル為ノ事ヲ以テ）ニ関シ一項ヲ存置スルモ可ナルヘシ

尚本件ヲ発表ニ当リテハ日本新聞ハ日米協定近キニ在リヤノ楽観的放送ヲ為シオル為メ撤兵問題等困難ナル問題モアリ過早ノ楽観説ハ宜シカラサルノ旨ヲ以テ「ハル」自身新聞会見ニテ右楽観放送ヲ否定シ居ル実状ニ付新聞方面指導方御配慮願ヒタシ（了）

177

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc. P 1457 B

E 1139

証明書

国際検察部　第一四五七号

余、杯醤八余ガ下記ノ資格ニ於テ、日本政府ト公的関係ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ余ガ茲ニ添附セラレタル、八頁ヨリ成ル、千九百四一年/昭和十六年/九月十二日附、千九百四一年九月十一日ノ電報ニ日本軍ノ支那撤兵ハ日米和平交渉ノ最後ノ暗礁トナルベシ」ノ文書ノ保管ニ任ジ居ルコトヲ茲ニ証明ス。

（署名）

（署名スベシ）

日本外務省

千九百四十六年/昭和二十一年/十一月一日

東京ニ於テ署名

署名官吏ノ氏名欄

右ノ者ノ公的資格

証

林　譽（署名）

外務書記官

尾戸長春（署名）

公式ノ手ニ関スル証明

余、エリック・アリー・フライレヤー少尉ハ、千九百三五年/昭和十年/十一月一日ヨリ千九百四十六年/昭和二十一年/十一月一日ニ至ル迄、米国陸軍ノ将校ニシテ、現ニ国際検察部ニ勤務スル者ナルコト、並ニ上記署名ノ上ニ記載セラレタル氏名ハ、右ノ者ノ公的資格ニ於ケル署名ノ真正ナルモノナルコトヲ茲ニ証明ス。

千九百四十六年/昭和二十一年/十一月一日

東京ニ於テ署名

右ノ者ノ氏名欄

証

エリック・アリー・フライレヤー

米国陸軍大尉

国際検察部調査官

ウイリアム・レー・プラウト

178

E 1139

Doc. P 1457 B

「ウレントン」文書局
國際檢察部

證明書

第一四五七B號

英語及ビ仏語ニ関スル證明

余、杯醫ハ余カ下記ノ肩書ニ於テ、且ツ下記ノ地位ニ在ルモノナルコト、並ニ該官吏トシテ、日本政府ト公的関係ニアル間、余カ茲ニ添附セラレタル、八頁ヨリ成ル、千九百四一年一月ヨリ昭和十六年九月十三日附、下記題名、即チ野村大使発重立田大臣宛千九百四一年九月十一日ノ電報「日本軍ノ支那撤兵ハ日米和平交渉ノ最後ノ暗礁トナルベシ」ノ文書ノ保管ニ任ゼラルルコトヲ茲ニ證明ス。

余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書カ日本政府ノ公式文書類及ビ綴ノ一部ナルコトヲ證明ス。（若シアラバ綴番號又ハ引用、其ノ他公式書類又ハ綴ニ於ケル該文書ノ正規所在ノ公式名称ヲモ特記スベシ）

日本外務省

千九百四十六年／昭和二十一年／十一月一日

東京ニ於テ署名

林　譽（署名）
外務省文書課長

尾戸長春（署名）

右ノ者ノ公的資格ヲ證明ス

公式又ハ司法ニ関スル證明

余、エリック・ダブリュー・ファイルヤー少尉ハ、千九百四十五年／昭和二十年／十一月一日、東京ニ於テ、余カ聯合國最高指揮官總司令部ニ関係アル間ニ、日本政府ノ上記題名ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコト、並ニ上記題名ノ上記書ハ余カ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス。

千九百四十六年／昭和二十一年／十一月一日

東京ニ於テ署名

氏名　エリック・ダブリュー・ファイルヤー
右ノ者ノ公的資格　米國陸軍少尉　極東軍司令部情報部
國際檢察部調査官
ウイリアム・シー・プラウト

178

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E1140

P2536-A

東京日日新聞
昭和十六年（一九四一年）九月十三日　土曜日

國民皆勤勞態勢愈々緒に就く

閣議決定

全閣僚の閣議に於て昭和十六年度勞務動員實施計畫決定

國民皆勤勞態勢確立の準備的措置として昭和十六年度國民勞務動員增強計畫案が九月十二日の定例閣議に附議決定されたことは既報の如くであるが、同立案に當つては、從來ニヽテ、サヽニ關係省と共同立案、成るべく、計畫の重要性に鑑み閣議列席の各大臣と企畫院總裁鈴木貴一陸軍中將に對し忌憚なき質問、矢つ向ケタリ、同總裁は彼等の質疑に對し忘對策の基き軍需物資增産計畫の本計畫は國民皆勤勞態勢設定の為の具體的措置である旨ニヽテ、

1148

1178

E1140 P2536-A (3) 1148

東京日日新聞
昭和十六年(一九四一年)九月十二日 土曜日

國民皆勤勞態勢愈々緊ニ就テ

閣議決定

金曜日閣議ニ於テ昭和十六年度勞務動員實施計畫決ル

國民皆勤勞態勢確立ノ準備的措置トシテ昭和十六年度國民勞務動員實施計畫ガ九月十二日定例閣議ニ附議決定セラレタ。

本計畫ハ企畫院及厚生省ノ共同立案ニ成ルモノニシテ、サキニ閣議ニ於テ決定セラレタ勞務緊急對策ニ基キ軍需物資增産ノ爲ニ要員充足ノ確保ヲ目的トスルモノデアル。

計畫ノ重要性ニ鑑ミ閣議列席ノ各大臣ハ企畫院總裁鈴木負一國務大臣ニ對シ忌憚ナキ質問ヲ向ケタルガ、同總裁ハ夫々之ニ答辯シ計畫ニ付キ說明スルトコロアリタリ。

本計畫ハ國民皆勤勞態勢設定ノ爲ノ具體的措置ヲ含ムモノデアル。

179

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2536-A

國際檢察部　證明書

第二五三六號A

供據及び公正に関し、余の下記資格に於て即ち内閣書記官として日本政府と公的関係に在りたること並に別紙閣議記録の保管せられ居ること及び茲に添附せられる左記題名新聞記事、即ち千九百四十六年一月十一日昭和二十一年一月十一日の閣議に関する東京日日新聞の記事が其の当該期日に於ける閣議の決定を正確に表示せることを証明する。

千九百四十六年一月十一日昭和二十一年一月十一日

東京に於て署名

千川・ケー
内閣書記官
佐藤・テイ

當該官吏署名欄

右の者の公的資格

證人

公式入手に関る證明

余リチャード・エイチ・ニーシュは、余の勝令國最高指揮官総司令部に関係せざること、並に上記題名、文書は、余が日本政府より入手したるものなることを茲に證明する。

千九百四十六年一月十一日昭和二十一年一月十一日

東京に於て署名

リチャード・エイチ・ニーシュ
國際檢察部調査官
少佐

氏名欄

右の者の公的資格

證人

2

180

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1141
P
Doc 1632
1
1
(34)
(11)

木戸侯爵日記

昭和十六年九月二十六日分

九時山下亀三郎氏来訪面談

二十分ヨリ十一時五分迄拝謁

十一時宇垣武官長来室内閣ニ関スル軍ノ見解ヲ聴ク

三時高松宮邸ニ伺候殿下ニ拝謁先般御申付ノ秩父宮ニ重要国策等ヲ言上云々ノ件　殿下ノ思召天宮様其他ノ意向中御主治医ノ見解等ヲ以テ判断スルニ未ダ其ノ時期ニアラズ寧ラ御静養ヲ要ストノコトナル故更ニ御ノ方面ヨリノ言上ハ今暫ク差控ヘルコトトシ只高松宮御見舞ヒ被遊場合ニハ　殿下ノ思召ヲ体シ適宜言上ヲ願フコトトシタク右ハ　陛下ノ御許ヲモ得タル旨言上御承諾ヲ得タリ

更ニ表玄ニ廻リ祈禱御前ヲ退下シタ

77
181
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1141
P
Doc 1632 W (71)
1
(84)
(1141)

木戸侯爵日記

昭和十六年九月二十六日分

九月二十六日（金）

午前九時山下徳三郎氏来訪面談
十時二十分ヨリ十一時五分迄拝謁
十一時十分ヨリ武官長来室閣内問題ニ関スル軍ノ見解ヲ聴ク
三時高松宮邸ニ伺候殿下ニ拝謁先般御申付ノ秩父宮ニ奉呈ノ御菓等ヲ言上云々ノ件　殿下ノ思召又宮様其他ノ意向申御主治医ノ見解等ヲ以テ領収スルニ決ス其ノ時期ニアラズ等ヲ御報奏ヲ要ストノコトナル故其旨ノ方面ヨリノ言上ハ今暫ク差控ヘルコトトシ只高松宮御見舞ヒ被遊場合ニハ殿下ノ思召ヲ体シ適宜言上ヲ願フコトトシタク右ハ陛下ノ御許ヲモ得タル旨言上御承諾ヲ得タリ
更ニ次官ニ被対ニ勝リ所用御前ヲ退下シタ

裏面白紙
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. Doc 1632 W(71)

ル、近衛首相ト西時ヨリ五時十五分頃
迄懇談ス、軍部ニ於テ十月十五日ヲ
期シ是ガ手デモ以テ開戦ト云フコト
ナレバ自分ニハ自信ナク退陣ヲ考フ
ル外ナシト苦衷ヲ述ベラレシ後切ニ
慎重ナル考慮ヲ希望ス

182

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc P1632W(72)

(41)
三
1142

木戸長官日記

昭和十六年九月二十九日分

九月二十九日（一月）雨

午前九時半有松寺邸ヲ起キ松本博御命日ニツキ
讀經ヲ爲ス
十時過出勤今村別當來室高松宮ニ昨上ノ件ヲ傳フ
「十時五十五分ヨリ十一時三十五分迄拜謁」
高松宮ヨリ御話ノ件ニツキ拜受色和歌下ニ御話ア
リ
右謁室方御下命アリ依ツテ秘室百武ヨリ企劃院總
裁ニ連絡ス
十一時四十分武官長來室總長陣ニツキ連絡アリ
タリ
一時半富本伯來訪獨ヲ勸メ置キタル妻子ノ件ヲ話
リニ來ラレタルナリ
二時半原嘉道氏來訪獨一日米國交調整不調ニ終リ重大
決意ヲ爲サザルベカラザルニ至リタル場合ニハ從

1.

J2
183

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

木戸侯爵日記

昭和十六年九月二十九日分

九月二十九日（八月）雨

午前九時半宮内省ヲ訪ヒ拝謁ヲ願ヒ置キ拝謁御命日ニツキ
謹賀ヲ陳ス
十時過出勤今村別當奈良宮内大臣室高松宮ニ昨上ノ件ヲ傳フ
「十時五十五分ヨリ十一時三十五分迄拝謁」
高松宮ヨリ御話ノ件ニツキ拝父宮ヨリ御話アリタル旨御話アリタリ
「米國ノゴム保有量並ニ中南米ニ於ケル生産高及、
錫ノ保有量並ニ米國ガ獲得シ得ル量竝
右調査方御下命アリ依ツテ秘書官ヨリ企劃院總
裁ニ通告ス」
十一時四十分武官長奈良宮内大臣室ニ於ケル御話アリ
タリ
一時半満本首相来訪豫テ勧メ置キタル養子ノ件ヲ旨
リニ依ラレタルナリ
二時半原嘉道氏来訪ス一日米國交調整不調ニ終リ重大
決意ヲ爲サヾルベカラザルニ至リタル場合ニハ從

Doc P 1632W (72)

1.

123

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Dec 1632 W(72)

来ノ如キ形式的ノ御前会議デナク重臣等ヲモ加ヘ
真ニ意見ノ開陳ヲ主トスル会ヒラルノ具アルベ
ク考慮セラレタシトノコトナリシ旨重光ヨリ約

[ス]

三時半廣田大臣来室荒山行幸ニ関スル件ヲ申
シ置キ外交々渉ノ経過ニ関シ今暫ク御待ヲ願フ旨答
置ス外相参内奉謁後五時半ヨリ六時半頃迄懇談ス
七時山口参与官来部面談

184

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(42) II
298

Ex. 1143
Doc P/1632 W(75)
Ex 1143

21-11-12
ｱﾒ 11

木戸侯爵日記

昭和十六年十月七日分

十月七日（火）

晴曇　午後十時曇

十一時宮相來室洪宮様御婚礼ノ日ニツキ話アリタリ

十一時三十分ヨリ十二時十五分迄拝謁

十二時半平村憲衛局長來室時局情勢ヲ聴ク

十二時四十分富田書記官長來訪對米交渉ニツキ左ノ如ク話アリタリ

米國ノ態度ニツキ陸軍ハ一歩モ譲ラズトシテ交渉難航ヲ希望スル而ガ海軍ハ見込アリトシテ強硬決意ヲ異望シ政局ヲ指導セラレタシト要望ス先ツ首相ハ強硬意見ヲ有スル陸相ト充分意見ヲ交換シタル後陸海外ノ三相ヲ招キ自己ノ決意ヲ披瀝シ協力ヲ求ムル筈ナリ

一時秋山厨司長一時半下國佐吉氏來訪面談

三時半ヨリ四時十五分迄拝謁

185

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1149
Doc P2593D (4)
Item 5

(43)
1144

1.

[redacted]

発信　ワシントン（野村）
受信　東京

一九四一年十月八日
第九〇七號　（四ノ一部）　極秘
（政府暗號ニテ現地ノコト、當該官憲ニ移電）
當電六三七號Bニ關シ

本件ニ就テハ我國ニ於ケル最高當局ノ意向ハ左ノ通ナリ、ソシ。從シ現下ニ於ケル米國政府ノ態度ニ鑑ミレバ米國ハソノ國軍ノ(一)一日モ速カニ支那ノ全領土ヨリ撤兵スルコトヲ確約スルニ於テ一致スルアルコトヲ認識シ居ラス從テ我方ニ於テモ右撤兵ニ關シ期限ヲ附スルノ考慮ヲ拂フノ要ナシト認メラルルニ付、貴官ハ本件ニ關シ米國當局ト會見ノ際ニ於テハ我方ニ於テ一般的ニ撤兵ヲ約束スル意嚮ナキ旨ヲ明確ニサレンコトヲ望ム。

ベキコトヲ信ジ居ル次第ナリ。

閣屢〻於ノ場メコレ迄屢〻ヲ若干ニ於テ根本的ニ檢討サレタル上ニ於テ一致點ヲ發見スル必要アルモノト考ヘ居レリ。米國ハ兩國ノ指導者間ニ於テ交渉ガ速カニ妥結スルナラバ前述ノ四原則ヲ太平洋ノ廣キ地域ニ適用スルコトヲ約束スル用意アルコトヲ確ニ聰明シ且見解ヲ異ニスル點ニ關シ互ニ理解ヲ增進スル爲メニサレンコトヲ希望ス。

186

E 1144
D.S.P.2593D (4)
Item 5

1.

発信　ワシントン（野村吉三郎）
受信　東京

一九四一年十月八日
第九〇七號　（四ノ一部）A
（政府暗號ニテ至急ノコト、省務宮ハ参謀）
至電六三七號ヨニ關シ

本件ニ就テハ米國ノ最高當局ト會見後更ニ通報スベシ。然シ現下ニ於ケル余ノ見解ハ左ノ通ナリ、

(一)一日措米國政府ノ発言ニ依レバ米國ハソノ國策ヲ變更スル話原則並ニ本質ニ就テ一致點アルコトヲ認メシ居レリ。然シ貴下ガ言ハレシ如ク、方法ニ關シ詳細ノ点ニ亙リ討議ノ必要ヲ示セザリシ理由ヲ以テ從來ハ不十分ヲ感ジ居レリ。米國政府ハ四ツノ原則ヲ基礎ニ兩國關係ヲ調整スベキコトヲ信ジ居ル次第ナリ。尚日本政府ハ太平洋問題解決ノ爲メコレ迄屢〻西欧ニ於ケル非公式會談ニ於テ根本的ニ兩國ニ關テ一致點ヲ見出ス必要アルモノトシ考ヘ見レリ。米國ハ兩國ノ指導者間ニ於テ交渉ガ遠隔實施スルナラバ前述ノ四原則ヲ太平洋ノ兵事的問題ニ適用スルコトヲ的確ニ理解シ且見解ヲ互ニ明瞭ニサレン事ヲ望ム旨ヲ述ベ來レリ。

186

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 2593 D (4)
Item 5

A、四ノ三部ハS、I、S、第二三二九三號参照
B、SIS第二三一一八號ニ於テ外相豊田ハ野村大使ニ對シ米政府ニ警告スベキ旨ヲ訓令シ置キタル旨ヲ電報シ來レリ

暗號 ワシントン（野村）
受信 東京
一九四一年十月八日
第九〇七號（四ノ三部）A

（政府連絡ニテ攻撃ノコト）

前述ノ事實及是迄米國政府トノ接觸ニヨリ得タ余ノ印象カラ判斷スレバ米國ハ今迄兩國ガ直面シ待ナカツタ根本問題ニ就テ先ヅ合衆國ヲ最見シ、ソレヨリ逐次他ノ問題ニ就テモ考ヘ居レリ。米國政府ハ前述ノ點ニ關シ一致ヲ見ザル限リ他ノ諸問題ヲ討議スルハ無益ナリト痛感シ居ル次第ナリ。故ニ現在マデ米國ハ六月十一日ノ吾ガ提案中ニ述ベタ他ノ問題ニ就テ自己ノ意見ヲ表示スル以外ハ何等ノ示唆ナカリキ。（次下ニ討スル發電ノ通リ是迄ノ經緯ニ鑑ミ十分ノ覺悟ヲ要スルモノアリタリ）

187

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3.

Doc 2593D (4)
Item 5

六月二十一日附米国政府ノ提案ニハ米国ハ支那
若ハトシテ右提案ヲ同様ニ
米国政府ハ近ノ両案ニ
我ヲ全々無視シ居レリ。
ル通念ヲ同ジスルコトヲ
々ハ尚左記基本点ニ
記

(A) 支那ニ
(B) 蒋介石政府ニ
(C) 支那ニ

(日支條約) 此
記載セル共同
貿易ニ関スル

二三二九三

A、二ノ一部ハ取得不能

一九四二年十月十日

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 2593 cont.

極密　陸軍省

陸軍省參謀本部

情　報　局

一九四六年七月二十四日

左ノ通り證明ス。御チ、

予ハ茲ニ左ノ通り證明ス。御チ、
添附致通ノ日本文電報ノ複寫寫眞ハ陸海軍兩省ノ熟
練セル職員ニ依リ電氣的或ハ物理的方法ニ依ツテ傍
受サレ、解讀セラレ飜譯セラレシモノニシテ
予ノ知リ且信ズル限リ正確ニ日本文字ヲ飜譯スル爲
メ西洋人ニトリ人力ノ可能ナル限度ニ於テ正確且ツ
典據ノアルモノナリ。

參謀本部付大佐
CARLTON W. CLARKE
カールトン・ダブリウー・クラーク

189

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

E ハセヒ
Doc P15 I

22

ワシントン（野村）より
東京へ
一九四一年（昭和十六年）十月八日
九〇七号（四ノ二部）

（政府暗号ニ依リ處理サルヘキモノ。有秘）

[redacted]

狩猟ニクルノミナラス前
保證ヲ極力削減セリ。武力
ハ、我等ハ言ヲ曖昧ニ附シ置キタリ。
差別待遇原則ノ適用地域
ニ我ニ近接セルヲ口実トシテ、我等ハ右原則
ニヨリ、中國ニ於ケル駐兵並
ニ関スル問題ニオイテハ米國側
我等ハ主義ニ於テ之ニ反対
ニ対スル我方ノ態度ヲ一層明
等ノ点ハ多分既ニ御承知ナラン。

軍二三三二〇

（前略）
ノ兵ニ対シ我方ガ態度ヲ引
日ノ我方申出並ニ右ニ関スル説明
懇談ニテ討議シタル處ヲ制限且ツ
述ノ諸原則ニ関シ我等ガ與ヘタル
武力侵略ハ行ハストノ保證ニ関シ
太平洋ニ於ケル無
ノ地理的
ソノヲ制限
（佛領印支那ヲ含ム）
為シツツアルモ
尚ホ彼等ハ三國條約
確ニサレ度キ旨求メアリ。是

譯 四一一〇一一〇（二）

190

秘

E ハバナ
Doc P15 I

22

ワシントン（野村）より
東京へ
一九四一年（昭和十六年）十月八日
九・七午（四ノ二部）

（政高暗号ニ依リ處理サル可キコト。有秋）

斯ル次第ニテ彼等ノ妄ニ対シ我方ガ態度ヲ明ニセンコトヲ希望シアリ、六日ノ会談ニテ、我方申出並ニ右ニ関スル説明ニ於テハ只々非公式會談ニテ討議シタル處ヲ制限ヨリ狹義ニ亘ルノミナラズ前述ノ諸原則ニ関シ我等ガ與ヘタル保證ヲ極力削減セリ。武力侵略ハ行ハストノ保證ニ関シテハ我等ハ言ヲ賭味ニ附シ置キタリ。太平洋ニ於ケル無差別待遇原則ノ適用地域ヲ局限シ且ツ中國ガ地理的ニ我ニ近接セルヲ口実トシテ、我等ノ右原則ソノモノヲ制限シタリ。中國ニ於ケル駐兵並ニ撤兵（佛領印支ノ分ヲ含ム）ニ関スル問題ニ付テハ米國側ハ若干ノ要求ヲ爲シツツアルモ我等ハ正義ニ於テ之ニ反対セリ。尚ホ彼等ハ三國條約ニ対スル我方ノ態度ヲ一層明確ニサレ度キ旨求メタリ。是等ノ点ハ多分統一帥承知セラン。

（暗譯 四一一〇一一〇（二））

190

裏面白紙

Doc 151

極秘

華盛頓（野村）発
一九四一年（昭和十六年）十月八日
第九〇〇号　（甲ノ部第四部）

東京宛

貴電オ六三四号中言及ノ會談中、(2)ニ於テ言及セル四原則ニ関シ、米國ト便ハ本件ニ付本便ニ於テ既ニ二ハル長官ト間ニ了解ニ達セル如ク語リ居ラレ、尚次ノ電報ニテ申上ゲル通リ、先方ノ文字上ニ於テモ極メテ神上ニ於テモ、右問題ヲ本問ニ附セムトシテ、四月十六日石四問題ヲ二ハル長官ヨリ提示セラルルニ往電オニ六号参照ニ、勿論本國政府ヨリノ訓令ヲ俟タズシテ斯カル提案ヲ受話スベキ立場ニアラズ又我方ニテ受話ノ可能性アルカ如キ印象ヲ先方ニ与ヘタルコトモ無之、此ノ点即諭承相成度。サリトテ右ハ極メテ抽象的原則ニシテ其ノ適用ニ付テハ幾多ノ難アルベキト思惟ス。當國ニ於テハ他ノ諸外國ニ之ガ適用ニ際シテハ、種種ニシテ例ヘバ、平和會議ニ於ケル原則論ノ極メテ迂遠ナル如キ場合アリ、本件ニ関シテハ即應必要ナキヤト思惟セラル。

陸軍第二三二一号

四一年十月十日澤（2）

2

191

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Dec 2573 D (5)
Item 6

17

秘

発信　東京（堀田）
至ワシントン　発信　ワシントン

一九四一年／昭和十六年十月十六日

業（A）（O）

第六七一號

本官ハ東京駐在英國及伊太利両大使ヨリ日米交渉ニ關シ内報ヲ與ヘルベク依頼サレタルモ対交渉ノ性質ニ鑑ミ拒絶シ來リタリ。

然ルニ本月早々閣議ノ米商船攻撃及其ノ結果ニ因ル中立法改訂運動ノ（復活）？ニ伴ヒ陸海軍當局ハ日本政府カ米國政府ニ對シ若シ、ルースベルト政權ガ相當ラズ枢軸國家ニ對シ攻撃ヲ增大スルニ至レバ一方ハ獨伊、他方ハ合衆國ノ海軍勢力ガ必然起ルベシトノ日本側ノ意見ヲ指摘スルヤウ要求セリ。如上ノ理由ヲ以テ三ケ國條約ニ含マルル責務ヲ履行スルコトトナリ日本ヲシテ合衆國ヲ對ニ枢軸ス戦争ニ參加ニ導クヤモシレズトノ懸念ヲ表明スルヤウ要求シ來レリ。

從々ハ日米交渉ニ關ミ適切ナル時期ト適當ノ文句ヲ、ン心ニ檢討スル必要ヲ認メル旨米ダ通報ヲ發シ居ラズ

極秘

192

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 25738(5)
Item 6

領事官ハ最近ノ同一会社ニ関スル同様ノ事件ヲ提出シ、此事件ヲ是以上延引スルコトノ困難ナル理由ヲ説明セリ。

日本ハ一方領事ト相談ノ上ニ回答ヲ為スヘキ旨ヲ述ヘタル筈ニ付キ回答ヲ発セネバナラス必要ニ迫ラレ、同時ニ他方日米交渉ヲ成功セシメラレンコトヲ念願シテヰル。

ノ如キ文句ヲ含ム書翰ヲ発シ別電第六七二号記載ナル時間ニ会談ニ於テ之ヲ提出セラレタキ旨申入ヘシ。

此通信ハ英訳ニ於テ送ラレタシ。

イ・S・I・S第二三五七一号（日本帝国政府ヨリ米国政府宛英文ノ電報ニ関スルノコト

一九四一年十月十七日解読（七）

陸軍二三六三一　発信

193

裏面白紙

Doc 2593 cert.

機密　陸軍省
ワシントン二在、P.C.
陸軍省参謀本部
情報
局

一九四六年七月二十四日

予ハ茲ニ左ノ通リ證明ス。卽チ、
添附數通ノ日本文電報ノ複寫寫眞ハ陸海軍兩省ノ熟練セル職員ニ依リ實際的方法ニ依ツテ傍受サレ、解讀セラレシモノニシテ予ノ知リ且信ズル限リ正確ニ日本文字ヲ飜譯スル爲メ西洋人ニトリ人力ノ可能ナル限度ニ於テ正確且ツ典據ノアルモノナリ。

参謀本部付大佐
CARTER. W. CLARKE
カーター・ダヴリュー・クラーク

194

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1.

E 1146

Doc P1632 W (76)

(1146)

(95)

木戸侯爵日記

昭和十六年十月九日分

十月九日 木曜

午前十時十分ヨリ同三十分迄拜謁

十時半近衛公参内拜謁後面談日米國交調整ニツキ妥結ノ見込容易ニ付カズ首相モ大ニ心配シ居ラレシ故余ハ大綱左ノ如キ意見ヲ述ベ参考ニ資ス

一、九月六日ノ御前會議ノ決定ハ余ヨリ見レバ議ヲ盡サザルモノアルヤニ [illegible] リ判斷スルニ對米英ノ結論 [illegible] ク再檢討ヲ要スルモノト思フ

一、政府ハ此ノ際直ニ對米開戰ヲ決意スルコトナク

一、寧ロ支那事變ノ完遂ヲ第一義トスルコトヲ闡明シ

一、米國ノ經濟壓迫ヲ顧慮スルコトナク我國ハ自主的立場ヲ堅持シ

一、十年乃至十五年ノ臥薪嘗膽ヲ國民ニ宣明シ高度國防國家ノ確立國力ノ培養ニ專念努力スルコト

22

E 1146
Doc P1632W(-76)
1146
1146

1

木戸侯爵日記

昭和十六年十月九日分

十月九日 木曜

午前十時十分ヨリ同三十分迄拝謁

十時半近衛公参内、拝謁後直ニ御召ニ依リ内閣総理大臣ト共ニ参内シ、日米関係ニ付カズ首相モ大ニ心配シ居ラレシ故余ハ大体左ノ如キ意見ヲ述ベ参考ニ資ス

一、九月六日ノ御前会議ノ決定ハ余ヨリ見レバ駐カ居突ニシテ議ノ熟セザルモノアルヤニ思ハル

一、内外ノ情勢ヨリ判断スルニ対米国ノ結局ハ容易ニ避ケ難シ又ク長期ヲ要スルモノト思フ

一、政府ハ此ノ際直ニ対米開戦ノ決意スルコトナク

一、零ロ天皇ノ完全ヲ期一致トスルコトヲ期スシ

一、木国ノ態度ハ飽迄ヲ独立スルコトナク我国ハ自主的立場ヲ堅持シ

一、十年乃至十五年ノ臥薪嘗胆ヲ国民ニ宣明シ高度国防国家ノ確立ニ力ノ培養ニ専念努力スルコト

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2.

Doc 1632 W(76)

(一)支那ノ安定ハ日ノ為ニハ正ニ必要ノ事ニシテ日本ハ支那ニ於ケル一切ノ権益ヲ放棄スルモ支那ノ安定ヲ望ムモノデアル、然ルニ重慶ノ抗戦ハ之ヲ支那ニ与フル事ニナルノデ重慶ノ抗戦能力ハ之ヲ支那ニ与フル事ニナルノデ重慶ノ抗戦能力ハ昆明等ノ作戦ヲ断行シ重慶ノ抗戦能力、資カラ以テ帝次スルコトヲ決意スルコト

一時半帝国八島氏来訪豊内閣総辞職ヲ報ニツキ懇談ス

三時半頃参宮ニ伺候最下ニ御宮参ニ拝謁勅許ノ御礼言上ス

五時半宮田書記官長来島政局ニ関シ懇談ス

七時近衛前相来訪豊内閣ニツキ懇談ス

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E 1147

Doc 1632W (77)

(1147)

(46)

1.

木戸侯爵日記

昭和十六年十月十二日分

十月十二日（日）晴

午前九時宗像氏来訪面談

十時小山完吾氏来邸近時ノ政局ヲ語リ近衛公ノ一段ノ努力ヲ要望セラル

四時半加藤少将来邸憲兵司令部ヨリ見タル政治情勢ノ話アリタリ

夜倉富氏ノ来訪ヲ受ク

富田書記官長来邸大要左ノ如キ話アリタリ

本日荻窪首相邸ニ於テ陸海外三相及企画院総裁会議シ日米国交調整問題ニツキ協議

陸相ハ日米交渉ノ成立ハ見込ナシトシテ重大決意ヲ要望ス但シ成立ニ確信アリトノ納得シ得ル説明ヲ聞クヲ得バ勿論戦争ヲ好ムモノニアラズ

海相ハ戦争ハ出来得ル丈避クベキモノトス

今日我国ハ二路ノ関頭ニ立テルモノニシテ外交ニヨル打開カ戦争カソノ何レカナリト思ハル、外交ヲ以テ打開セントセバ之ニ徹底スルヲ要シ

22

197

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

E11P9
D.C.P.L.33W(77)
11ヶ2

（十月十一日ノ一）　電　報　（十六）

発信　十六年十月十二日午後

宛先　ホ　ノ　ル

（一部ノ方ヘ電報セラレタシ）

十月十一日午後六時ノ東京放送ニ依レバ日米交渉ニ関シ近衛総理大臣ハ重大決意ヲ以テ最後ノ努力ヲ為スベキ旨ヲ閣議ニ於テ述ベタル趣ニテ愈々日米国交調整ニ関シ重大ナル段階ニ入レルモノト観測セラレ居レリ

本日午後二時ヨリ枢密院ニ於テ重大会議開催セラレタル趣ナルガ右ハ日米交渉ニ関スル御前会議ナリヤ

（一部ノ方ヘ電報セラレタシ）

22

2

Dic 1632 W(77)

イ、加護ヲ交渉ノ表面ニ出ス事ハ不可ナリ、首相ハ何レニヨルモ蔭ニ居ラレタシ

首相ハ自分ハ今尚此交渉ハ見込アリト思フ故ニ自分ハ此意見ニテ進ミタシ

外相ハ確信アリヤト云ハレテモ握手ノアルコトハ云ヘザルモ未ダ見込アリト思フ故確信ニハ云ヘザルモ未ダ見込アリト思フ

首相ノ発案ニテ左ノ如キ場合セヲナセリ

日米交渉ニ於テハ

(イ)信兵問題其之ヲ中心トスル諸懸案ヲ変更セサルコト

(ロ)支那事変ノ成果ニ関シ重大ナル犠牲ヲ以テ外交成功ヲ収メ得ルコトニ関シ暗々裡ニ諒解ヲ得ルコト

右確信ノ上ニ外交ノ妥結方針ニ進ム

右次心ヲ以テ進ムヲ以テ作戦上ノ計画ハ之ヲ打切ルコト

右ニ関シ外相トシテノ意見ヲ研究スルコト

以上

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21.11.12

A 4

外交資料

日米交渉記録ノ部

（昭和十六年二月ヨリ十二月マデ）

外務省調査

一　四七七頁　一

長官ニ於テハ今直ニ日支情況シヲ為ス意向ナク又
従来打切リハ困難ト為シツツアリ但今日ト雖モ従
来ノ程度ハ六シタモノニアラス平和恢復ノ進展次
第右ノ件々ハ最良ヲ見得ルカ如キ程度ニシテ只今
ノ所支那問題ヲ検討ハシニ攻撃ハントシツツアル
モ地方面ノ確実ナル情報ニ依レハ所要期間ノ陸兵
ハ要スルニ無期限陸兵ニシテ四、五年ヲ一期トシ
テ更ニ其ノ後ノ情勢ニ依ルコト、トスルナラハ別段
異議ノ理由ナカランモ無期限ニテハ非併合及主権
尊重ノ主義ニ背馳スルモノト見アルカ如シ

一　四八一頁　一

而シテ全面的撤兵ハ今日ノ所絶対不可能ナルコト
逃ヘ又支那問題ニ付米大統領カ紹介者トシテ蒋介
石ヲシテ日本ニ対シテ和平ヲ提議セシメ日本カ之
ニ応シテ交渉ニ入ル際我方ニ於テ米国カ和平ノ努
力ヲ妨碍セサルヘキコトヲ要求スルハ当然ノ儀ナ

15.

199

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

参面白紙

頁ニ話區ヲ最近ノ米國提供ヲ國連

一

力ナイト見ルノ外ナイト述ベ

ンゲ

底支那ヲ統治スベキノ能力ノ無イ國ニ

ンリー

市京政府ニ國ノ子米國ノ手ヲ受ケル必ス

シタキ命ノ侵害ヲ受ケ又ハ侵ス

國ノ主權ノ存スル限リ國ハ其ノ獨立ヲ

ス

ノ

國ニ對シ一ノ國ノ義

旨ハ合ト日本ヲ軍隊

條ニ付キ信賴シ得ル

約的ニ信賴スルト

國ト今次ノ日本

ヨットナイ

ンゲ

國連憲

一

四八頁 一

15-2

ニ關スル重大問題トシテ本件愼重審議ヲ重ネツツアル次第ヲ述ヘタルニ對シ充分之ヲ了解シ本使等カ我方トシテ右新提案ヲ少クトモ其ノ儘審議ノ基礎トシテ受諾スルハ到底不可能ナルヘシト力說シ既ニ折角六月二十一日案及右ヲ出來得ル限リ取入レタル九月二十五日案存在シ双方ノ合意モ相當進ミ居ルニ拘ラス之ヲ一擲シ今更新提案ニ依ル審議ヲ試ミルカ如キハ決シテ交渉ノ圓滿且急速ニ解決スル所以ニアラサルヘシト說キ本來米方ハ日支事變ノ解決又ハ東亞ニ公正ナル平和確立ノ場合ハ佛印ヨリ撤兵スヘキ旨提議シ居ルニ鑑ミ根本問題解決ヲ見ルニ於テハ本日御申入ノ問題ノ如キハ自然ニ解消スヘキ筋合ニアラサルヤト述ヘタルニ對シ同次官ハ多大ノ注意ヲ拂ヒ二十六日ノ米國提案ハ要スルニ米國ノ國內情勢ニモ鑑ミ一應米國ノ根本的建前ヲ明カニシ置ク必要ニ出テタルモノナル旨ヲ應酬シタル上右御意見ニ關シテハ早速長官トモ相談スヘシト答ヘ且日本側カ二十六日ノ米國提案ニ對スル回答等ニ於テ右樣ノ餘地ヲ存セラルルヲ望ムカ如キ口吻ヲ洩ラシタリ

一日ノ「ハル」長官トノ會見及本日ノ會見ニ依レハ米國側モ現下難局ノ平和的收拾ヲ希望シ居ルコト明カニシテ急速妥結ヲ計リタキ希望ナルコト充

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

15-2

分諒取セラルルニ付米國新提案ニ關スル問答及別電信一二三三號発言ニ對スル問答御審議ニ際シテハ此ノ點充分御考慮ニ加ヘラルル様致シ度シ

202

七月二日ニ開カレタ御前会議ニ於テ「変化スル狀勢ニ對處スベキ帝國ノ政策ノ要項」ガ決定サレタ。本政策ハ次ノ二ヲリナル。第一部ハ「政策」デアツテ、第二部ハ「要項」デアルノミヲ記ス。本件ハ國防機密ニ關スルモノデアルカラ、本情報ハ貴下ノ胸中ニノミ收メラレタイ。コノ内容ハ、上記ノ注意共々、陸海軍武官ニモ御傳達願ヒタイ。

政　策

一、日本帝國ハ、世界狀勢ガ如何ニ変化スルニ拘ハラズ、大東亞共榮圈ヲ樹立シ、世界平和ニ寄與スル政策ヲ堅持スル。意圖デアル。

二、帝國政府ハ、支那事変ヲ處理セントスル努力ヲ續行シ、ソノ自存自衛ノ基礎ヲ確立センガタメ南進スル目的ヲ以テ、諸施策ヲ行フ。

陸亘二〇七〇一

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

コ15 19228-1

（電信）

ローマ発
東京宛
千九百四十一年（昭和十六年）十二月三日
第九八五

貴下ノ第九八五電ベルリン向ケ通信ニ関スル件

本日、午前十一時、私ハ貴下ノ同僚、ムツソリーニ首相ヲ訪レタ（チアノ外相モ同席）。私ハベルリン宛貴電第九八六電ノ内容ニ従ッテ、日米交渉ノ進展状況ヲ説明シタ。

ムツソリーニ「会ハソモソモノ始メカラ日米会談ノ経過ヲ、注意深ク観テキタ、ダカラ余ハ貴下ノ報告ヲ受ケテモ少シモ驚カヌ。貴国国務トシテ、合衆国ノ全クノ頑固ト、ルーズヴエルト大統領ノ干渉好キノ性質ニ徴ミ、結果ハカネガネ予期サレテキタコト外ナラナイト私ハ申上ゲタイ。合衆国ノ目的ノ一ハ、経済的支場カラシテ、極東ヲ自己ノモノニスルコトデアル。日本ヲ先ヅ征伐カラ除キ、同シ然ル後ヨーロッパニ容喙セントスルノガアメリカ合衆国ノ意図ナラバ、同国ハ、日本ノ忠告、設営ナル任務ノタメニ、失敗スル運命ナルコトヲ余ハ初メヨリ信ジテキタ。

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

「閣下及ビ閣下ノ前任者モ知ラレル如ク、余ハ極東ニ新秩序ヲ創造センントスル日本ノ政策ヲ全幅的ニ是認スルモノダ。過去ニ於テ正當デアツタコトハ、現在ニ於テモ正當デアリ、又未來ニ於テサウデアラウ。余ハ、日本ハ大東亞地域ノ盟主タル悉ユル權利ヲ有スルト確信シテヰル一人デアル。」

私ハ引續イテカノ首相ト會見ノ内容ヲ首相ニ述ベタ。

（該書面第三節ニ關シ、私ハ……

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

15 昭二四

發・東京
宛・華盛頓
一九四一年十二月六日
第九〇二號（一四ノ一部）別電

日本ノ眞意ヲ充分ニ解セザル支那事變物議シテ以來、日本政府ハ、平和囘復ノ爲ニ努力シ、且、終始最善ノ努力ヲ盡クシテ戰爭動亂ノ擴大防止ニ努メ來ツタ。昨年九月、日本ガ獨伊兩國ト三國同盟ヲ締結セシモ亦、其ノ目的ノ爲デアツテ。

（二三九頁）

206

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 1

Doc 15-D

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 2

Doc 15-D

裏面白紙

NO 3

Doc 15-D

東京発信
昭二年
一九四一年十二月四日
大至急 オセニ五号(三ノ二)

往電オセ二号ニ関シ
一破綻ニ瀕セル日米国交ノ調整ニ付テハ日夜
腐心シ居ル庭内閣ニ於テハ閣僚木方針
ヲ審議スル為メ連日大本営政略会議ヲ
開催シ熱議ニ熱議ヲ重ネタル
結果当地時間四日午後(日本時間五日午前)
米交渉対案(別電オセ三号及オセ四号)ヲ
決定シ右八日(日本時間)ニ於テ帝国ノ態度ヲ
最後的ニ決スル為メ最根本国策ニ其ノ確
認ヲ得ツツアリト認メラレ居レリ
二帝国内外ノ事態ハ極メテ急迫ヲ告ゲ今ヤ
一日ヲモ猶ヨクスルヲ許サザル状態ニアルヲ痛
感シ居ル折柄本閣議ハ前記ノ如ク
決定シ右八日(日本時間)ニ於テ帝国ノ維持シ
得ル最後ノ試ニシテ我対案ハ
名実共ニ最終案ナリシ旨承知アリタク
尚ホシツモ米ニ於テ我提案ヲ
ウケ容レザル場合ニハ交渉ハ遂ニ
破綻ニ至ル外ナキ旨ヲ篤ト御
含ミ置キアリタシ
今次行掛リノ成否ハ
アリテ実ニ皇国興亡ノ
ニ関スルモノナリ

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

NO 4

Doc 15-D

陸軍一四三三號　電報　轉送　一九四一年四月十一日(S)

JD一三四四號ニ關シ

ABCD四國ニ關ハル日米關係ニ對スル基本的政策ニ關シ審議スル爲メ會議ノ大本營ト所謂ノ下ニ行ハレツツアル最後的決定ハ五日ノ午前中ニ行ハレルベキ事ヲ述ベタルモノナリ

右傳達アリタシ

東京發　一九四一年(昭和十六年)十一(一日)

ワシントン宛

第七三五號

一、往電第七二五號ニ關シ日米交渉ニ對スル新案ハ本五日ノ御前會議ニ於テ決定ヲ見タル筈ニテ大使ハ前電訓令ノ趣旨ニ基キ速ニ至急歸朝ノ用意セラレ度シ

210

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

21.11.12

1. 立 (b)

Doc 1449C Exh. 4

機密 二三九

現下ノ對米外交ニ關スル具申書ノ方針

情報局

情企第八號

昭和十六年十月三日閣議決定

取扱上ノ注意

一、本文中傍線（――）ヲ施シタル部分ハ官廳首腦部限ハ來締當局ノ參考トシテ度中ニ限スベキモノヲ、又傍點（、、、）ヲ施シタル部分ハ必要ニ應ジ所謂上特ニ慎重スルニ足ル民間指導層ニ其ノ要旨ヲ口頭シテ可ナルモノヲ示ス

二、其ノ他ノ部分ハ廣汎ニ具體ノ指導ニ利用スベキモノナルモ中央當局ニ於テ度適スルモノヲ除キ政府ノ發表意ハ指示事項トシテ公表スルコトハ之ヲ避クルヲ要ス

現下ノ對米外交ニ處スルニ當リテ最モ緊要ナル國策ノ遂行上政府ノ執ラントスル最後ノ努力ナリ然レドモ最シテ所期ノ成果ヲ得ルヤ得ザルヤ豫斷ヲ許サザルノミナラズ交渉ノ經過ニ於ハ開戰ニ至ルノ公算少シトセ

211

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

Doc 1449 C Stm 4

2.

ズ又假令妥結ニ到達スル場合ト雖モ現下ノ國際情勢ニ於テハ一日ノ猶安ヲ許サズ國民生活ノ窮迫ニモ亦大ナル變化ナキモノト豫想セラルル仍テ此ノ際國民ヲシテ卷目ノ浮說ニ惑ハサレシメズ又對手國位ニ第三國ノ謀略ニ乘ゼラレシメズ上下一致必勝不敗ノ態勢ヲ準備セシムル爲國ノ下ニ長期戰爭ノ方針ヲ執スルコト左ノ如シ

方針

一、政、兩、悪、諸、勢、ヲ排除シ擧國ナル國民的結束ノ下ニ速ニ戰時經濟ノ轉化ニ邁進セシム

要領

一、國際情勢就中日米國關係ガ最近ニ至ル空前ノ緊張ヲ示シ時局ヲ自然ノ推移ニ委センニハ往往ノ不測ヲ如何ナル所ニ發生スルヤモ測リ難キ客觀的事實ノ報道ハ之ヲ歪曲シ又ハ誇張セザル限リ特ニ抑制セズ

但シ對手國又ハ第三國ノ謀略宣傳ニ乘ゼラレザル ト共ニ眞理愛護ヲシテ須臾モ國內ノ希望ヲ抱カシメザルコトニ留意ス

二、特ニ左ノ點ヲ强調ス

(一)皇國ハ前述ノ如キ情勢ノ下ニ於テ米國トノ意見不一致ヲ調整シツツ既定國策(イ)支那事變ヲ既

裏面白紙

3.　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Doc 1449 C Item 4

定方針ニヨリ保全スルコト（ロ）皇國ノ自存自衛ヲ全ウスル為大東亜共栄圏ヲ確立スルコト）ヲ遂行センコトヲ期シ外交的平和的ノ全努力ヲ傾注シテ太平洋ノ平和維持ニ努メツツアリ

(二) 國交ノ調整ハ彼我互譲ノ基礎ノ上ニ成立スベク皇國ハ其ノ自存自衛ヲ全ウシ既定國策ヲ遂行シ得ル限リニ於テ米國トノ意見一致ヲ期ス

(三) 我ガ方ノ互譲態度ニハ自ラ限度アリ従テ交渉不調ニ終リ或ハ時局急變シテ最悪ノ事態ニ突入スルナキヲ保セズ故ニ國民ハ此ノ際特ニ　皇國ノ最後的努力萬一ニモ奏効セザル場合ノ覺悟ヲ當然ノ準備トシテ腹中ニ固メ置カザルベカラズ

四 對米國民ノ自然的感情ニ對シテハ煽情的言辭ヲ以テ單ニ攻撃ノ為ノ攻撃ヲ為スガ如キ[illegible]ヲ避ケ嚴正堂然タル理論ヲ以テ米國國民ノ反省ニ資セシムル如ク指導ス

又日米國交調整ヲ以テ時局打開ノ唯一ノ途ナリトシテ米英ニ媚態ヲ呈シ或ハ條件ノ如何ニ拘ラズ平和ヲ欲求スルガ如キ態度ヲ以テ外交ノ軟弱性ヲ暴露ナラシムルガ如キ言論ハ嚴ニ之ヲ排除[illegible]ス

五 三國同盟ニ關シテハ日米交渉ノ變遷如何ニ拘ラズ嚴然之ヲ尊重持續セラルルモノナルニ鑑ミ同盟[illegible]國ニ對スル[illegible]ハ之ヲ排除スルコトナシ

4

Doc 1449C Item 4

然、レ、ド、モ、日、来、又、於、其、ノ、セ、ノ、ヲ、以、テ、同、盟、ノ、信、義、ヲ、害、
ニ、ス、ル、モ、ノ、ト、ナ、シ、又、皇、国、ノ、運、命、ヲ、賭、シ、盛、衰、向、背、
従、ヒ、托、セ、ン、ト、ス、ル、ガ、如、キ、亜、細、亜、ヲ、以、テ、外、交、ノ、自、主、
ヲ、依、ル、ン、東、ス、ル、ガ、如、キ、言、論、ハ、之、ヲ、排、除、ス、
自、ラ、拘、束、

（終）

14

裏面白紙

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

1449 C

證明書

第一四四九C号（第四項）

「ワシントン」文書局
國際捜査部

典據及ビ公正ニ関ス証明

余、林譽ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ、即チ日本外務省文書課長トシテ、日本政府ト公的関係ニ在リシモノナルコト、注ニ該当スル文書ヲ余ガ茲ニ添附セラレタル四頁ヨリ成ル、千九百四拾壱年/昭和拾六年/拾月拾日附、下記題名ノ郵チ千九百四拾壱年/昭和拾六年/拾月拾日ノ閣議ニ於テ決定サレタル情報局ノ対米外交ニ対スル輿論指導方針ノ文書ノ保管者ヨリ受領シタル原本ノ正確ナル写ナルコト、及ビ茲ニ添附ノ写ハ右文書ノ原本ニ基キ作成セラレタルモノナルコトヲ証明ス（茲ニ言フ文書トハ、注ニ右ガ下記題名ノ郵チ千九百四拾壱年/昭和拾六年/拾月拾日ノ閣議ニ於テ決定サレタル情報局ノ対米外交ニ対スル輿論指導方針ノ文書ノ保管者ヨリ受領シタル原本ノ正確ナル写ナルコト、及ビ茲ニ添附ノ写ハ右文書ノ原本ニ基キ作成セラレタルモノナルコトヲ証明ス（茲ニ言フ文書トハ、注ニ右ガ下記題名ノ郵チ千九百四拾壱年/昭和拾六年/拾月拾日ノ閣議ニ於テ決定サレタル情報局ノ対米外交ニ対スル輿論指導方針ノ文書ノ保管者ヨリ受領シタル原本ノ正確ナル写ナルコト、及ビ茲ニ添附ノ写ハ右文書ノ原本ニ基キ作成セラレタルモノナルコトヲ証明ス）

外務省

千九百四十六年/昭和二十一年/十一月六日
東京ニ於テ署名

林　譽　署名擦印
文書課長

当該官吏ノ公的資格

尾台長春　署名擦印
人

証明

公式入手ニ関スル証明

余、GA. CURTIS、ジェイ、エイ、カーティス、ハ、余ガ聯合國最高捕捉官總司令部ノ関係スルモノナルコト、並ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上、日本政府ノ上記署名官吏ヨリ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ証明ス

千九百四十六年/昭和二十一年/十一月七日
東京ニ於テ署名

氏名　GA. CURTIS/ジェイ、エイ、カーティス/署名
右署名ノ公的資格　國際捜査部調査官
人

証

裏面白紙